

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	コクリツガクカクホジシヤイタマク 国立大学法人埼玉大学									
フリガナ大学の名称	サイタマクカクガクイン 埼玉大学大学院 (Graduate School of Saitama University)									
大学本部の位置	埼玉県さいたま市桜区下大久保255									
大学の目的	国立大学法人埼玉大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	地域の教育ニーズを踏まえ、複雑化し多様化する学校現場の課題を解決し、学校改革の中核を担う教師像を設定し、教育に関わる「高度な専門性」を備えた教員の養成を目指すとともに、個々の能力を高める「高度化」にとどまらず、豊かな人間性と社会性を育成するため、「専門性」の垣根や「専門性」と「非専門性」の垣根を越え、関係的な力を編み直す「協働化」も見据えた教員の養成を目指す。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教職大学院 14条特例の実施	
	教育学研究科 [Graduate School of Education] 教職実践専攻 [Course for Teaching Professionals]	2年	52人	—人	104人	教職修士（専門職） 【Master of Education (Professional)】	令和3年4月 第1年次	埼玉県さいたま市桜区下大久保255		
	計		52	—	104					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	教育学研究科（修士課程） 学校教育専攻（廃止）（△15） 教科教育専攻（廃止）（△27） （専門職学位課程）教職実践専攻（廃止）（△20） ※令和3年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	教育学研究科教職実践専攻	講義	演習	実験・実習	計	46単位				
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	教授	准教授	講師	助教	計	助手			
組	教育学研究科 教職実践専攻			12人 (12)	6人 (6)	0人 (0)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	72人 (72)
	計			12 (12)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	— (—)
織	人文社会科学研究科 (博士前期課程) 文化環境専攻			32 (31)	9 (11)	1 (0)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	0 (0)
	国際日本アジア専攻			33 (24)	20 (14)	0 (0)	0 (0)	53 (38)	0 (0)	0 (0)
	経済経営専攻			22 (27)	20 (17)	2 (2)	0 (0)	44 (46)	0 (0)	0 (0)
	(博士後期課程) 日本アジア文化専攻			15 (18)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	21 (24)	0 (0)	0 (0)
	経済経営専攻			20 (22)	13 (10)	0 (0)	0 (0)	33 (32)	0 (0)	8 (0)
	理工学研究科 (博士前期課程) 生命科学系専攻			12 (12)	5 (5)	2 (2)	7 (7)	26 (26)	0 (0)	1 (1)
	物理機能系専攻			11 (11)	12 (12)	0 (0)	7 (7)	30 (30)	0 (0)	1 (1)
	化学系専攻			14 (14)	9 (9)	3 (3)	7 (7)	33 (33)	0 (0)	1 (1)
	数理電子情報系専攻			18 (18)	19 (19)	0 (0)	16 (16)	53 (53)	0 (0)	1 (1)
	機械科学系専攻			11 (11)	11 (11)	0 (0)	6 (6)	28 (28)	0 (0)	0 (0)
の	環境システム工学系専攻			13 (13)	12 (12)	0 (0)	11 (11)	36 (36)	0 (0)	0 (0)
	(博士後期課程) 理工学専攻			79 (79)	68 (68)	0 (0)	9 (9)	156 (156)	0 (0)	60 (60)
	計			166 (161)	117 (110)	8 (7)	54 (54)	345 (332)	0 (0)	— (—)
要	合計			178 (173)	123 (116)	8 (7)	54 (54)	363 (350)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		167 (167) 人	0 (0) 人	167 (167) 人				
	技 術 職 員		33 (33)	0 (0)	33 (33)				
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)				
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)				
	計		207 (207)	0 (0)	207 (207)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	167,509 m ²	0 m ²	0 m ²	167,509 m ²				
	運 動 場 用 地	95,531 m ²	0 m ²	0 m ²	95,531 m ²				
	小 計	263,040 m ²	0 m ²	0 m ²	263,040 m ²				
	そ の 他	131,504 m ²	0 m ²	0 m ²	131,504 m ²				
	合 計	394,544 m ²	0 m ²	0 m ²	394,544 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		140,745 m ² (140,745 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	140,745 m ² (140,745 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	92 室	82 室	282 室	4 室 (補助職員 0 人)	2 室 (補助職員 0 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		教育学研究科 教職実践専攻		18 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位での特定不能なため、大学全体の数	
	教育学研究科 教職実践専攻	895,210 [276,263] (895,210 [276,263])	22,065 [5,559] (22,065 [5,559])	13,579 [13,567] (13,579 [13,567])	2,484 (2,484)	4,202 (4,202)	0 (0)		
	計	895,210 [276,263] (895,210 [276,263])	22,065 [5,559] (22,065 [5,559])	13,579 [13,567] (13,579 [13,567])	2,484 (2,484)	4,202 (4,202)	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数		大学全体			
	8,439 m ²	919		911,944					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	4,474 m ²	野球場		テニスコート他					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次 — 千円	第2年次 — 千円	第3年次 — 千円	第4年次 — 千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		—							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	埼玉大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	教養学部	年	人	年次人	人		倍		埼玉県さいたま市桜区下大久保255
	教養学科	4	160	3年次 30	700	学士(教養)	1.05	昭和40	
	経済学部								同上
	経済学科(昼間コース)	4	280	3年次 10	1,140	学士(経済学)	1.06	平成27	
	経済学科(夜間主コース)	4	15	—	60	学士(経済学)	1.06	平成27	
	教育学部								同上
学校教育教員養成課程	4	360	—	1,490	学士(教育学)	1.02	平成11		
養護教諭養成課程	4	20	—	80	学士(教育学)	1.02	平成18		

理学部							1.04		埼玉県さいたま市 桜区下大久保255	
数学科	4	40	—	160	学士(理学)		1.07	平成7		
物理学科	4	40	—	160	学士(理学)		1.02	平成7		
基礎化学科	4	50	—	200	学士(理学)		1.04	平成7		
分子生物学科	4	40	—	160	学士(理学)		1.06	平成7		
生体制御学科	4	40	—	160	学士(理学)		1.04	平成7		
工学部							1.03		同上	
機械工学・システムデザイン学科	4	110	—	330	学士(工学)		1.03	平成30		
電気電子物理工学科	4	110	—	330	学士(工学)		1.01	平成30		
情報工学科	4	80	—	240	学士(工学)		1.06	平成30		
応用化学科	4	90	—	270	学士(工学)		1.03	平成30		
環境社会デザイン学科	4	100	—	300	学士(工学)		1.01	平成30		
機械工学科	4	—	—	—	学士(工学)		—	平成5		※平成30年度より 学生募集停止
電気電子システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)		—	平成7		※平成30年度より 学生募集停止
情報システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)		—	平成7		※平成30年度より 学生募集停止
応用化学科	4	—	—	—	学士(工学)		—	平成4		※平成30年度より 学生募集停止
機能材料工学科	4	—	—	—	学士(工学)		—	平成4		※平成30年度より 学生募集停止
建設工学科	4	—	—	—	学士(工学)		—	平成5		※平成30年度より 学生募集停止
環境共生学科	4	—	—	—	学士(工学)		—	平成20		※平成30年度より 学生募集停止
人文社会科学部 研究科 (博士前期課程)							1.00		同上	
文化環境専攻	2	20	—	40	修士(学術)		1.20	平成27		
国際日本アジア専攻	2	38	—	76	修士(学術)		0.95	平成27		
経済経営専攻	2	22	—	44	修士(経済学) 修士(経営学)		0.90	平成27		
(博士後期課程)							0.97			
日本・アジア文化専攻	3	4	—	12	博士(学術)		1.08	平成27		
経済経営専攻	3	12	—	36	博士(経済学) 博士(経営学)		0.94	平成27		
教育学研究科 (修士課程)							1.06		同上	
学校教育専攻	2	15	—	30	修士(教育学)		1.23	平成2		※令和3年度より 学生募集停止予定
教科教育専攻	2	27	—	54	修士(教育学)		0.98	平成2		※令和3年度より 学生募集停止予定
(専門職学位課程)							1.00			
教職実践専攻	2	20	—	40	教職修士(専門職)		1.00	平成28		※令和3年度より 学生募集停止予定
理工学研究科 (博士前期課程)							1.06		同上	
生命科学系専攻	2	55	—	110	修士(理学)		0.92	平成18		
物理機能系専攻	2	59	—	118	修士(理学) 修士(工学)		0.96	平成18		
化学系専攻	2	65	—	130	修士(理学) 修士(工学)		1.05	平成18		
数理電子情報系専攻	2	108	—	216	修士(理学) 修士(工学)		1.13	平成18		
機械科学系専攻	2	59	—	118	修士(工学)		1.24	平成18		
環境システム工学系専攻	2	62	—	124	修士(工学)		1.02	平成18		
(博士後期課程)							0.86			
理工学専攻	3	56	—	168	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学)		0.86	平成18		

附属施設の概要	<p>名称: 教育学部附属幼稚園 目的: 附属学校園の基本的な社会的使命（教育の研究と実践・実証、学生の教育実習並びに研究の指導、地方教育への協力と指導）を達成することを重視し、かつ地域のモデル校としての業務を推進することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市浦和区常盤8-13-1 設置年月: 昭和26年4月 規模等: 土地 4,198㎡ 建物 666㎡</p>	
	<p>名称: 教育学部附属小学校 目的: 附属学校園の基本的な社会的使命（教育の研究と実践・実証、学生の教育実習並びに研究の指導、地方教育への協力と指導）を達成することを重視し、かつ地域のモデル校としての業務を推進することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-9-44 設置年月: 昭和24年5月 規模等: 土地 19,533㎡ 建物 7,243㎡</p>	
	<p>名称: 教育学部附属中学校 目的: 附属学校園の基本的な社会的使命（教育の研究と実践・実証、学生の教育実習並びに研究の指導、地方教育への協力と指導）を達成することを重視し、かつ地域のモデル校としての業務を推進することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市南区別所4-2-5 設置年月: 昭和24年5月 規模等: 土地 33,399㎡ 建物 7,064㎡</p>	
	<p>名称: 教育学部附属特別支援学校 目的: 附属学校園の基本的な社会的使命（教育の研究と実践・実証、学生の教育実習ならびに研究の指導、地方教育への協力と指導）を達成することを重視し、かつ地域のモデル校としての業務を推進することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市北区日進町2-480 設置年月: 平成19年4月 規模等: 土地 14,445㎡ 建物 3,408㎡</p>	
	<p>名称: 教育学部附属教育実践総合センター 目的: 教育の臨床の学の基本理念に基づき、学内外の関係諸機関との連携のもとに教育実践に関する理論的かつ実際的研究及び教育を行い、教員養成に資するとともに、家庭、学校及び地域社会と協力し、子どもたちの学びの場の創造とその成長をめぐる問題の解決に寄与することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-9-44 設置年月: 平成13年4月 規模等: 土地 19,533㎡ 建物 532㎡</p>	
	<p>名称: 教育学部附属特別支援教育臨床研究センター 目的: 特別支援教育の臨床の学の基本理念に基づき、学内外の関係諸機関との連携のもとに教育実践に関する研究及び教育を行い、特別支援教育の臨床と研究に資するとともに、家庭、学校及び地域社会と協力し、障害のある幼児児童生徒の成長と発達をめぐる問題の解決に寄与することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市北区日進町2-480 設置年月: 平成28年4月 規模等: 土地 14,445㎡ 建物 351㎡</p>	
	<p>名称: 教育機構基盤教育研究センター 目的: 全学的な教育に係る事項の企画案の作成及び決定された企画の実施を行うことを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月: 平成25年10月 規模等: ー</p>	
	<p>名称: 教育機構英語教育開発センター 目的: 埼玉大学における英語教育の質の向上を図るため、英語教育に関する企画・立案を行い、実施することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月: 平成24年4月 規模等: ー</p>	
	<p>名称: 教育機構日本語教育センター 目的: 埼玉大学における学生の日本語力の向上を図るため、質の高い教育を提供することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月: 平成24年4月 規模等: ー</p>	
	<p>名称: 教育機構アドミッションセンター 目的: アドミッション・ポリシーに応じた入学選抜を実現するための具体的方策を企画・立案し、円滑な入学選抜の実施を図ることを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月: 平成24年4月 規模等: ー</p>	
<p>名称: 教育機構統合キャリアセンターSU 目的: 学生の就職・生活に関する総合的な支援を企画立案及び実施するとともに、免許状更新講習を企画及び実施することを目的とする。 所在地: 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月: 平成28年4月 規模等: ー</p>		

<p>名称：教育機構保健センター 目的：学生及び教職員の保健管理に関する業務を行うことを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 167,509㎡ 建物 424㎡</p>	
<p>名称：研究機構オープンイノベーションセンター 目的：企業等の法人、地方公共団体等公的機関、他大学などとの共同研究及び研究交流を推進するとともに、埼玉大学における知的財産の創出、取得及び管理並びに技術移転の促進を図り、地域の企業等における技術革新、生産革新、経営革新、事業革新、情報革新、組織革新等のオープンイノベーションに対して中核機関として貢献することにより、埼玉大学の教育研究の進展に寄与するとともに地域社会の産業、文化、福祉及び教育の向上に資することを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 167,509㎡ 建物 1,140㎡</p>	
<p>名称：研究機構先端産業国際ラボラトリー 目的：埼玉大学と地域企業等の法人、他大学・研究機関、地方公共団体等公的機関、金融機関などとの連携による先端産業分野の研究開発、起業、創出等及び共創ネットワーク形成を推進し、並びに文理融合の連携による国際的な産業技術動向の把握及び研究開発の推進を図り、イノベーション創出及び地域社会への貢献を目指すことを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：平成28年4月 規模等：－</p>	
<p>名称：研究機構東アジアSD研究センター 目的：埼玉大学における研究拠点として、東アジア地域の研究を推進するため、文理融合及び複合科学的見地から東アジア地域の持続的発展に向けての必要な研究を行い、その成果の社会への還元を目指すことを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：令和元年7月 規模等：－</p>	
<p>名称：研究機構グリーンバイオ研究センター 目的：埼玉大学における研究拠点として、植物機能関連研究及び植物バイオテクノロジー関連技術研究の推進を図り、その成果の社会への還元を目指すことを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：令和元年7月 規模等：－</p>	
<p>名称：研究機構宇宙観測研究センター 目的：埼玉大学における研究拠点として、特に多波長にわたる機動的、有機的な観測を基礎とした国内外の諸機関との共同研究を行い、天体の形成・進化及び物質・エネルギーの生成・循環について宇宙物理学の研究を推進し、その成果の社会への還元を目指すことを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：令和元年7月 規模等：－</p>	
<p>名称：研究機構生命理工学連携研究センター 目的：埼玉大学における研究拠点として、生命科学分野での基礎・応用研究の推進を図るため、生命科学、理学及び工学的見地から生命機能の解明及び産業への応用並びに生命機能の破綻に起因する疾患の発症機能等に関する研究を推進し、その成果の社会への還元を目指すことを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：令和元年7月 規模等：－</p>	
<p>名称：研究機構レジリエント社会研究センター 目的：埼玉大学における研究拠点として、激甚災害の世界的な増加を背景に、防災・減災工学にかかわる研究に加え、災害から社会が速やかに回復するために、リスク発生前後の人間の行動学、リスクの対応主体である住民の意識改革や政策面での改革まで含めた研究の推進を図るため、複合科学的見地から真のレジリエント社会構築に向けて必要な研究を行い、その成果の社会への還元を目指すことを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：平成26年4月 規模等：－</p>	
<p>名称：研究機構社会調査研究センター 目的：センターの活動を通して地域社会への貢献及び学術上での寄与を図ることを目的とする。 所在地：埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月：令和2年4月 規模等：－</p>	

<p>名称： 研究機構科学分析支援センター 目的： 生命科学分析、機器分析及び環境分析に関わる各分野が有機的な連携を保ちつつ、埼玉大学内における教育・研究のための共同利用を支援すると共に、科学分析技術の研究・開発を行うことを目的とする。 所在地： 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月： 昭和55年4月 規模等： ー</p>	
<p>名称： 研究機構総合技術支援センター 目的： 埼玉大学の各部局等の要請に応え、埼玉大学における教育・研究・大学運営の充実・高度化及び教育・研究活動に係る基盤の整備・強化を専門的・技術的に支援し、埼玉大学の目的・目標の達成に資することを目的とする。 所在地： 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月： 平成24年4月 規模等： ー</p>	
<p>名称： 研究機構リサーチ・アドミニストレーターオフィス 目的： 埼玉大学における研究推進体制・機能の充実強化及び研究者の研究活動の支援強化を目指すことを目的とする。 所在地： 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月： 平成26年1月 規模等： ー</p>	
<p>名称： 情報メディア基盤センター 目的： 埼玉大学における全学的な情報基盤の整備・運用及び情報基盤に係る研究開発を行うことを目的とする。 所在地： 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月： 平成16年10月 規模等： ー</p>	
<p>名称： 国際開発教育研究センター 目的： 世界の平和と持続的な経済・社会の発展に寄与するため、教育・研究に関する企画・立案を行い、実施することを目的とする。 所在地： 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 設置年月： 平成24年4月 規模等： ー</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「ー」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(埼玉大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程の課題探求 子ども共育の理論と実践 教科の教育課程構成論	1①～② 1①～② 1①～②	2 4 2				○ ○ ○	5 2					兼1 兼7 兼55	オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教科指導の課題探求 特別支援教育の課題探求 教科指導の発展・応用	1①～② 1①～② 1①～②	2 2 2				○ ○ ○	1 1 3	1				兼9 兼2 兼45	オムニバス・共同(一部) ※講義 オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)
	生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の課題探求 特別支援教育コーディネータ演習 子供の発達と保健室における養護教諭の実践	1①～② 1①～② 1①～②	2 2 2				○ ○ ○	2 2 2	2				兼1 兼1 兼1	オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)
	学級経営、学校経営に関する領域	教育経営の課題探求 学校構想の理論と実践 現代の健康問題と学校保健の実践的課題	1①～② 1①～② 1①～②	2 2 2				○ ○ ○	1 3 2	1				兼3 兼1	共同 オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)
	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校と教職の課題探求 学校課題改善演習	1通 1①～②	4 2				○ ○	8 3	1				兼1 兼4	オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)
	小計(14科目)			12	20	0			12	6	0	0	0	兼72	
	実習 学校 目 お ける	実地研究Ⅰ	1通	4				○	9	4				兼69	
		実地研究Ⅱ	2通	6				○	9	4				兼69	
		実地研究Ⅰ(特別支援教育)	1通	4				○	1					兼2	
		実地研究Ⅱ(特別支援教育)	2通	6				○	1					兼2	
実地研究Ⅰ(学校保健)		1通	4				○	2	2				兼1		
実地研究Ⅱ(学校保健)		2通	6				○	2	2				兼1		
小計(6科目)			0	30	0			12	6	0	0	0	兼72		
課題 研 究	課題研究Ⅰ	1通	2				○	9	4				兼69		
	課題研究Ⅱ	2通	2				○	9	4				兼69		
	課題研究Ⅰ(特別支援教育)	1通	2				○	1					兼2		
	課題研究Ⅱ(特別支援教育)	2通	2				○	1					兼2		
	課題研究Ⅰ(学校保健)	1通	2				○	2	2				兼1		
	課題研究Ⅱ(学校保健)	2通	2				○	2	2				兼1		
小計(6科目)			0	12	0			12	6	0	0	0	兼72		
総合 教育 高度 化 プ ロ グ ラ ム 科 目	学校構想サブ プログラム科 目	学級づくり論	1③～④	2				○	3	1				兼1	オムニバス・共同(一部)
		学校と社会論	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		学校と児童生徒理解の心理学	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		学校臨床心理学実践演習	1③～④	2				○						兼2	オムニバス・共同(一部)
		心理学的方法の活用と探求	1③～④	2				○						兼2	オムニバス・共同(一部)
		カウンセリング実践演習	1③～④	2				○						兼2	オムニバス・共同(一部)
		心理・学習評価演習	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		総合・道徳開発演習	1③～④	2				○	3	1				兼1	オムニバス・共同(一部) ※講義
		教育工学開発演習	1③～④	2				○						兼1	※講義
	特別支援教育 サブプログラム 科目	発達臨床アセスメント演習	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		特別支援教育実践研究	1③～④	2				○	1					兼2	オムニバス・共同(一部)
		障害児教育実践の課題探求法	1③～④	2				○	1					兼1	
		インクルーシブ教育演習	1③～④	2				○						兼1	
		障害児心理学の実践と課題A	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		障害児心理学の実践と課題B	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
	学校保健サブ プログラム科 目	学校保健の理論と実践の探求	1③～④	2				○	1	1				兼1	オムニバス・共同(一部) ※講義
		保健教育の実践と課題の探求	1③～④	2				○	1	1				兼1	オムニバス・共同(一部) ※講義
		保健管理の実践と課題の探求	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		養護教諭の専門家としての成長	1③～④	2				○		2				兼1	オムニバス・共同(一部) ※講義
		教育生理の臨床と子供の成長課題	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
	子ども共育サ ブプログラム 科目	子ども支援の実践と制度	1③～④	2				○						兼2	共同
		保育内容と指導の課題探求	1③～④	2				○						兼2	共同
		子どもの発達と教育相談の課題探求	1③～④	2				○						兼2	オムニバス・共同(一部)
		<教育-社会-環境>基礎論	1③～④	2				○	1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		子ども認識の思想と構造	1③～④	2				○						兼2	オムニバス・共同(一部)
		子育て支援開発探求	1③～④	2				○						兼2	オムニバス・共同(一部)
		幼児の音楽表現の開発探求	1③～④	2				○						兼2	共同 ※講義
小計(27科目)				0	54	0			10	3	0	0	0	兼17	

言語文化系教育サブプログラム科目	言語文化系教育の理論と実践A (国語)	1③～④	2		○							兼6	オムニバス・共同 (一部)	※演習
	言語文化系教育の理論と実践B (英語)	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	言語文化系教育の授業内容探求A (国語)	1③～④	2		○							兼3	オムニバス・共同 (一部)	※演習
	言語文化系教育の授業内容探求B (国語)	1③～④	2		○							兼3	オムニバス・共同 (一部)	※演習
	言語文化系教育の授業内容探求C (英語)	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	言語文化系教育の授業内容探求D (英語)	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	言語文化系教育の教材研究と実践A (国語)	1③～④	2		○							兼2	オムニバス・共同 (一部)	※演習
	言語文化系教育の教材研究と実践B (国語)	1③～④	2		○							兼2	オムニバス・共同 (一部)	※演習
	言語文化系教育の教材研究と実践C (英語)	1③～④	2			○						兼1		
	言語文化系教育の教材研究と実践D (英語)	1③～④	2			○						兼1		
社会系教育サブプログラム科目	社会科教育の理論と実践A	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	社会科教育の理論と実践B	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	社会科教育の授業内容探求	1③～④	2			○						兼6	オムニバス・共同 (一部)	
	社会科教育の教材研究と実践A	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
	社会科教育の教材研究と実践B	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
自然科学系教育サブプログラム科目	自然科学系教育の理論と実践A (算数・数学)	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	自然科学系教育の理論と実践B (理科)	1③～④	2			○		1				兼1	オムニバス・共同 (一部)	
	自然科学系教育の授業内容探求A (算数・数学)	1③～④	2			○						兼1		
	自然科学系教育の授業内容探求B (算数・数学)	1③～④	2			○						兼1		
	自然科学系教育の授業内容探求C (理科)	1③～④	2			○						兼4	オムニバス・共同 (一部)	※講義
	自然科学系教育の授業内容探求D (理科)	1③～④	2			○						兼4	オムニバス・共同 (一部)	
	自然科学系教育の教材研究と実践A (算数・数学)	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	自然科学系教育の教材研究と実践B (算数・数学)	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	中核的理科教員 (C S T) 養成講座	1③～④	4			○		1				兼9	オムニバス・共同 (一部)	
	芸術系教育サブプログラム科目	芸術系教育の理論と実践A (音楽)	1③～④	2			○						兼4	オムニバス・共同 (一部)
芸術系教育の理論と実践B (図工・美術)		1③～④	2			○						兼5	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の授業内容探求A (音楽)		1③～④	2			○						兼4	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の授業内容探求B (音楽)		1③～④	2			○						兼4	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の授業内容探求C (図工・美術)		1③～④	2			○						兼5	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の授業内容探求D (図工・美術)		1③～④	2			○						兼5	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の教材研究と実践A (音楽)		1③～④	2			○						兼4	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の教材研究と実践B (音楽)		1③～④	2			○						兼4	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の教材研究と実践C (図工・美術)		1③～④	2			○						兼5	オムニバス・共同 (一部)	
芸術系教育の教材研究と実践D (図工・美術)		1③～④	2			○						兼5	オムニバス・共同 (一部)	
身体文化系教育サブプログラム科目	体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求	1③～④	2			○		1				兼1	共同	
	体育・保健体育科教育の理論と実践A	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	体育・保健体育科教育の理論と実践B	1③～④	2		○							兼2	オムニバス・共同 (一部)	※演習
	体育・保健体育科教育の教材研究と実践A	1③～④	2			○		1				兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	体育・保健体育科教育の教材研究と実践B	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
生活創造系教育サブプログラム科目	技術科教育の理論と実践	1③～④	2			○						兼5	オムニバス・共同 (一部)	
	技術科教育の授業内容探求A	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
	技術科教育の授業内容探求B	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
	家庭科教育の理論と実践	1③～④	2			○						兼2	オムニバス・共同 (一部)	
	家庭科教育の授業内容探求A	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
	家庭科教育の授業内容探求B	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
	技術科教育の教材研究と実践A	1③～④	2			○						兼2	共同	
	技術科教育の教材研究と実践B	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
	家庭科教育の教材研究と実践A	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
	家庭科教育の教材研究と実践B	1③～④	2			○						兼3	オムニバス・共同 (一部)	
小計 (49科目)	—	0	100	0	—		0	2	0	0	0	兼55		
全科目にかか	現代的・地域教育課題の共同探求	1③～④	2			○		4	1				共同	
	探求活動演習 I	1通		2		○		12	6				兼72	
	探求活動演習 II	2通		2		○		12	6				兼72	
小計 (3科目)	—	0	2	4	—		12	6	0	0	0	兼72		
合計 (105科目)		—	12	218	4	—		12	6	0	0	0	兼72	
学位又は称号		教職修士 (専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
(1) 共通科目							1学年の学期区分		4学期					
「教育課程の課題探求」(2単位)、「教科指導の課題探求」(2単位)、「生徒指導・教育相談の課題探求」(2単位)、「教育経営の課題探求」(2単位)、「学校と教職の課題探求」(4単位)の計12単位は全員必修とする。							1学期の授業期間		8週					
・学校構想サブプログラムは、上記共通5科目(12単位)に加え、「学校構想の理論と実践」(2単位)、「学校課題改善演習」(2単位)を必修とし、計16単位を履修する。							1時限の授業時間		90分					
・特別支援教育サブプログラムは、上記共通5科目(12単位)に加え、「特別支援教育の課題探求」(2単位)、「特別支援教育コーディネータ演習」(2単位)を必修とし、計16単位を履修する。														

・学校保健サブプログラムは、上記共通5科目(12単位)に加え、「子供の発育発達と保健室における養護教諭の実践」(2単位)、「現代の健康問題と学校保健の実践的課題」(2単位)を必修とし、計16単位を履修する。
・子ども共育サブプログラムは、上記共通5科目(12単位)に加え、「子ども共育の理論と実践」(4単位)を必修とし、計16単位を履修する。
・教科教育高度化プログラムの各サブプログラムは、上記共通5科目(12単位)に加え、「教科の教育課程構成論」(2単位)、「教科指導の発展・応用」(2単位)を必修とし、計16単位を履修する。

(2) 学校における実習科目

特別支援教育サブプログラム及び学校保健サブプログラム以外のサブプログラムは、「実地研究Ⅰ」(4単位)、「実地研究Ⅱ」(6単位)を必修とし計10単位を履修する。

特別支援教育サブプログラムは、「実地研究Ⅰ(特別支援教育)」(4単位)、「実地研究Ⅱ(特別支援教育)」(6単位)を必修とし計10単位を、学校保健サブプログラムは、「実地研究Ⅰ(学校保健)」(4単位)、「実地研究Ⅱ(学校保健)」(6単位)を必修とし計10単位を履修する。ただし、短期履修制度により1年間で修了する者は、「実地研究Ⅱ」又は「実地研究Ⅱ(特別支援教育)」又は「実地研究Ⅱ(学校保健)」の履修を免除する。

(3) 課題研究

特別支援教育サブプログラム及び学校保健サブプログラム以外のサブプログラムは、「課題研究Ⅰ」(2単位)、「課題研究Ⅱ」(2単位)を必修とし計4単位を履修する。

特別支援教育サブプログラムは、「課題研究Ⅰ(特別支援教育)」(2単位)、「課題研究Ⅱ(特別支援教育)」(2単位)を必修とし計4単位を、学校保健サブプログラムは、「課題研究Ⅰ(学校保健)」(2単位)、「課題研究Ⅱ(学校保健)」(2単位)を必修とし計4単位を履修する。

(4) 各サブプログラム科目等

・学校構想サブプログラム

学校構想サブプログラム科目の「学級づくり論」(2単位)、「学校と社会論」(2単位)、「学校と児童生徒理解の心理学」(2単位)、「学校臨床心理学実践演習」(2単位)の4科目から3科目(6単位)を選択必修とし履修する。

また、「心理学的方法の活用と探求」(2単位)、「カウンセリング実践演習」(2単位)、「心理・学習評価演習」(2単位)、「総合・道徳開発演習」(2単位)、「教育工学開発演習」(2単位)の5科目から2科目(4単位)を選択必修とし履修する。

さらに、前述の選択必修で履修した5科目(10単位)以外の学校構想サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」(2単位)の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・特別支援教育サブプログラム

特別支援教育サブプログラムの「発達臨床アセスメント演習」(2単位)、「特別支援教育実践研究」(2単位)、「障害児教育実践の課題探求法」(2単位)の3科目計6単位を必修とし履修する。

また、「インクルーシブ教育演習」(2単位)、「障害児心理学の実践と課題A」(2単位)、「障害児心理学の実践と課題B」(2単位)の3科目から2科目(4単位)を選択必修とし履修する。

さらに、前述の必修または選択必修で履修した5科目(10単位)以外の特別支援教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」(2単位)の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・学校保健サブプログラム

学校保健サブプログラム科目の全ての科目(10単位)を必修とし履修する。

さらに、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」(2単位)の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・子ども共育サブプログラム

子ども共育サブプログラム科目の「子ども支援の実践と制度」(2単位)、「保育内容と指導の課題探求」(2単位)、「子どもの発達と教育相談の課題探求」(2単位)の3科目計6単位を必修とし、履修する。

また、「<教育—社会—環境>基礎論」(2単位)、「子ども認識の思想と構造」(2単位)、「子育て支援開発探求」(2単位)、「幼児の音楽表現の開発探求」(2単位)の4科目から2科目(4単位)を選択必修とし履修する。

さらに、前述の必修または選択必修で履修した5科目(10単位)以外の子ども共育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」(2単位)の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・言語文化系教育サブプログラム

言語文化系教育サブプログラム科目の「言語文化系教育の理論と実践A(国語)」(2単位)、「言語文化系教育の理論と実践B(英語)」(2単位)、「言語文化系教育の授業内容探求A(国語)」(2単位)、「言語文化系教育の授業内容探求B(国語)」(2単位)、「言語文化系教育の授業内容探求C(英語)」(2単位)、「言語文化系教育の授業内容探求D(英語)」(2単位)の6科目から3科目(6単位)を選択必修とし履修する。

また、「言語文化系教育の教材研究と実践A(国語)」(2単位)、「言語文化系教育の教材研究と実践B(国語)」(2単位)、「言語文化系教育の教材研究と実践C(英語)」(2単位)、「言語文化系教育の教材研究と実践D(英語)」(2単位)の4科目から2科目(4単位)を選択必修として履修する。

さらに、前述の選択必修で履修した5科目(10単位)以外の言語文化系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」(2単位)の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・社会系教育サブプログラム

社会系教育サブプログラム科目の全ての科目(10単位)を必修とし履修する。

さらに、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」(2単位)の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・自然科学系教育サブプログラム

自然科学系教育サブプログラム科目の「自然科学系教育の理論と実践A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の理論と実践B（理科）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求B（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求C（理科）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求D（理科）」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修として履修する。

また、「自然科学系教育の教材研究と実践A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の教材研究と実践B（算数・数学）」（2単位）、「中核的理科教員（CST）養成講座」（4単位）の3科目から4単位を選択必修として履修する。

さらに、前述の選択必修で履修した10単位以外の自然科学系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・芸術系教育サブプログラム

芸術系教育サブプログラム科目の「芸術系教育の理論と実践A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求B（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求C（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求D（図工・美術）」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修として履修する。

また、「芸術系教育の教材研究と実践A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践B（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践C（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践D（図工・美術）」（2単位）の4科目から2科目4単位を選択必修として履修する。

さらに、前述の選択必修で履修した5科目（10単位）以外の芸術系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・身体文化系教育サブプログラム

身体文化系教育サブプログラム科目の全ての科目（10単位）を必修とし履修する。
さらに、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

・生活創造系教育サブプログラム

生活創造系教育サブプログラム科目の「技術科教育の理論と実践」（2単位）、「技術科教育の授業内容探求A」（2単位）、「技術科教育の授業内容探求B」（2単位）、「家庭科教育の理論と実践」（2単位）、「家庭科教育の授業内容探求A」（2単位）、「家庭科教育の授業内容探求B」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修とし履修する。

また、「技術科教育の教材研究と実践A」（2単位）、「技術科教育の教材研究と実践B」（2単位）、「家庭科教育の教材研究と実践A」（2単位）、「家庭科教育の教材研究と実践B」（2単位）の4科目から2科目4単位を選択必修として履修する。

さらに、前述の選択必修で履修した5科目（10単位）以外の生活創造系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。

以上、計16単位を履修する。

（5）その他

・「現代的・地域的教育課題の共同探求」は全てのサブプログラムの選択科目とし、修得単位を修了要件に算入する。

・「探求活動演習Ⅰ」と「探求活動演習Ⅱ」は全てのサブプログラムの自由科目とし、単位認定できるが、修了要件に算入しない。

・1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、42単位とする。
（ただし、短期履修制度により1年間で修了する者が登録することができる単位数の上限は、56単位とする。）

合計46単位を修得する。（ただし、短期履修制度により1年間で修了する者は合計40単位を修得する。）

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - （1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - （2）「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - （3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(埼玉大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻【既設】)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程の課題探求	1③～④	4				○		4	2					兼4	オムニバス・共同（一部）	
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教科指導の課題探求	1①～②	4				○			2						オムニバス・共同（一部）	
	生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の課題探求	1①～②	4				○		3							オムニバス・共同（一部）	
	学級経営、学校経営に関する領域	教育経営の課題探求	1①～②	4				○		3							兼1	オムニバス・共同（一部）
	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校と教職の課題探求	1①～②	4				○		3	1						兼1	オムニバス・共同（一部） ※講義
小計（5科目）			—	20	0	0	—		11	3	0	0	0	0	兼6			
実学校における	実地研究Ⅰ	1通		4				○	4	1						兼1		
	実地研究Ⅱ	2通		6				○	4	1						兼1		
	実地研究Ⅰ（特別支援教育）	1通		4				○	4	1						兼1		
	実地研究Ⅱ（特別支援教育）	2通		6				○	4	1						兼1		
	小計（4科目）			—	0	20	0	—		4	1	0	0	0	0	兼1		
課題研究	課題研究Ⅰ	1通		2				○	5	2						兼8		
	課題研究Ⅱ	2通		2				○	5	2						兼8		
	課題研究Ⅰ（特別支援教育）	1通		2				○	5							兼2		
	課題研究Ⅱ（特別支援教育）	2通		2				○	5							兼2		
	小計（4科目）			—	0	8	0	—		8	2	0	0	0	0	兼10		
教育実践力高度化コース科目	教科の学習指導と実践	1③～④		2				○	1							兼63	オムニバス・共同（一部）	
	学校教育と進路選択	1・2③～④		2				○		1						兼1	共同	
	授業研究方法論演習	1・2③～④		2				○		1						兼1	共同	
	学校課題改善演習	1・2③～④		2				○	1							兼1	共同	
	学校の安全と危機管理	1・2③～④		2				○	2								共同	
	校内研究会アクション・リサーチ	1・2③～④		2				○	1	1							共同	
	外国人教育と多文化共生	1・2③～④		2				○		2							共同	
	言語活動と教材開発	1・2①～②		2				○		1							兼1	共同
	教育実践と教育学	1・2③～④		2			○		1								兼5	オムニバス・共同（一部） ※演習
	教育臨床学の理論と実践	1・2③～④		2				○	2								兼1	オムニバス・共同（一部）
	総合学習カリキュラム開発演習	1・2①～②		2				○	1	1							兼1	共同 ※講義
	幼児教育実践研究	1・2③～④		2				○									兼4	オムニバス・共同（一部）
小計（12科目）			—	0	24	0	—		7	3	0	0	0	0	兼70			
発達臨床支援高度化コース科目	学校コンサルテーション・教育相談演習	1③～④		2				○	1							兼1	共同	
	発達障害心理学の実践と課題	1・2③～④		2				○	1							兼1	共同	
	重度・重複障害児の教育実践と課題	1・2③～④		2				○	1							兼1	共同	
	ソーシャルサポート・ネットワーク演習	1・2③～④		2				○	1							兼1	オムニバス・共同（一部）	
	特別支援教育コーディネーター演習	1・2①～②		2				○	2								兼1	共同
	特別支援教育実践研究	1・2③～④		2				○	1								兼1	共同
	知的障害心理学の実践と課題	1・2③～④		2				○	1								兼1	共同
	発達臨床アセスメント演習	1・2③～④		2				○	2									共同
	インクルーシブ教育演習	1・2③～④		2				○	1								兼1	共同
	学校臨床心理学実践演習	1・2③～④		2				○	2									オムニバス・共同（一部）
カウンセリング実践演習	1・2③～④		2				○									兼2	共同	
小計（11科目）			—	0	22	0	—		4	0	0	0	0	0	兼7			
合計（36科目）			—	20	74	0	—		12	3	0	0	0	0	兼77			
学位又は称号		教職修士（専門職）			学位又は学科の分野			教員養成関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
(1) 共通科目 全科目20単位を全員必修とする。							1学年の学期区分		4学期									
(2) 学校における実習科目 「実地研究Ⅰ（4単位）」、「実地研究Ⅱ（6単位）」の計10単位を履修する。ただし、発達臨床支援高度化コースの学生で特別支援学校教諭専修免許状の取得をめざす者は、これらに代えて「実地研究Ⅰ（特別支援教育）」（2単位）及び「実地研究Ⅱ（特別支援教育）」（2単位）を履修する。							1学期の授業期間		8週									
							1時限の授業時間		90分									

<p>(3) 課題研究</p> <p>「課題研究Ⅰ(2単位)」、「課題研究Ⅱ(2単位)」の計4単位を履修する。ただし、発達臨床支援高度化コースの学生で特別支援学校教諭専修免許状の取得をめざす者は、これらに代えて「課題研究Ⅰ(特別支援教育)」(4単位)及び「課題研究Ⅱ(特別支援教育)」(6単位)を履修する。</p> <p>(4) コース科目</p> <p>コース科目は、各コース指定の必修科目(教育実践力高度化コースは「教科の学習指導と実践」、発達臨床支援高度化コースは「学校コンサルテーション・教育相談演習」)2単位のほか10単位以上を選択し、計12単位を履修する。</p> <p>(5) その他</p> <p>1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、42単位とする。</p> <p>合計46単位を修得する。</p>	
--	--

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	教育課程の編成・実施に関する領域	<p>教育課程の編成と実施に関する深い理論的知識を獲得するとともに、カリキュラム・マネジメントの実践的力量を獲得することを目標とする。教育課程・カリキュラムをめぐる諸課題、幼稚園教育要領・学習指導要領の改訂の動向、学力論、生活科・総合を主としたカリキュラム構成、まなごしの教育学、学習過程の探求と学習理論、等について学修し、それを踏まえて、カリキュラムを構成していくために必要な事項についてのディスカッションやグループワーク、発表などを取り入れた共同探求を行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(1 馬場 久志／3回・全教員共同を含む。) (3 船橋 一男／3回・全教員共同を含む。) (4 岩川 直樹／3回・全教員共同を含む。) (6 宇佐見 香代／5回・全教員共同を含む。) (18 櫻井 康博／3回・全教員共同を含む。) (67 野村 泰朗／3回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：教育課程や学力に関する理論と幼稚園教育要領・学習指導要領の改訂の動向（宇佐見） 第2回：生活科・総合的な学習の時間等のカリキュラムの構成及びマネジメントの実際（宇佐見） 第3回：カリキュラム概念の再定義（船橋） 第4回：カリキュラム研究の動向（船橋） 第5回：まなごしの教育学 ケアの視点から（岩川） 第6回：まなごしの教育学 学校現場の閉塞を内破する（岩川） 第7回：学びの環境 学級規模（馬場） 第8回：学びの環境 学習観（馬場） 第9回：情報教育の最新動向（野村） 第10回：新しい授業づくりにおけるICT活用（野村） 第11回：特別支援教育におけるカリキュラムの特色（櫻井） 第12回：子どもの多様性に対応した教育課程と学級指導（櫻井） 第13回：共同探求：課題設定・資料収集と分析（宇佐見） 第14回：共同探求：発表内容討議・発表準備（宇佐見） 第15回：グループ発表（全教員）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	子ども共育の理論と実践	<p>学校（園）を中心に、a)「育ち」から「学び」を一貫する教育・保育のビジョンと哲学、b)発達の連続性を踏まえた上での幼児児童の発達特性の理解、c)主体的な活動としての遊びとその評価、d)教育課程と課程外活動（預かり保育）との接続のあり方、e)幼児教育と小学校教育の接続及び幼小中の連携のあり方について、f)社会の変動及び家庭と子どもの変化を視野に入れ、子どもと親・教師（保育者）・地域社会の成長の相互性の観点から、総合的に学修する。その際、学校教育だけでなく、家庭教育、社会教育についても視野を広げ、学校と家庭、地域との連携についても知識を深め、g)文化の創造者としての子どもと共に成長する教師（保育者）の資質能力としての批判的思考力、その発達に必要な環境を考察し、地域の教育力に寄与する学校教育を構想する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全30回)</p> <p>(21 庄司 康生／14回・全教員共同を含む。) (25 首藤 敏元／13回・全教員共同を含む。)</p>	オムニバス方式・共同（一部）

	<p>(37 田代 美江子／10回・全教員共同を含む。) (68 寺菌 さおり／8回・全教員共同を含む。) (77 小田倉 泉／16回・全教員共同を含む。) (82 福島 賢二／10回・全教員共同を含む。) (88 三橋 さゆり／6回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：ガイダンス、子ども共育とは（全教員） 第2回：保育実践における子どもと大人の関係論（庄司、小田倉） 第3回：子どもの最善の利益と保育（小田倉、首藤） 第4回：幼児教育における子どもの権利の実施（小田倉、首藤） 第5回：人的環境としての保育者の行動原理（小田倉、首藤） 第6回：子育て環境の変化からみた子どもの育ち（寺菌、首藤） 第7回：子どもの育ちに必要な養育環境（寺菌、首藤） 第8回：学校園と家庭、及び地域との連携の意義と課題（庄司、首藤、寺菌、小田倉） 第9回：家庭教育の意義と課題～「親の学習」プログラムを例にして～（首藤、寺菌） 第10回：幼児の遊びと創造性（庄司、小田倉、三橋） 第11回：幼児の遊びを通じた音楽的発達（三橋、庄司） 第12回：幼児の音楽表現を保障する環境と保育者の役割（三橋、庄司） 第13回：幼児の遊びと表現（三橋、庄司） 第14回：遊び込む遊びから主体的な学びへ（庄司、小田倉） 第15回：遊びにおけるつながりと関係性から対話的学びへ（庄司、小田倉） 第16回：遊びにおける探求の真正性から深い学びへ（庄司、小田倉） 第17回：遊びと遊びの場をつくるデザインからカリキュラムマネジメントへ（庄司、小田倉） 第18回：「共に考え深め続けること」（SST; Sustained shared Thinking）の発達と教育（首藤、小田倉） 第19回：幼児と児童の発達の連続性と不連続性（首藤、小田倉） 第20回：幼小の接続の意義と課題（庄司、首藤、寺菌、小田倉） 第21回：幼小中一貫教育の意義と課題（庄司、首藤、寺菌、小田倉） 第22回：子どもを取り巻く環境の課題と共育（田代、福島） 第23回：子どもの多様な背景の理解と家庭との連携（田代、福島） 第24回：情報・教育・コミュニケーションと子どものライフ・スキル（田代、福島） 第25回：子どもの権利を基盤とした学校、家庭、地域の協働（田代、福島） 第26回：学校の制度的特徴と文化的規定性（田代、福島） 第27回：文化再生産と教育格差（田代、福島） 第28回：教育効果測定論（教育エビデンス論）の特徴と課題（田代、福島） 第29回：文化創造者としての子ども理解の視座と方法－「教育」から「共育」への転換（田代、福島） 第30回：まとめ（全教員）</p>	
<p>教科の教育課程構成論</p>	<p>教科の教育課程構成に関する諸理論をおさえつつ、小中高校段階を含めて、実践的な教育課程を構成する方法等について学修することを目的とする。全体で、教科の教育課程構成に共通する諸課題について協働学習による理解を深めた後、教科別のグループで実践的な教育課程を構成する方法等について、資質・能力の設定と学力向上への評価の役割を含め、多面的に探求する。内容として、a)教科の目標論、b)教科に関わる学習者の発達、c)教科に関わる資質・能力論、d)教科の内容構成論、e)小中高の教育課程をつなぐ教科別探求、を含む。専門的な内容を当該領域を専門とする教員がオムニバス形式で指導することにより学習効果を高める。</p> <p>受講生は、国語、社会科、算数・数学、理科、体育・保健体育、音楽、図画工作・美術、技術科、家庭科、英語科の各教科教育研究者教員の共同的指導により、a)～c)を対話的に探求した後、教科別のグループで、教科専門の研究者教員の指導の下で、d)～e)を探求する。最後に探求成果を発表会で報告する。各回のレポートを基に評価を行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)

(実務家教員)

[理科] 15 中島 雅子／7回

[体育・保健体育] 16 石川 泰成／7回

(研究者教員)

[国語] 30 戸田 功／7回・72 本橋 幸康／7回

[英語] 47 及川賢／7回

[社会] 51 桐谷 正信／7回

[算数・数学] 36 二宮 裕之／7回・76 松寄 昭雄／7回

[理科] 41 小倉 康／7回

[音楽] 89 森 薫／7回

[図画工作・美術] 23 池内 慈朗／7回・62 内田 裕子／7回

[技術] 31 山本 利一／7回

[家庭] 33 河村 美穂／7回・53 亀崎 美苗／7回

上記の教員は、主にa)、b)、c)および成果発表会について担当する。(主担当6回)

(研究者教員)

[国語] 19 薄井 俊二／8回・39 飯泉 健司／8回・

56 山本 良／8回・90 池上 尚／8回

[英語] 38 武田 ちあき／8回・65 田子内 健介／8回

[社会] 34 小林 聡／8回・52 谷 謙二／8回・

73 清水 亮／8回・80 高橋 雅也／8回・

85 中川 律／8回・86 宮崎 文典／8回

[算数・数学] 43 飛田 明彦／8回・87 西澤 由輔／8回

[理科] 22 金子 康子／8回・26 近藤 一史／8回・

35 富岡 寛顕／8回・40 岡本 和明／8回・

49 大向 隆三／8回・63 松岡 圭介／8回・

71 日比野 拓／8回・74 大朝 由美子／8回

[体育・保健体育] 29 有川 秀之／8回・

32 細川 江利子／8回・

58 松本 真／8回・

66 菊原 伸郎／8回・

84 古田 久／8回

[音楽] 20 蛭多 令子／8回・45 竹澤 栄祐／8回・

69 小野 和彦／8回

[図画工作・美術] 27 小澤 基弘／8回・

46 高須賀 昌志／8回・

61 石上 城行／8回

[技術] 48 浅田 茂裕／8回・59 内海 能重／8回・

70 荻窪 光慈／8回・81 荒木 祐二／8回

[家庭] 24 川端 博子／8回・42 吉川 はる奈／8回・

44 重川 純子／8回・55 島田 玲子／8回・

78 上野 茂昭／8回

上記の教員は、主にd)、e)について担当する。(主担当8回)

第1回：言語文化系教育の目標論、学習発達論、資質・能力論
(中島、石川、戸田、本橋、及川、桐谷、二宮、松寄、小倉、森、池内、内田、山本(利)、河村、亀崎)

第2回：社会系教育の目標論、学習発達論、資質・能力論
(中島、石川、戸田、本橋、及川、桐谷、二宮、松寄、小倉、森、池内、内田、山本(利)、河村、亀崎)

第3回：自然科学系教育の目標論、学習発達論、資質・能力論
(中島、石川、戸田、本橋、及川、桐谷、二宮、松寄、小倉、森、池内、内田、山本(利)、河村、亀崎)

第4回：芸術系教育の目標論、学習発達論、資質・能力論
(中島、石川、戸田、本橋、及川、桐谷、二宮、松寄、小倉、森、池内、内田、山本(利)、河村、亀崎)

第5回：身体文化系教育の目標論、学習発達論、資質・能力論
(中島、石川、戸田、本橋、及川、桐谷、二宮、松寄、小倉、森、池内、内田、山本(利)、河村、亀崎)

第6回：生活創造系教育の目標論、学習発達論、資質・能力論
(中島、石川、戸田、本橋、及川、桐谷、二宮、松崎、小倉、森、池内、内田、山本(利)、河村、亀崎)

第7回：教科に関する内容構成論：領域1

([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上
[社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川
[算数・数学] 飛田、西澤
[理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝
[体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田
[音楽] 蛭多、竹澤、小野
[図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上
[技術] 浅田、内海、荻窪、荒木
[家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野
[英語] 田子内、武田)

第8回：教科に関する内容構成論：領域2

([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上
[社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川
[算数・数学] 飛田、西澤
[理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝
[体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田
[音楽] 蛭多、竹澤、小野
[図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上
[技術] 浅田、内海、荻窪、荒木
[家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野
[英語] 田子内、武田)

第9回：教科に関する内容構成論：領域3

([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上
[社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川
[算数・数学] 飛田、西澤
[理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝
[体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田
[音楽] 蛭多、竹澤、小野
[図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上
[技術] 浅田、内海、荻窪、荒木
[家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野
[英語] 田子内、武田)

第10回：教科に関する内容構成論：領域4

([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上
[社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川
[算数・数学] 飛田、西澤
[理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝
[体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田
[音楽] 蛭多、竹澤、小野
[図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上
[技術] 浅田、内海、荻窪、荒木
[家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野
[英語] 田子内、武田)

第11回：小中高の教育課程をつなぐ教科内容の探求：領域1

([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上
[社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川
[算数・数学] 飛田、西澤
[理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝
[体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田
[音楽] 蛭多、竹澤、小野
[図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上
[技術] 浅田、内海、荻窪、荒木)

		<p>[家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野 [英語] 田子内、武田)</p> <p>第12回：小中高の教育課程をつなぐ教科内容の探求：領域2 ([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上 [社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川 [算数・数学] 飛田、西澤 [理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝 [体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田 [音楽] 蛭多、竹澤、小野 [図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上 [技術] 浅田、内海、荻窪、荒木 [家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野 [英語] 田子内、武田)</p> <p>第13回：小中高の教育課程をつなぐ教科内容の探求：領域3 ([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上 [社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川 [算数・数学] 飛田、西澤 [理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝 [体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田 [音楽] 蛭多、竹澤、小野 [図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上 [技術] 浅田、内海、荻窪、荒木 [家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野 [英語] 田子内、武田)</p> <p>第14回：小中高の教育課程をつなぐ教科内容の探求：領域4 ([国語] 薄井、飯泉、山本(良)、池上 [社会] 小林、清水(亮)、谷、高橋(雅)、宮崎、中川 [算数・数学] 飛田、西澤 [理科] 近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝 [体育・保健体育] 有川、細川、松本、菊原、古田 [音楽] 蛭多、竹澤、小野 [図画工作・美術] 小澤、高須賀、石上 [技術] 浅田、内海、荻窪、荒木 [家庭] 川端、吉川、重川、島田、上野 [英語] 田子内、武田)</p> <p>第15回：探求成果の発表とふりかえり (中島、石川、戸田、本橋、及川、桐谷、二宮、松寄、小倉、森、池内、内田、山本(利)、河村、亀崎)</p>	
<p>教科等の実践的な指導方法に関する領域</p>	<p>教科指導の課題探求</p>	<p>本授業科目のテーマは、教科教育における理論と実践である。学校における実践的な教科指導力の育成を目標として授業を展開する。具体的には言語社会系、自然科学系、芸術体育系、生活技術系のそれぞれの領域について、a)授業づくり、b)教材作成、c)授業分析・授業評価、d)現代的教育課題の教材化、について学修する。到達目標として、適切な授業設計を行う能力と授業実践力の獲得を目指す。</p> <p>授業は講義形式と演習形式も合わせて行う。理論の理解の程度やそれを実践する能力を授業内容のまとまりごとに課す小テストやレポートなどの内容によって総合的に評価する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(12 石田 耕一 / 5回・全教員共同を含む。) (16 石川 泰成 / 6回・全教員共同を含む。) (31 山本 利一 / 5回・全教員共同を含む。) (33 河村 美穂 / 5回・全教員共同を含む。) (36 二宮 裕之 / 4回・全教員共同を含む。) (41 小倉 康 / 4回・全教員共同を含む。)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部) 講義10時間 演習20時間</p>

	<p>(45 竹澤 栄祐／5回・全教員共同を含む。) (47 及川 賢／5回・全教員共同を含む。) (51 桐谷 正信／5回・全教員共同を含む。) (62 内田 裕子／5回・全教員共同を含む。) (72 本橋 幸康／5回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：オリエンテーション「教科指導の課題とは何か」 (全教員) 第2回：授業づくりと教材の意味 (石田、石川) 第3回：授業づくりと教材開発の方法 (石田、山本) 第4回：授業づくりと教材への評価 (石田、河村) 第5回：言語社会系授業の理論と実践 (本橋、及川、桐谷) 第6回：言語社会系授業の理論と実践 (本橋、及川、桐谷) 第7回：言語社会系授業の理論と実践 (本橋、及川、桐谷) 第8回：自然科学系授業の理論と実践 (二宮、小倉) 第9回：自然科学系授業の理論と実践 (二宮、小倉) 第10回：芸術体育系授業の理論と実践 (石川、内田、竹澤) 第11回：芸術体育系授業の理論と実践 (石川、内田、竹澤) 第12回：芸術体育系授業の理論と実践 (石川、内田、竹澤) 第13回：生活技術系授業の理論と実践 (河村、山本) 第14回：生活技術系授業の理論と実践 (河村、山本) 第15回：総括 (教科指導の課題参考) (全教員)</p>	
特別支援教育の課題探求	<p>特別支援教育の現状について、思想、教育制度、歴史、教育課程、心理学、支援方法の点から広く概観し、それぞれの課題を理解するとともに、それらが相互に関連していることを踏まえた解決のあり方を探求する。そして、各自の教育実践における問題を分析し、解決に向けてどうすべきかを学ぶことを目標とする。</p> <p>a) 特別支援教育の課題を、思想、歴史、教育制度、教育課程の側面から検討し、解決について議論する。 b) 特別支援教育の課題を、児童・生徒の生理・心理学的側面から検討し、課題解決について議論する c) 特別支援教育の課題を、指導・支援法の側面から検討し、解決について議論する。 d) a～cで明らかにした課題の相互関連を踏まえて、特別支援教育の抱える課題を総合的に捉え、各自の教育実践における問題の分析や解決にどのように生かすべきかを検討する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(8 名越 斉子／8回・全教員共同を含む。) (50 葉石 光一／8回・全教員共同を含む。) (79 山中 冴子／7回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：特別支援教育の課題 (全教員) 第2回：特別支援教育の思想、教育制度 (特別支援学校) (山中) 第3回：特別支援教育の教育制度 (通常の学校) (山中) 第4回：特別支援教育の教育課程 (知的障害) (山中) 第5回：知的障害児童・生徒の心理生理学的特性と教育 (知的障害と運動機能) (葉石) 第6回：知的障害児童・生徒の心理生理学的特性と教育 (知的障害と実行機能) (葉石) 第7回：知的障害児童・生徒の心理生理学的特性と教育 (知的障害と動機付け) (葉石) 第8回：知的障害児童・生徒の心理生理学的特性と教育 (知的障害と社会性) (葉石) 第9回：発達障害児童・生徒の心理・指導法 (学習障害) (名越) 第10回：発達障害児童・生徒の心理・指導法 (ADHD) (名越) 第11回：発達障害児童・生徒の心理・指導法 (自閉症) (名越) 第12回：多様な学びの保障 (学びのユニバーサルデザインと発達障害、知的障害) (名越)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

	<p>第13回：特別支援教育の課題と解決（知的障害）（山中、名越、葉石）</p> <p>第14回：特別支援教育の課題と解決（発達障害）（名越、山中、葉石）</p> <p>第15回：特別支援教育の課題探求のまとめ（葉石、名越、山中）</p>	
教科指導の発展・応用	<p>教科に関する学習指導の実践と諸課題と解決方法について、小中高校段階を含めて俯瞰的に理解する。全体で教科教育に関する共通のテーマについて協働学習による理解を深めた後、教科や学校種別ごとに分けたグループで特定の課題やその解決方法について多面的に探求する。指導法、教材、学習者に関する理解を深め、模擬授業や附属学校での授業観察を含め、実践的な資質・能力を高める。</p> <p>具体的には、a) カリキュラム・マネジメント、b) 各教科教育の課題、c) 附属学校での授業参観と協議、d) 各教科教育の課題探求（小学校）、e) 各教科教育の課題探求（中学高校）、f) 模擬授業実践と協議、などを行う。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>(14 大沢 裕／5回)</p> <p>(15 中島 雅子／4回)</p> <p>(16 石川 泰成／5回)</p> <p>(19 薄井 俊二／3回)</p> <p>(20 蛭多 令子／4回)</p> <p>(22 金子 康子／5回)</p> <p>(23 池内 慈朗／2回)</p> <p>(24 川端 博子／2回)</p> <p>(26 近藤 一史／5回)</p> <p>(27 小澤 基弘／5回)</p> <p>(30 戸田 功／4回)</p> <p>(31 山本 利一／5回)</p> <p>(34 小林 聡／10回)</p> <p>(35 富岡 寛顕／5回)</p> <p>(36 二宮 裕之／8回)</p> <p>(38 武田 ちあき／3回)</p> <p>(39 飯泉 健司／3回)</p> <p>(40 岡本 和明／5回)</p> <p>(41 小倉 康／4回)</p> <p>(42 吉川 はる奈／2回)</p> <p>(43 飛田 明彦／3回)</p> <p>(44 重川 純子／1回)</p> <p>(45 竹澤 栄祐／4回)</p> <p>(46 高須賀 昌志／5回)</p> <p>(47 及川 賢／4回)</p> <p>(48 浅田 茂裕／2回)</p> <p>(49 大向 隆三／5回)</p> <p>(51 桐谷 正信／12回)</p> <p>(53 亀崎 美苗／2回)</p> <p>(55 島田 玲子／2回)</p> <p>(56 山本 良／3回)</p> <p>(58 松本 真／5回)</p> <p>(59 内海 能亜／1回)</p> <p>(61 石上 城行／5回)</p> <p>(62 内田 裕子／4回)</p> <p>(63 松岡 圭介／5回)</p> <p>(65 田子内 健介／3回)</p> <p>(69 小野 和彦／5回)</p> <p>(70 荻窪 光慈／1回)</p> <p>(71 日比野 拓／5回)</p> <p>(72 本橋 幸康／7回)</p> <p>(74 大朝 由美子／5回)</p> <p>(76 松寄 昭雄／8回)</p> <p>(78 上野 茂昭／1回)</p>	オムニバス方式・共同（一部）

- (81 荒木 祐二／3回)
- (87 西澤 由輔／3回)
- (89 森 薫／7回)
- (90 池上 尚／3回)

- 第1回：埼玉県・さいたま市の学習状況と学力の現状と課題（大沢）
- 第2回：小・中・高等学校における教育課程の編成、改善の一連のカリキュラム・マネジメント（大沢）
- 第3回：埼玉大学教育学部附属学校研究協議会の参観（大沢、本橋、及川、桐谷、松寄、二宮、小倉、小野、小澤、山本(利)）
- 第4回：学校教育における教科教育の課題－育成すべき資質・能力、学習のあり方、評価方法の改善、授業設計・評価と学習指導要領の理解（1）学習内容の把握と年間指導計画（2）目標と評価の一致した授業デザイン（大沢、戸田、本橋、桐谷、松寄、二宮、中島、森、高須賀、山本(利)）

<言語文化系>

- 第5回：小学校における言語文化の指導（国語・学習指導要領を中心に）（戸田、本橋）
- 第6回：小学校における言語文化の指導（英語・学習指導要領を中心に）（及川、本橋）
- 第7回：小学校における言語文化の指導（国語における言語文化活動）（薄井、飯泉、山本(良)、池上）
- 第8回：小学校における言語文化の指導（英語における言語文化活動）（武田、田子内）
- 第9回：中学校における言語文化の指導（国語・学習指導要領を中心に）（戸田、本橋）
- 第10回：中学校における言語文化の指導（英語・学習指導要領を中心に）（及川、本橋）
- 第11回：中学校における言語文化の指導（国語における言語文化活動）（薄井、飯泉、山本(良)、池上）
- 第12回：中学校における言語文化の指導（英語における言語文化活動）（武田、田子内）
- 第13回：高等学校における言語文化の指導（国語・英語の言語文化の指導）（薄井、飯泉、山本(良)、池上、武田、田子内）
- 第14回：言語文化の指導における小中連携（戸田、本橋、及川）

<社会系>

- 第5回：社会科の目標と授業理論（桐谷、小林）
- 第6回：教育改革における社会科の位置（桐谷、小林）
- 第7回：社会におけるカリキュラム・マネジメント（桐谷、小林）
- 第8回：社会科における「主体的・対話的で深い学び」（桐谷、小林）
- 第9回：小学校社会科学習指導要領の読み方（桐谷、小林）
- 第10回：中学校社会科学習指導要領の読み方（桐谷、小林）
- 第11回：社会科の指導法の検討（桐谷、小林）
- 第12回：社会科の教材研究の検討（桐谷、小林）
- 第13回：社会科の評価方法の検討（桐谷、小林）
- 第14回：社会科の学習指導と実践に関する総括（桐谷、小林）

<自然科学系>

- 第5回：自然科学系教育の課題（算数・数学分野を中心に）（松寄、二宮）
- 第6回：自然科学系教育の課題（理科学分野を中心に）（中島）
- 第7、8回：自然科学系教育の課題探求（小学校の算数または理科）（松寄、二宮、小倉、中島）
- 第9、10回：自然科学系教育の課題探求（中学校の数学または理科）（飛田、西澤、近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝）
- 第11回：自然科学系教育の課題探求（高等学校の数学または理科）（飛田、西澤、近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝）
- 第12回：模擬授業実践と協議（小学校）（松寄、二宮、小倉）

第13回：模擬授業実践と協議（中学校）（松寄、二宮、近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝）

第14回：模擬授業実践と協議（高等学校）（松寄、二宮、近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝）

<芸術系>

第5回：芸術系教育における「学習指導計画」（森、高須賀）

第6回：芸術系教育における「学習指導の目的」（森、内田）

第7回：芸術系教育における「学習指導の効果」（森、小澤）

第8回：芸術系教育における「指導体制」（森、石上）

第9回：音楽科・図画工作科及び美術科における「指導方法」（森、内田）

第10回：音楽科・図画工作科及び美術科における「発達段階を考慮した指導」（森、内田）

第11回：音楽科・図画工作科及び美術科における「指導を通じた資質能力の育成」（蛭多、竹澤、小野、石上、内田）

第12回：音楽科・図画工作科及び美術科における「系統的・発展的な指導」（蛭多、竹澤、小野、小澤、高須賀、石上）

第13回：音楽科・図画工作科及び美術科における「模擬授業」（蛭多、竹澤、小野、小澤、高須賀、石上、池内）

第14回：音楽科・図画工作科及び美術科における「模擬授業」の省察と協議（蛭多、竹澤、小野、小澤、高須賀、石上、池内）

<身体文化系>

第5回：学習指導要領における小・中・高等学校の目標・内容の系統性（石川）

第6回：授業設計の実際、指導と評価を一体化させた指導計画の作成（石川）

第7回：ICT機器を活用した授業づくりの手法（石川）

第8回：授業観察の手法と分析（石川）

第9回：授業記録の取り方とその解釈について（石川）

第10回：体育の根源的な目標の再検討（松本）

第11回：身体運動についての再検討（松本）

第12回：モニタリングする際のアプローチ（個人技能）（松本）

第13回：モニタリングする際のアプローチ（集団技能）（松本）

第14回：モニタリングする際のアプローチ（戦術的）（松本）

<生活創造系>

第5回：小学校におけるものづくり・情報教育ならびに家庭科の授業実施上の課題探求（浅田・上野）

第6、7回：中学校における技術・家庭科の授業実施上の課題探求（荒木・亀崎）

第8回：高等学校における情報ならびに家庭科の授業実施上の課題探求（山本(利)・重川）

第9回：小学校における家庭科ならびにものづくり・情報教育に関わる学習指導要領を読みとく（荻窪・川端）

第10回：中学校における技術・家庭科の学習指導要領を読みとく（内海・吉川）

第11回：高等学校における情報ならびに家庭科の学習指導要領を読みとく（山本(利)・島田）

第12回：模擬授業実践と協議（小学校）（浅田・川端）

第13回：模擬授業実践と協議（中学校）（荒木・吉川）

第14回：模擬授業実践と協議（高等学校）（山本(利)・島田）

第15回：学習内容のまとめと教育実践への展望（大沢）

生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の課題探求	<p>生徒指導と教育相談、これらに関わりの強い特別支援教育に関する深い理論的知識を獲得するとともに、実践的力量の基礎を獲得することを目標とする。具体的に、a) 幼児・児童・生徒理解の意義と方法、b) 学級集団をとらえる視点と手法、c) 問題行動の理解と組織的対応の構築、d) 教育相談の理論的基盤と手法、e) 他機関との連携について習得する。これらの中で、生徒指導・教育相談と切り離すことのできないf) 特別支援教育についても取り扱う。</p> <p>到達目標は、生徒指導と教育相談、特別支援教育に関する深い理論的知識を獲得するとともに、実践的力量の基礎を獲得することである。</p> <p>学期末の課題により講義で扱った理論に関する理解の程度を、演習におけるプレゼンテーションや議論の内容により実践的応用の理解の程度を評価する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(8 名越 斉子 / 9回) (11 長江 清和 / 17回) (28 堀田 香織 / 8回)</p> <p>第1回：教育相談の理論的基礎：(1期)長江、名越(2期)堀田、長江 第2回：生徒指導の理論的基礎：(1期)長江、(2期)長江 第3回：子供の発達を理解と方法(幼児期、児童期)：(1期)名越、(2期)堀田 第4回：子供の発達を理解と方法(思春期、青年期)：(1期)名越、(2期)堀田 第5回：集団を捉える視点と方法：(1期)名越、(2期)長江 第6回：幼児期・学童期にみられる不適応の理解と対応：(1期)名越、(2期)堀田 第7回：思春期・青年期に見られる不適応の理解と対応：(1期)名越、(2期)堀田 第8回：いじめ・非行の理解と対応：(1期)長江、(2期)長江 第9回：不登校の理解と対応：(1期)長江、(2期)堀田 第10回：家庭環境の理解と他機関連携：(1期)長江、(2期)堀田 第11回：体罰・懲戒の理解と対応：(1期)長江、(2期)長江 第12回：特別支援教育の理論的基礎：(1期)長江、(2期)長江 第13回：特別な教育的ニーズのある子供の理解と対応(幼児期、児童期)：(1期)名越、(2期)長江 第14回：特別な教育的ニーズのある子供の理解と対応(思春期・青年期)：(1期)名越、(2期)長江 第15回：まとめ：(1期)名越、長江、(2期)堀田、長江</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	特別支援教育コーディネータ演習	<p>特別な教育的ニーズのある児童・生徒のために、学校の支援体制の充実を図ることは、学校種にかかわらず重要な課題である。教員経験年数の少ない若手教員の割合が増え、教員の多忙化が進む中で、特別支援教育コーディネータを中心としていかに支援体制を構築していくかについて、教育実践に生かす方法論を学ぶ。</p> <p>a) 国の特別支援教育の動向を踏まえ、実践に生かすことのできる先進的な取り組みや研究の成果を学ぶ。 b) 通常の学校における校内支援体制のあり方を議論する。 c) 特別支援学校における校内支援体制およびセンター的機能のあり方を議論する。</p> <p>いずれについても、履修者の課題意識や勤務校の現状と関連づけながら検討する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(8 名越 斉子 / 14回) (11 長江 清和 / 5回)</p> <p>第1回：特別支援教育コーディネータの現状(長江、名越)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

		<p>第2回：日本の特別支援教育の施策と動向（長江） 第3回：特別支援学校における校内支援体制（調査）（名越） 第4回：特別支援学校における校内支援体制（プレゼンテーション、協議）（名越） 第5回：小中学校における校内支援体制（調査）（名越） 第6回：小中学校における校内支援体制（プレゼンテーション、協議）（名越） 第7回：特別支援学校のセンター的機能（調査）（名越） 第8回：特別支援学校のセンター的機能（プレゼンテーション、協議）（名越） 第9回：センター的機能におけるコンサルテーションの理論（名越） 第10回：センター的機能におけるコンサルテーションの実際（名越） 第11回：インクルーシブ教育と特別支援教育コーディネータ（名越） 第12回：チーム学校の一員としての特別支援教育コーディネータ（名越） 第13回：特別支援学校の特別支援教育コーディネータに求められる専門性（名越、長江） 第14回：通常の学校の特別支援教育コーディネータに求められる専門性（長江、名越） 第15回：特別支援教育コーディネータのあり方のまとめ（名越、長江）</p>	
<p>子供の発育発達と保健室における養護教諭の実践</p>		<p>子供の発育発達の課題について、保健室における養護教諭の実践事例を取りあげながら、保健室経営、養護活動の実際、協働・連携、組織活動、学校安全・危機管理、健康相談、救急処置、学校環境衛生等の内容と関係して思考を深める。その上で、課題への対応策について、これまでに取り組まれてきた事例を振り返りながら批評し、新たな対応の可能性を追究しながら、養護教諭としての実践能力を高める。</p> <p>授業は、担当教員と受講者との協働による課題探求として進められ、課題の本質にアプローチするとともに、創造的な実践を支える思考と実行力を探求する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（5 戸部 秀之／5回・全教員共同を含む。） （7 関 由紀子／6回・全教員共同を含む。） （10 七木田 文彦／5回・全教員共同を含む。） （17 齋藤 千景／5回・全教員共同を含む。） （75 西尾 尚美）／5回・全教員共同を含む。）</p> <p>第1回：養護教諭が担う職務とは何か（全教員） 第2回：子供の発育発達保証と学校の役割（西尾、戸部） 第3回：健康・発達支援と養護教諭の役割（関、西尾） 第4回：子供の発育発達と保健室という空間（齋藤） 第5回：連携・協働としての養護教諭実践（関） 第6回：学校における組織的活動と子供の発育発達（七木田） 第7回：学校保健活動と養護教諭（戸部） 第8回：学校運営と保健室活動（戸部） 第9回：子供の発育発達事例分析①（齋藤） 第10回：子供の発育発達事例分析②（関） 第11回：子供の発育発達事例分析③（七木田） 第12回：保健室における実践事例分析①（関） 第13回：保健室における実践事例分析②（七木田） 第14回：保健室における実践事例分析③（齋藤、西尾） 第15回：子供の発達の可能性と養護教諭（全教員）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

学級経営、学校経営に関する領域	教育経営の課題探求	<p>学校制度の意義と課題を踏まえ、学校・学級経営に関する多様な理論研究、実践的な基本的知識とスキルを実践的な事例を通して往還しながら獲得し、実践の省察力、改善力、適応力を身につけることを目標とする。a)学校経営、学校（園）組織マネジメント、b)学級、学年経営、c)教員相互の協働（同僚性）と経営参画、d)学校（園）課題解決に向けたファシリテート、について学修し、授業と学びの創造ならびに学校園の管理・運営とファシリテートをトータルなビジョンを有しつつ進められる力量を育成する。</p> <p>（共同方式/全15回）</p> <p>（13 安原 輝彦／主担当5回） （21 庄司 康生／主担当3回） （57 北田 恵子／主担当3回） （83 高橋 哲／主担当4回）</p> <p>第1回：オリエンテーション（庄司、全教員） 第2回：学校制度と学校経営（高橋、全教員） 第3回：学校（園）の組織マネジメント（安原、全教員） 第4回：学級経営等のトータルビジョン（北田、全教員） 第5回：教室の人的力学と相互の関係性（庄司、全教員） 第6回：学びの創造（協働性と対話性）（庄司、全教員） 第7回：家庭、地域と連携を図る経営（安原、全教員） 第8回：教育活動と学校マネジメント（高橋、全教員） 第9回：同僚性の構築と課題（北田、全教員） 第10回：教員研修の充実と専門的力量（北田、全教員） 第11回：管理職のリーダーシップと機能（安原、全教員） 第12回：学級経営の具体的な事例と課題（安原、全教員） 第13回：学校経営の具体的な事例と課題（安原、全教員） 第14回：世界の教育改革と学校改革動向（高橋、全教員） 第15回：日本の教育改革の動向と展望（高橋、全教員）</p>	共同
	学校構想の理論と実践	<p>学校のあり方をめぐる現今の様々な議論を概観し、これからの時代に必要な新しい学校の役割・在り方を構想し実現していくための理論と実践について学ぶ。現代社会や地域、さらに一人ひとりの児童生徒の抱える課題を見据え、児童・生徒、保護者の学校へのニーズの多様化への対応、教職員の労働環境の適正化、職務上の力量の向上などを踏まえ、学校教育全体の課題を適切に設定できるようになるとともに、その解決に向けたさまざまなプログラムを構想・提案できるような力を身につけることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（1 馬場 久志／5回・全教員共同を含む。） （3 船橋 一男／8回・全教員共同を含む。） （4 岩川 直樹／5回・全教員共同を含む。） （9 磯田 三津子／6回・全教員共同を含む。）</p> <p>第1回：オリエンテーション（全教員） 第2回：現代学校論1：知識伝達の間としての学校という視点から（船橋） 第3回：現代学校論2：児童・生徒の社会化の間としての学校という視点から（船橋） 第4回：現代学校論3：変わりゆく社会の中で学校が維持すべき公共性とは（船橋） 第5回：ディスカッション：流動的な社会の中で学校はどう変わっていくか（船橋） 第6回：学校の現在1：格差・貧困問題の学校（岩川） 第7回：学校の現在2：ケアリングとエンパワーメントの間としての学校（岩川） 第8回：学校の現在3：児童・生徒の心理的トラブルへのアプローチ（馬場）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

	<p>第9回：学校の現在4：学校・福祉・心理の各システム間の協働（馬場）</p> <p>第10回：ディスカッション：トラブルを抱えた児童・生徒を前に学校がなしうることは何か（岩川、馬場）</p> <p>第11回：多様性・少数者・学校1：増加する外国人児童と学校の対応（磯田）</p> <p>第12回：多様性・少数者・学校2：LGBTの人権保障と学校（磯田）</p> <p>第13回：ディスカッション：あらゆるニーズに応えうる開かれた柔軟な学校とか（磯田、船橋）</p> <p>第14回：学校の未来像をめぐるミニ・シンポジウム：学校および教育行政関係者を招聘して（磯田、船橋）</p> <p>第15回：学校構想の理論と実践をめぐる総括（全教員）</p>	
<p>現代の健康問題と学校保健の実践的課題</p>	<p>現代的な子供の健康課題として、喫煙・飲酒・薬物乱用、性に関する問題、生活習慣の乱れ、肥満・痩身、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患、体力の低下など、多様化、複雑化する課題を取りあげ、学校内の取り組みにとどまらず、いじめ、虐待、不登校、貧困等の社会的な課題と関わって、具体的にどのように対策が考えられ、課題解決が目指されているのか、これまでの実践事例をもとに探求し、これを批評しながら、今後の対応策について検討する。</p> <p>授業は、受講者と担当教員の協働作業として課題解決の方策が考えられ、創造的実践を妨げる機能や組織、制度等から課題本質を顕在化するとともに、課題解決に向けた具体的方法を追究する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（5 戸部 秀之／5回・全教員共同を含む。） （7 関 由紀子／5回・全教員共同を含む。） （10 七木田 文彦／5回・全教員共同を含む。） （17 齋藤 千景／5回・全教員共同を含む。） （75 西尾 尚美／6回・全教員共同を含む。）</p> <p>第1回：これまでの健康課題とこれからの健康課題（全教員） 第2回：現代の健康課題のとらえ方（戸部、関） 第3回：課題はなぜ課題とされるのか（七木田、西尾） 第4回：健康課題へのアプローチの方法①（戸部） 第5回：健康課題へのアプローチの方法②（西尾） 第6回：現代の子供の健康課題①（関） 第7回：現代の子供の健康課題②（西尾） 第8回：学校保健の実践的課題①（七木田） 第9回：学校保健の実践的課題②（西尾） 第10回：学校保健の構造的課題①（戸部） 第11回：学校保健の構造的課題②（関） 第12回：ヘルス・プロモーションと学校保健（齋藤） 第13回：教育改革と学校保健（齋藤） 第14回：新たな学校保健の創造と教師の専門性（齋藤、七木田） 第15回：課題解決に向けた具体的改善策（全教員）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

学校教育 と教員の 在り方に 関する領 域	学校と教職の課題 探求	<p>子どもと教師、学校内の教師の同僚性、教師と保護者・地域といった関係の中で生ずる学校と教職をめぐる現代的諸課題に対して、多様な研究分野や実践現場で形成された理論的視点や実践的見識を理解すると共に、そこで形成された視点を具体的な状況のなかでの実践的省察や活動的探求に生かしてゆく実践的な専門的力量を形成する。評価方法は、学期末の課題におけるプレゼンテーションとレポートをとおして、諸課題に対する理論的視点や実践的見識の理解、具体的な状況のなかでのそれらの実践的活用を評価するものとする。</p> <p>教師が直面する諸課題をマイクロなものからマクロなものへ広げるなかで、具体的には以下のようなテーマに基づいて学修内容を構成する。a) 気になる子どもとのかかわり、b) 教室の人間関係や人権感覚、c) 教師の同僚性および学校内他職種とのかかわり、d) 保護者や地域の諸機関との関わり、e) 教師の市民性、f) 地域と学校、g) 教育史にみる教師の自律性と専門性、h) 特別支援教育と学級実践、i) 外国につながるのある子どもたちと教育、j) 貧困と教育、k) 小・中連携、l) 働き方改革等関する課題。前半の15回はこれまで形成されてきた多様な理論的視点や実践的見識の理解に主眼を置き、後半の15回は具体的な状況のなかでの事実即しつ、自己自身が他者と共にそれらの視点や見識の実践的活用や探求的発展を行う専門的力量を形成する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全30回)</p> <p>(2 安藤 聡彦 / 6回・全教員共同を含む。) (3 船橋 一男 / 7回・全教員共同を含む。) (4 岩川 直樹 / 9回・全教員共同を含む。) (6 宇佐見 香代 / 5回・全教員共同を含む。) (9 磯田 三津子 / 9回・全教員共同を含む。) (11 長江 清和 / 5回・全教員共同を含む。) (12 石田 耕一 / 5回・全教員共同を含む。) (13 安原 輝彦 / 7回・全教員共同を含む。) (18 櫻井 康博 / 7回・全教員共同を含む。) (60 山田 恵吾 / 6回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：気になる子どもと教師の関わり（磯田、岩川、石田、櫻井） 第2回：教室における子ども同士の間関係（磯田、岩川、石田、櫻井） 第3回：教師の同僚性と学校内他職種との連携（宇佐見、船橋、長江、安原） 第4回：学校と保護者・地域の諸機関との関わり（宇佐見、船橋、長江、安原） 第5回：多様な子どもとの出会いと教師のアイデンティティ（磯田） 第6回：外国につながるのある子どもが抱える問題と文化の多様性（磯田） 第7回：子どもの貧困をめぐる学校の取り組み（岩川） 第8回：貧困をめぐる学校と他機関の共同（岩川） 第9回：教師の市民性（安藤） 第10回：地域と学校の連携による教育実践（安藤） 第11回：教育史にみる教師の自律性と専門性（山田） 第12回：教育史にみる教育課題（山田） 第13回：学校と人間形成（安藤、山田） 第14回：発達支援教育の校内及び保護者との連携（櫻井） 第15回：通常学級と特別支援教育の実際（櫻井） 第16回：教育実践を振り返る一省察の意義と課題（岩川、船橋） 第17回：気になる子どもをめぐる教育実践の実際から学ぶ（岩川、船橋） 第18回：教師の子ども理解と子どもの人間関係を実践を通して振り返る（船橋、宇佐見） 第19回：教師の同僚性を参与観察から学ぶ（船橋、宇佐見） 第20回：学校と保護者・他機関との連携を在り方を考える（安原、磯田） 第21回：教育実践の実際から学ぶ—カリキュラム・シェアリング（安原、磯田） 第22回：社会階層と教育課題（岩川、磯田）</p>	オムニバス 方式・共同 (一部)
-----------------------------------	----------------	---	------------------------

		<p>第23回：ESDの考え方に基づく教育実践（岩川、磯田） 第24回：社会教育と学校教育のつながり（安藤、山田） 第25回：教育史にみる学校の役割（安藤、山田） 第26回：インクルーシブ教育の現状と課題（櫻井、長江） 第27回：埼玉県の特例支援教育から学ぶ（櫻井、長江） 第28回：埼玉県における小・中連携のモデル校から学ぶ（石田、安原） 第29回：学校における働き方改革と今後の課題（石田、安原） 第30回：現代的な教育課題についてのプレゼンテーションー ジョイント・リサーチに向けて（全教員）</p>	
	<p>学校課題改善演習</p>	<p>自校が直面している様々な学校課題を解決するあるいは自校の授業研究・カリキュラム開発等などにかかわる上で、校内研修を全校で組織的に実施・展開する役割を中核として担う（現職）または主体的に参画する（学卒）のに必要な専門性を身につける。いろいろな校種（小・中・高等）の具体事例を扱いながら、学校実践場面での対応を探求していく。具体的な学校課題、例えば学力向上、いじめ・不登校対応、他校種や学校外機関との連携、働き方改革、教育データのリテラシー、学校現場のICT活用や情報モラルなどの内容を講義・演習によってオムニバス形式で学ぶ。そのうえで、受講各自のテーマに沿って、校内研修の効果的な設計（現職）あるいは具体的課題解決の効果的な提案（学卒）のための探求を並行して行い、その成果を基にして受講生の提案発表を行う。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（6 宇佐見 香代／7回・全教員共同を含む。） （12 石田 耕一／6回・全教員共同を含む。） （13 安原 輝彦／6回・全教員共同を含む。） （28 堀田 香織／4回・全教員共同を含む。） （54 椋田 容世／4回・全教員共同を含む。） （64 萩生田 伸子／5回・全教員共同を含む。） （67 野村 泰朗／5回・全教員共同を含む。）</p> <p>第1回：子どもの課題、教員の学びの課題、学校づくりの課題について（宇佐見） 第2回：教育格差と学力向上について（宇佐見） 第3回：チーム学校の在り方と教員の働き方改革について（安原） 第4回：いじめや不登校対応について 教育相談（椋田） 第5回：いじめや不登校対応について 学校外機関との連携（堀田） 第6回：教育データのリテラシー 理論編（萩生田） 第7回：教育データのリテラシー 演習編（萩生田） 第8回：学校現場のICT活用と環境の整備（野村） 第9回：情報モラルについて（野村） 第10回：受講生の探求課題の中間発表（石田） 第11回：学校経営の課題とリスクマネジメント（安原、石田、宇佐見） 第12回：効果的な校内研修の設計や提案、参画（石田、安原、宇佐見） 第13回：受講生の探求課題の発表とディスカッション1（全教員） 第14回：受講生の探求課題の発表とディスカッション2（全教員） 第15回：学校課題を改善していくために必要なこと（全教員）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

学校における実習科目	実地研究 I	<p>学卒院生と現職院生との入学時点での異なる学修課題に対応するために、別個の授業計画を設定する。</p> <p>学卒院生は、連携協力校（園）などの学校（園）から実地研究実施校（園）を設定し、継続的に訪問して学校（園）教育の全体構造への理解を深め、課題を明確にする。以下の研究・観察視点を視野において、活動計画への関与や、観察と臨床的関わり、実践検討や事例演習などを行う。</p> <p>a)教育課程、b)教科指導等の授業実践、c)道徳、特別活動の実践、d)学級経営、e)生徒指導・教育相談、f)保護者活動</p> <p>指導教員は、実習校（園）に出向き実習校（園）教員とともに指導にあたる。</p> <p>現職院生は、これまでの授業実践や教育課題への省察を基礎に、県内の研究推進校などでのフィールドワークを行う。その結果について実地研究 I 報告書を作成する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマについては、児童生徒の実態及び発達理解と学校（園）教育の全体構造とを関連づけ、学校（園）教育における実践を深く理解することを到達目標とする。具体的には、a)教育課程、b)校内体制、c)指導計画の作成と学習指導、d)行動特性の理解、e)児童生徒支援の実際等について基礎的な事柄を理解することである。</p> <p>そのために、学校（園）における様々な教育場面において実践的・臨床的に関わる経験をふまえ、各自が研究テーマを明確にするとともに、学校（園）組織の一員としての実践力の育成も図る。</p>	
	実地研究 II	<p>学卒院生は所属コース及び研究テーマなどに応じて連携協力校等の学校（園）に配属される。そして、事前指導をふまえ大学院指導教員・協力校（園）指導教員の指導助言や現職院生の助言を受けながら、研究テーマの深化を図る実践と演習を行う。</p> <p>現職院生は勤務校（園）において課題解決に向けて実践的に研究を継続する。1年次の研究実践計画書を生かした学校（園）課題の明確化とその分析に基づき、学校（園）内外と協働して課題解決に取り組む力量や、授業改善や多様な教育的ニーズに応じた学習支援等を組織化して学校（園）全体の授業力向上と学習支援等の充実を図る力量などを培う。</p> <p>各院生の課題研究の指導教員が主として指導にあたる。</p> <p>授業の到達目標は、学校（園）教育における自らの課題追究をはじめとした多様な実践の遂行と省察の態度形成である。具体的には、a)課題追求の方法の習得、b)実践における幼児・児童・生徒の実態把握方法の習得、c)実践研究の検証に関する理論と実践の学修である。各自が課題追究計画を立案し実践的に実地研究を行うが、実地研究の具体的内容は各院生の課題テーマのほかにも教科等の指導、学級経営、児童生徒指導などの多角的実践演習を含めるように計画を立てる。また、特に学校（園）全体の教育活動や運営に関するテーマなどでは、研究協力校等における年間教育計画に対応させ、学校（園）での教育活動における位置づけを明確にする必要がある。</p>	
	実地研究 I（特別支援教育）	<p>特別支援教育に関する基礎的知識をもとに、学校での観察や教育実践への参加を通じて、特別な教育的ニーズのある児童・生徒の実態及び発達理解と、特別支援教育における実践力の一層の向上を図ること、特別支援教育における現代的課題を探索することを目的とする。</p>	
	実地研究 II（特別支援教育）	<p>学卒院生は、実地研究 I（特別支援教育）及び課題研究 I（特別支援教育）により深めた特別支援教育に対する問題意識をもとに、実地研究 II（特別支援教育）における実践的課題探求に臨む。</p> <p>現職院生は、勤務校において課題解決に向けて実践的に研究を継続する。学校課題の明確化とその分析をもとに、実際に学校内外と協働して課題解決に取り組む力量や授業改善、また様々な教育的ニーズに応じた適切な学習支援等を組織的にリードし、学校全体の授業力向上や学習支援等の充実をはかる能力を養う。</p>	

	実地研究Ⅰ（学校保健）	学校における保健管理、保健教育、保健組織活動について、子どもの発育発達上の課題やヘルス・プロモーション、エンハンスメントなどの考え方と結びつけながら、教育実践への参加を通じて、実践力の向上と創造的実践の探求を目的とした実地学習を行う。学校保健サブプログラム科目で探求した学びと関連づけながら、実地研究の中でリフレクションを行いながら実践力の向上をはかることを目的とする。	
	実地研究Ⅱ（学校保健）	学卒院生は、実地研究Ⅰ（学校保健）及び課題研究Ⅰ（学校保健）により深めた学校保健についての課題意識をもとに、実地研究Ⅱ（学校保健）における個々の実践的課題の探求に取り組み、状況との対話における実践力を高める。 現職院生は、勤務校において、課題解決に向けて実践的に研究を継続する。課題の明確化とその分析をもとに、実際に学校内外と協働して課題解決に取り組む力量や保健室における対応力の改善、また様々な教育的ニーズに応じた適切な発達支援等を組織的にリードし、学校全体の保健管理面の向上や発育発達上の支援の充実をはかる能力を養う。	
課題研究	課題研究Ⅰ	a)教育課程、b)教科指導、c)生徒指導及び教育相談、d)教育経営、e)学校教育と教員の在り方、f)生徒指導、g)教育相談、h)幼児の発達と支援等について、実地研究Ⅰを含む幅広い実践経験の中から、具体的な実践研究のための課題意識を明確化する。保育・学校教育現場での実践に関わることを通して、児童生徒理解の方法や授業のあり方の等の探求について、教育実践上の課題を設定しその意義も明確にする。実地研究Ⅰ等の実践経験との往還により、複数の指導教員との協議のもと授業を進め、定期的に教育実践のリフレクションを行いながら、その探求の成果を課題研究報告書をまとめる。	
	課題研究Ⅱ	学校教育における実践を深く理解し、児童生徒の実態及び発達の理解と学校教育の全体構造とを関連づけて実践研究を行う。到達目標は、課題研究Ⅰにおいて明確にした、a)教育課程、b)教科指導、c)生徒指導及び教育相談、d)教育経営、e)学校教育と教員の在り方、f)生徒指導、g)教育相談、h)幼児の発達と支援等に関する課題を解決する具体的な方策を立案し、実践を通してその検証を行うことである。課題研究Ⅰで明確にした課題意識に基づき、保育・教育実践上の課題の解決を目指した実践研究を行うことを通して、保育・教育実践に必要な理論と技術を修得する。 これまでの授業実践や教育課題への省察を基礎にして、各自設定したテーマに基づいた実践研究を行う。研究者教員・実務家教員・研究協力校教員との協議を定期的に行いつつ進める実地研究Ⅱとの往還により、保育・学校教育現場での課題解決のための理論と技術を検証・実証し、その成果を実践研究論文としてまとめ、課題研究報告書を作成する。この成果については、課題研究報告会などで発表・発信する。	
	課題研究Ⅰ（特別支援教育）	通常の学校または特別支援学校で取り組まれている特別支援教育の内容に関する基礎的事項と課題を理解することを目標とする。a)特別支援教育における教育課程、b)特別支援教育の校内支援体制、c)特別な教育的支援を必要とする児童生徒の行動特性、d)特別な教育的支援を必要とする児童生徒の支援計画の作成、e)特別な教育的支援を必要とする児童生徒の支援実践についての基礎的事項と課題の理解をはかる。	

	課題研究Ⅱ（特別支援教育）	課題研究Ⅰ（特別支援教育）を通して明確にした特別支援教育に関する課題意識に基づき、通常の学校または特別支援学校における特別支援教育の実践における現代的課題の解決に必要な事項を修得することを目標とする。a)教育課程編成の実際と課題、b)各種アセスメントの実際と課題、c)対象児童・生徒の発達状態の総合的評価と支援目標の設定の実際と課題、d)特別な教育的支援に関わる理論とその応用としての教育実践の実際と課題、e)特別な教育的支援の理論化と今後の課題について理解を深め、課題研究報告書を作成する。	
	課題研究Ⅰ（学校保健）	これまでの保健管理、保健教育、保健組織活動における実践を振り返り、法・制度と社会における子どもの実態の中で課題に対応する教員の実践構造を明確にする。その上で、具体的改善策の探求には、どのような改革のビジョンと能力の開発が必要か、顕在化された状況や問題点を協議しながら、課題研究としてクリエイティブな実践の創造について理解を深める。	
	課題研究Ⅱ（学校保健）	課題研究Ⅰにおいて顕在化した保健管理、保健教育、保健組織活動の課題と実践構造について、個々の実践と学校における他職種との連携、さらに学校間や地域とのつながりの中で、個々の課題と学校や地域に共通した課題を整理しながら、具体的な改善策を探究する。実践研究指導スタッフや実践者などとの協議・協働を通して、学校教育現場での課題解決のための理論と技術を検証・実証し、課題研究報告書を作成する。	
総合教育高度化プログラム科目	学校構想サブプログラム科目	<p>学級づくり論</p> <p>具体的な教育実践の事実在即しながら、教師が身に養う学級づくりの実践的知恵の奥行きを臨床的かつ共同的に明らかにしてゆくことを目的としている。教師のまなざしはそれぞれの子どもの自己形成にどのような作用をおよぼしているのか、子どもたちの声が響き合い、編み合わされるような授業はどのようにしてつくられてゆくものなのか、教室を多様な背景をもつ子どもたちが共に学ぶ場にしてゆくために教師はどのような実践的知恵を発揮しているのか。</p> <p>授業方法は、教育実践記録の読みを交流し合うリーディング・ワークショップと、熟練教師の授業の構想・実施・省察の過程に伴走的に参加するカリキュラム・シェアリングの、二つの形式で行う。岩川は教師と子どもの関係づくりを、宇佐見は学びの共同体づくりを、磯田は多様な子どもの参加を、安原はカリキュラム・シェアリングにおける学校との往還を、主に担当する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(4 岩川 直樹／8回・全教員共同を含む。) (6 宇佐見 香代／8回・全教員共同を含む。) (9 磯田 三津子／9回・全教員共同を含む。) (13 安原 輝彦／9回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：オリエンテーション—学級づくりの諸相（全教員） 第2回：教師の実践的見識の表現と共有（岩川、宇佐見） 第3回：実践記録を書くということ（岩川） 第4回：実践記録を読み合うということ（宇佐見） 第5回：リーディング・ワークショップの意義と方法（岩川、宇佐見） 第6回：リーディング・ワークショップ1—教師と子どもの関係づくり（岩川、宇佐見） 第7回：リーディング・ワークショップ2—子どもと子どもの関係づくり（岩川、宇佐見） 第8回：リーディング・ワークショップ3—教室の保護者との関係づくり（磯田、安原） 第9回：リーディング・ワークショップ4—地域の市民との関係づくり（磯田、安原） 第10回：学級づくりにおける実践の構想・実施・省察のプロセス（岩川、宇佐見、磯田、安原）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

	<p>第11回：カリキュラム・シェアリングの意義と方法（磯田、安原） 第12回：カリキュラム・シェアリング1—実践構想の共有（磯田、安原） 第13回：カリキュラム・シェアリング2—実践場面の共有（磯田、安原） 第14回：カリキュラム・シェアリング3—実践的省察の共有（磯田、安原） 第15回：レポートの発表と交流（全教員）</p>	
学校と社会論	<p>経済（産業・労働）をはじめとするめまぐるしい社会の変動をふまえ、今後予想される不確実性にみちた未来社会を展望したとき、そこを生きる人間をどう育てるのかという観点から、現在進行している学校教育の改革動向を深く理解し、場合によっては批判的に吟味していくことを目標に実施する。a)教育目標の変化、b)教育内容の変化、c)指導方法の変化といった次元で、それらの現在と未来の社会変動との対応関係を具体的にみてとれる事例を紹介・解説し、参加者間で逐次意見を述べあったりしながら検討を加え、認識を深めていくことにしたい。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（3 船橋 一男／11回） （67 野村 泰朗／10回）</p> <p>第1回：ガイダンス（船橋、野村） 第2回：＜学校と社会＞をめぐる現況1：経済・産業界の動向と教育への要請（船橋） 第3回：＜学校と社会＞をめぐる現況2：変容する社会におけるキャリア教育（船橋） 第4回：地域社会とともにある学校：コミュニティースクールの変遷（船橋） 第5回：地域社会とともにある学校：保護者・地域住民の学校運営への参画（船橋） 第6回：地域社会とともにある学校：地域社会の文化資源を活用した教育実践（船橋） 第7回：以上をめぐる参加者によるディスカッション（船橋、野村） 第8回：学習・メディア環境の変容と学校：AI時代の教育と学校（船橋、野村） 第9回：学習・メディア環境の変容と学校：学校におけるICT活用の現状と課題（海外の最新事情）（野村） 第10回：学習・メディア環境の変容と学校：学校におけるICT活用の現状と課題（日本の実情と課題）（野村） 第11回：学習・メディア環境の変容と学校：専門家との協働によるSTEAM教育の試み（事例紹介）（野村） 第12回：学習・メディア環境の変容と学校：STEAM教育を体験してみよう（ワークショップ）（野村） 第13回：学びへの多様なニーズとそれに対応する学校のすがた（船橋、野村） 第14回：未来の学校に向けた改善点（ハード面とソフト面）をめぐる参加者の討論（船橋、野村） 第15回：講義全体のまとめ（船橋、野村）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
学校と児童生徒理解の心理学	<p>今日の学校における学習指導、生活指導などにわたる諸課題を子どもの学びと生活の観点からとらえ、子ども理解の深化を図りながら、諸課題に対する実践への示唆を得る。そのために、子どもの学びと生活の現実や、教員、保護者の関わりを知る活動を重ねて、子どもの発達と学習、社会関係、心理についての基礎的及び臨床的知見を援用し、心理支援の実践的課題に取り組む際の新たな視点を獲得。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

	<p>(1 馬場 久志／13回) 主に学校の活動と子どもの実態の把握を中心に担当する。 適宜効果的に共同参画する。</p> <p>(28 堀田 香織／6回) 主に子どもの心理支援の実践的検討について中心に担当する。 適宜効果的に共同参画する。</p> <p>第1回：子ども的一天（馬場、堀田） 第2回：授業の時間（馬場） 第3回：放課後や家庭の時間（馬場） 第4回：部活動や課外活動（馬場） 第5回：学校や学級の空間（馬場） 第6回：子どもの発達と学年（馬場） 第7回：子どもたちの関係、いじめ問題（堀田、馬場） 第8回：子どもと親・家族（堀田） 第9回：子どもと教師（堀田、馬場） 第10回：子どもの悩み（堀田） 第11回：不登校（馬場） 第12回：学業不振（馬場） 第13回：子どもの時間展望（馬場） 第14回：子どもの権利（馬場） 第15回：心理支援の可能性（総括）（馬場、堀田）</p>	
<p>学校臨床心理学実践演習</p>	<p>学校臨床心理学の理論をもとに、学校臨床の特性を理解し、多様な課題を持つ学校支援につながる有効な学校臨床心理学実践について学ぶ。学校コミュニティが抱える事例をもとに、その実際について検討し理解を深める。学校や、児童・生徒、保護者、教師への心理教育的援助および連携のあり方などについての具体的な学びを通して、実践的力量を育成する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(28 堀田 香織／4回) (54 棕田 容世／13回)</p> <p>第1回：イントロダクション：授業の概要と進め方（棕田、堀田） 第2回：学校臨床心理学とは：基礎となる特性（棕田） 第3回：コミュニティとしての学校（1）学校コミュニティの特徴と心理教育的援助サービスの対象（棕田） 第4回：コミュニティとしての学校（2）学校コミュニティのアセスメントと援助の方法（棕田） 第5回：児童・生徒への心理教育的援助（1）心理教育的援助サービスの基礎概念（棕田） 第6回：児童・生徒への心理教育的援助（2）心理教育的援助サービスのモデル（棕田） 第7回：保護者への心理教育的援助（1）保護者への援助のあり方（棕田） 第8回：保護者への心理教育的援助（2）パートナーとしての保護者との連携（棕田） 第9回：直接的援助：教師が行う直接的な援助（棕田） 第10回：間接的援助：援助者同士のコンサルテーション、コーディネーションとチーム援助（棕田） 第11回：学校危機と緊急支援：緊急支援における連携や方法（棕田） 第12回：学校臨床心理学の課題と心理教育的援助における倫理（棕田） 第13回：学校臨床心理学の実際（1）ケース1（堀田） 第14回：学校臨床心理学の実際（2）ケース2（堀田） 第15回：総括（棕田、堀田）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>心理学的方法の活用と探求</p>	<p>根拠に基づいた教育実践をおこなうためには論拠となる資料の収集が不可欠である。そこで、学校現場で必要とされる学校・地域・家庭・児童の実態把握や、実践の有効性を科学的・客観的に検証をしていく心理学的方法論について、アンケート調査や聞き取り調査、面接などのデータの収集法、および、収集したデータの質的・量的分析方法を中心に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(28 堀田 香織 / 5回) 主に、聞き取り・面接法などの質的な分野を担当する。 適宜効果的に共同参画する。</p> <p>(64 萩生田 伸子 / 12回) 主に、学校現場で使用される調査法のうち量的な分野を担当する。</p> <p>第1回：心理学的方法論とは (萩生田、堀田) 第2回：さまざまな資料収集法 (萩生田) 第3回：既存資料の活用 (萩生田) 第4回：調査の計画と調査項目の作成 (萩生田) 第5回：アンケートの実施 (萩生田) 第6回：量的資料の整理法(1)記述統計 (萩生田) 第7回：量的資料の整理法(2)回帰分析 (萩生田) 第8回：量的資料の整理法(3)PCAと因子分析 (萩生田) 第9回：量的資料の整理法(4)クラスター分析 (萩生田) 第10回：量的資料の整理法(5)SEM (萩生田) 第11回：量的資料の整理法(6)カテゴリカルデータの分析 (萩生田) 第12回：対象者に応じた面接の技法 (堀田) 第13回：聞き取りの技術 (堀田) 第14回：質的資料の取り扱い (堀田) 第15回：心理学的方法論の活用 (総括) (萩生田、堀田)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>カウンセリング実践演習</p>	<p>学校が抱えるいじめ、不登校、保護者対応の問題など、差し迫った解決課題のために学校現場で応用可能なカウンセリング実践について学ぶ。学校カウンセリング・学校臨床心理学の理論的学習と共に、紙上応答構成法、ロールプレイなどの演習を行い、さらに自分の教育実践を振り返りながら、「教育相談」および「学校コンサルテーション」の実践的力量を育てる。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(28 堀田 香織 / 10回) (54 棕田 容世 / 7回)</p> <p>第1回：ガイダンス (堀田、棕田) 第2回：紙上応答構成法 (堀田) 第3回：紙上応答構成法 (堀田) 第4回：紙上応答構成法 (堀田) 第5回：理論的学習 その1 「試行カウンセリング」輪読 (堀田) 第6回：理論的学習 その2 「試行カウンセリング」輪読 (堀田) 第7回：理論的学習 その3 「試行カウンセリング」輪読 (堀田) 第8回：ロールプレイ (堀田) 第9回：ロールプレイ (堀田) 第10回：ロールプレイ (棕田) 第11回：ロールプレイ (棕田) 第12回：ロールプレイ振り返りカンファレンス (棕田) 第13回：ロールプレイ振り返りカンファレンス (棕田) 第14回：ロールプレイ振り返りカンファレンス (棕田)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

	第15回：ロールプレイ振り返りカンファレンス（堀田、椋田）	
心理・学習評価演習	<p>教育政策、動機づけと学習意欲、教育評価などの観点から児童・生徒の学びを取り巻く諸要因について議論を通じて理解を深める。さらに学びの現状や子どもたちの有りようを適切に把握する手法の一つとして使用されるテストについて、作成の方法(作問から信頼性、妥当性を含めた項目の性質の検討まで)、テストの実施、入手したデータの分析方法、結果の利用方法について実習を通じて検討をおこなう。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(1 馬場 久志／9回) 主に教育政策、動機づけと学習意欲を中心に担当する。 適宜効果的に共同参画する。</p> <p>(64 萩生田 伸子／8回) 主にテスト作成、項目の検討、結果の活用方法の実習を中心に担当する。適宜効果的に共同参画する。</p> <p>第1回：教育評価とは（馬場、萩生田） 第2回：学校における教育評価（馬場） 第3回：学力調査の検討(1)国際学力調査（馬場） 第4回：学力調査の検討(2)国内学力調査（馬場） 第5回：学習動機づけ・学習意欲の評価（馬場） 第6回：通知表と指導要録（馬場） 第7回：児童生徒から見た教育評価（馬場） 第8回：大人からの評価視線の問題（馬場） 第9回：教育評価のための資料収集（萩生田） 第10回：さまざまなテスト（萩生田） 第11回：テスト項目の作成（萩生田） 第12回：項目の性質を検討する(1)記述的方法（萩生田） 第13回：項目の性質を検討する(2)信頼性と妥当性ほか（萩生田） 第14回：評価に関わるバイアス（萩生田） 第15回：評価資料の活用（総括）（馬場、萩生田）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
総合・道徳開発演習	<p>生活科・総合的な学習の時間及び、道徳教育のより良い教育実践のあり方を検討し、実践的な力量を高める。そのために、理論に関する学修に加え、現在試みられつつある多様な実践事例にふれる。生活科・総合的な学習の時間については、国際理解、情報、環境、福祉・健康、キャリアに代表される幅広いテーマに基づいて、各教科との関連をはかりながらカリキュラムを実際に構成し、効果的に学習指導を展開できる方策について検討し、理解を深める。道徳教育については、現実の子どもの道徳的な葛藤や苦悩にこたえることを軸にした教育実践をいかに行うことができるのかについて探求する。</p> <p>授業は講義形式のみではなく、演習形式を交えて行う。理論の理解の程度を、演習でのディスカッションや授業計画立案の内容及び、学期末に行う試験によって評価する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(3 船橋 一男／4回) (4 岩川 直樹／4回) (6 宇佐見 香代／5回) (9 磯田 三津子／5回)</p> <p>第1回：総合的な学習の時間で育成すべき学力とは何か（宇佐見） 第2回：生活科実践の特質と課題（宇佐見） 第3回：生活科の実践（事例検討）（宇佐見） 第4回：総合的な学習実践の特質と課題（磯田） 第5回：初等教育段階の総合的な学習の実践（事例検討）（磯田）</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義14時間 演習16時間

		<p>第6回：中等教育段階の総合的な学習の実際（事例検討）（磯田）</p> <p>第7回：総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント（磯田、宇佐見）</p> <p>第8回：持続可能な社会と総合的な学習の時間（磯田、宇佐見）</p> <p>第9回：道徳教育の目的と学習のありかた（岩川）</p> <p>第10回：道徳性の発達と教育（岩川）</p> <p>第11回：道徳教育の教材（岩川）</p> <p>第12回：道徳教育の実際（事例検討）（船橋）</p> <p>第13回：初等教育段階の道徳教育の実際（事例検討）（船橋）</p> <p>第14回：中等教育段階の道徳教育の実際（事例検討）（船橋）</p> <p>第15回：道徳教育の教育内容と教材（岩川、船橋）</p>	
	教育工学開発演習	<p>学習者の学びの内容、過程、そこに関わる教師と学習者との対話を系統的に捉え、学習科学を中心に多様な分野の知を統合し、学校現場の課題を解決できる具体的な教育実践を提案しようとする工学的アプローチについて探求する。そのために、インストラクショナルデザインおよび関連する設計原理に関する講義、事例研究討議と教育現場でのフィールドワークを往還し臨床的に理解を深める。実践研究者として日々教育課程の改善に取り組むために必要な、教材研究、授業研究の先端的な手法についても取り上げる。</p> <p>授業は講義形式のみではなく、討論形式、演習形式を交えて行う。理論の理解の程度を、演習でのディスカッションや授業計画立案の内容及び、学期末に行う試験によって評価する。</p> <p>（単独方式／全15回）</p> <p>（67 野村 泰朗）</p> <p>第1回：教育課程の改善とシステム思考</p> <p>第2回：教師の役割と教育</p> <p>第3回：インストラクショナルデザインと授業づくり</p> <p>第4回：教材研究と教育目標，教育課程編成，カリキュラムマネジメント</p> <p>第5回：教育評価と行動科学</p> <p>第6回：教材研究と次元わけ分析</p> <p>第7回：学習科学と教師モデル，学習者モデル</p> <p>第8回：教師の意思決定と授業計画</p> <p>第9回：授業評価とマイクロティーチング</p> <p>第10回：ICT活用と教授スキル</p> <p>第11回：e-Learningと教材開発</p> <p>第12回：羅生門的-工学的を超える実践研究</p> <p>第13回：デザインベースドリサーチ，一人称研究等の実践研究手法</p> <p>第14回：授業研究，教員研修と教育課程の改善</p> <p>第15回：教育の機械化と教師の役割</p>	講義10時間 演習20時間
特別支援教育サブプログラム科目	発達臨床アセスメント演習	<p>特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態について、背景にある児童・生徒に内在する要因や環境の要因との関連を理解し、困難を軽減し、良さを伸ばすための効果的な支援のあり方を見出す力の向上を目的とする。</p> <p>a) 児童・生徒の認知・学力・行動のアセスメントのあり方について、教育現場における先進的な取り組みや研究の成果を踏まえて議論する。</p> <p>b) 児童・生徒の実態を把握するためのアセスメントを実施し、アセスメント結果と解釈について報告し、適切な支援のあり方について具体的に討議する。</p> <p>b) の実施に際し、附属特別支援学校の協力を得、報告結果についても特別な教育的ニーズのある子供の実態把握・指導経験の豊富な教員から意見をもらう。そうすることで、学校現場に即したアセスメントの実施～報告のトレーニングを行うことができる。</p> <p>（単独方式／全15回）</p> <p>（8 名越 斉子）</p>	

		<p>第1回：特別支援学校における児童生徒の実態把握における現状と課題 第2回：通常の学校における児童生徒の実態把握における現状と課題 第3回：子供に内在する特性のアセスメント（知能、実行機能） 第4回：子供に内在する特性のアセスメント（適応行動、学力） 第5回：子供に内在する特性を踏まえた指導 第6回：環境のアセスメント 第7回：子供の特性と環境の相互作用のアセスメント 第8回：アセスメントの実施（データ収集） 第9回：アセスメントの実施（データ処理） 第10回：アセスメントの実施（データ分析と整理） 第11回：アセスメントの実施（データ分析と整理（続き）） 第12回：アセスメントの実施（結果を踏まえた指導支援） 第13回：アセスメントの実施（プレゼンテーション、協議） 第14回：アセスメントから合理的配慮、個に応じた支援への活用のあり方 第15回：まとめ</p>	
	<p>特別支援教育実践研究</p>	<p>特別支援学校学習指導要領の変遷を学びつつ、各種の実践報告を検討することを通して、特別支援教育実践のあり方を検討する。</p> <p>a) 特別支援学校学習指導要領の変遷を理解する。 b) 特別支援学校の各種の実践報告を収集し、子ども理解、教育目標の設定、内容・方法の精選、教材教具の工夫、評価基準の設定について議論する。 c) 特別支援教育に携わる教師の専門性並びに授業改善のあり方について議論する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）/全15回）</p> <p>（11 長江 清和／7回） （79 山中 冴子／10回）</p> <p>第1回：特別支援教育実践を検討する視点について（山中、長江） 第2回：特別支援学校学習指導要領の変遷とポイント（1）～各種キーワードの整理（山中） 第3回：特別支援学校学習指導要領の変遷とポイント（2）～通常教育との連続性について（山中） 第4回：特別支援学校学習指導要領の変遷とポイント（3）～各教科の指導について（山中） 第5回：特別支援学校学習指導要領の変遷とポイント（4）～各教科等を合わせた指導について（山中） 第6回：特別支援学校学習指導要領の変遷とポイント（5）～自立活動について（山中） 第7回：教育実践例の検討（1）～知的障害特別支援学校小学部に焦点を当てて（長江） 第8回：教育実践例の検討（2）～知的障害特別支援学校中学部に焦点を当てて（長江） 第9回：教育実践例の検討（3）～知的障害特別支援学校高等部に焦点を当てて（長江） 第10回：教育実践例の検討（4）～知的障害児童が在籍する小学校に焦点を当てて（長江） 第11回：教育実践例の検討（5）～知的障害生徒が在籍する中学校に焦点を当てて（長江） 第12回：現代的な教育テーマの検討（1）～特別支援教育に携わる教師の専門性をめぐって（山中） 第13回：現代的な教育テーマの検討（2）～特別支援教育に携わる教師の専門性向上をめぐって（山中） 第14回：現代的な教育テーマの検討（3）～知的障害教育の授業改善をめぐって（山中） 第15回：まとめ（山中、長江）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>障害児教育実践の課題探求法</p>	<p>障害のある児童生徒の教育、心理、指導法に関する論文の精読を通して、障害のある児童生徒に対する教育実践上の課題を探るとともに、その解決に必要な基礎理論の徹底した理解を目標とする。また課題探求に必要な多様な方法論について理解を深める。</p> <p>a) 特別支援教育の制度に関する課題の理解を深め、課題への接近の方法論を理解する。</p> <p>b) 障害のある児童生徒の特性理解に関する課題の理解を深め、課題への接近の方法論を理解する。</p> <p>c) 障害のある児童生徒の学習支援に関する課題の理解を深め、課題への接近の方法論を理解する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(8 名越 齊子 / 7回) (50 葉石 光一 / 7回) (79 山中 冴子 / 7回)</p> <p>第1回：障害児教育の現状と課題 (葉石、名越、山中) 第2回：知的障害児教育の制度 (山中) 第3回：知的障害特別支援学校の教育課程 (山中) 第4回：知的障害児と就学 (山中) 第5回：病弱児・肢体不自由児教育の課題 (山中) 第6回：知的障害児の心理生理学的理解 (葉石) 第7回：知的障害児の病理的理解 (葉石) 第8回：病弱児・肢体不自由児・重複障害児の心理生理学的理解 (葉石) 第9回：知的障害児の心理学的理解と教育実践 (葉石) 第10回：知的障害児の個別の教育支援計画・指導計画 (名越) 第11回：知的障害児教育における連携 (名越) 第12回：知的障害児教育における保護者対応 (名越) 第13回：発達障害 (限局性学習症・注意欠如多動症・自閉スペクトラム症) と通常の教育 (名越) 第14回：障害児教育実践に関する課題探求のプレゼンテーション (葉石、名越、山中) 第15回：障害児教育実践に関する課題探求のまとめ (葉石、名越、山中)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>インクルーシブ教育演習</p>	<p>インクルーシブ教育の理論動向の理解、多様なインクルーシブ教育の実践の理解を通して、インクルーシブ教育の実践のあり方を学ぶ。</p> <p>a) 国際機関の関連動向を理解する。</p> <p>b) 日本における関連動向を理解する。</p> <p>c) 日本におけるインクルーシブ教育実践を収集し、検討する。</p> <p>(単独方式/全15回)</p> <p>(79 山中 冴子)</p> <p>第1回：インクルーシブ教育推進の背景 第2回：インクルーシブ教育理論について (1) ～国際機関に焦点を当てて 第3回：インクルーシブ教育理論について (2) ～国内に焦点を当てて 第4回：インクルーシブ教育理論について (3) ～国外に焦点を当てて 第5回：インクルーシブ教育に関連する教育理論 (1) ～就学へのトランジション 第6回：インクルーシブ教育に関連する教育理論 (2) ～社会へのトランジション 第7回：インクルーシブ教育に関連する教育理論 (3) ～インクルーシブ・カリキュラム 第8回：インクルーシブ教育実践例の検討 (1) ～小学校段階に焦点を当てて 第9回：インクルーシブ教育実践例の検討 (2) ～中学校段階に焦点を当てて 第10回：インクルーシブ教育実践例の検討 (3) ～高校段階に焦点を当てて</p>	

	<p>第11回：インクルーシブ教育実践例の検討（４）～就学へのトランジション 第12回：インクルーシブ教育実践例の検討（５）～社会へのトランジション 第13回：インクルーシブ教育における教員の専門性の検討 第14回：インクルーシブ教育のための教員の質的向上に向けた手立ての検討 第15回：まとめ</p>	
障害児心理学の実践と課題A	<p>本講義では、障害のある児童生徒の学習支援の場において心理学的知識を活用する力を養うことを目標とする。具体的には、動機づけ、実行機能、メタ認知、社会性について概念整理を行い、これらの心理機能が学習上のどのような場面・内容と結びついているのか、理解を深める。</p> <p>a) 学習場面における動機づけ、実行機能、メタ認知、ワーキングメモリ、社会性に関する基本的な考え方を整理し、理解を深める。</p> <p>b) a)の内容を踏まえ、障害のある児童生徒の学習場面での支援について具体的に考察する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(11 長江 清和／4回) (50 葉石 光一／12回)</p> <p>第1回：障害児の心理生理学的特性の理解（肢体不自由と運動機能）（葉石） 第2回：障害児の心理生理学的特性の理解（肢体不自由と実行機能・メタ認知）（葉石） 第3回：障害児の心理生理学的特性の理解（肢体不自由と自尊感情）（葉石） 第4回：障害児の心理生理学的特性の理解（肢体不自由と動機づけ・社会性）（葉石） 第5回：障害児の心理生理学的特性の理解（知的障害・病弱）（葉石） 第6回：肢体不自由児の心理教育アセスメント（WISC-IV）（葉石） 第7回：知的障害児・病弱児の心理教育アセスメント（WISC-IV）（葉石） 第8回：肢体不自由児の支援実践（学び方の偏りに対する支援実践）（葉石） 第9回：肢体不自由児の支援実践（認知特性に対する支援実践）（葉石） 第10回：肢体不自由児の支援実践（自尊感情・動機づけに対する支援実践）（葉石） 第11回：肢体不自由児の支援実践（社会性・コミュニケーションに対する支援実践）（葉石） 第12回：知的障害児・病弱児の支援実践（長江） 第13回：障害児の教育支援に関するプレゼンテーション（長江） 第14回：障害児の支援実践に関する議論（長江） 第15回：まとめ（葉石、長江）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
障害児心理学の実践と課題B	<p>本講義では、国際生活機能分類（ICF）の考え方について知識を整理した上で、障害のある児童生徒を対象とする教育支援の組み立て方について理解を深めることを目標とする。その過程で、動機づけ、実行機能、メタ認知、社会性といった心理学的知識の応用の仕方の理解の一層の深化を目指す。</p> <p>a) 国際生活機能分類（ICF）の基本的な考え方を整理し、理解を深める。</p> <p>b) a)の内容を踏まえ、障害のある児童生徒の学習場面での支援について具体的に考察する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(11 長江 清和／5回) (50 葉石 光一／12回)</p> <p>第1回：障害概念の理解（国際障害分類）（葉石、長江）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

		<p>第2回：障害概念の理解（国際生活機能分類）（葉石） 第3回：自立活動と国際生活機能分類（葉石） 第4回：病弱児の教育と国際生活機能分類（葉石） 第5回：病弱児の心理特性の理解（自尊感情と動機づけ）（葉石） 第6回：病弱児の心理特性の理解（実行機能と知能）（葉石） 第7回：病弱児の心理統制の理解（社会性とコミュニケーション）（葉石） 第8回：知的障害児・肢体不自由児の心理特性の理解（葉石） 第9回：病弱児の支援実践（自尊感情・動機づけに対する支援）（葉石） 第10回：病弱児の支援実践（認知特性に対する支援）（葉石） 第11回：病弱児の支援実践（社会性・コミュニケーションに対する支援）（葉石） 第12回：病弱児の個別の教育支援計画（長江） 第13回：病弱児の個別の指導計画（長江） 第14回：知的障害児・肢体不自由児の支援実践（長江） 第15回：まとめ（葉石、長江）</p>	
学校保健サブプログラム科目	学校保健の理論と実践の探求	<p>学校保健領域における課題について、実践的課題のとらえ方とその解決の方法について探求する。これまでに構築されている日本の学校保健システムは、法・制度の確立とともに、日々ルーティン化されている活動と、各時代と社会の中で生起する実態、課題に対応した実働的な機能がある。こうした中で営まれてきた実践から、試みられてきた課題解決アプローチを批評し、かつ、再考しながら、新たな実践に必要な条件を検討する。例えば、学校保健活動を支える人びととその役割、機能について評価・再考する等、事例をあげながら各課題について講義・演習を展開する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（5 戸部 秀之／10回） （17 齋藤 千景／10回）</p> <p>第1回：学校保健の実践的課題（戸部、齋藤） 第2回：学校保健システムの構造的課題（戸部、齋藤） 第3回：学校保健活動を支える人びと（戸部、齋藤） 第4回：学校保健活動の事例分析①（戸部） 第5回：学校保健活動の事例分析②（戸部） 第6回：学校保健活動の事例分析③（齋藤） 第7回：学校保健活動の事例分析④（齋藤） 第8回：データと実態が示す子供と学校保健の課題①（戸部） 第9回：データと実態が示す子供と学校保健の課題②（齋藤） 第10回：学校保健の課題と分析の方法①（戸部） 第11回：学校保健の課題と分析の方法②（戸部） 第12回：学校保健の課題と分析の方法③（齋藤） 第13回：学校保健の機能を再考する（齋藤） 第14回：チーム学校と学校保健（齋藤、戸部） 第15回：新たな学校保健のデザイン（齋藤、戸部）</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義10時間 演習20時間
	保健教育の実践と課題の探求	<p>保健教育についての教育内容、教材研究、教授方法、学習者論など、保健授業でこれまでに試みられてきた実践上の課題と各研究アプローチを整理・批評し、改善の視点を探求しながら、新たな授業デザインの方法とそれを支える考え方、実践の多様なヴァリエーションについて追究する。</p> <p>授業は、講義形式のみではなく、校内研究会への参与研究、授業実践VTRを用いた事例研究、演習形式を交えて行う。講義内容の理解度は、ディスカッションやミニレポートなどの作成において評価する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（5 戸部 秀之／10回） （10 七木田 文彦／10回）</p> <p>第1回：保健教育の内容構成原理（七木田、戸部） 第2回：保健授業の教材論①（戸部、七木田） 第3回：保健授業の教材論②（戸部、七木田）</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義10時間 演習20時間

	<p>第4回：保健授業の事例分析①（戸部） 第5回：保健授業の事例分析②（七木田） 第6回：保健授業の事例分析③（七木田） 第7回：保健授業の参与観察①（戸部） 第8回：保健授業の参与観察②（七木田） 第9回：保健授業の参与観察③（七木田） 第10回：保健授業づくりと行動科学①（戸部） 第11回：保健授業づくりと行動科学②（戸部） 第12回：保健教育の実践上の課題（戸部） 第13回：保健授業における学びの創造（七木田） 第14回：保健授業の創造とデザイン（七木田、戸部） 第15回：保健授業の省察（七木田、戸部）</p>	
保健管理の実践と課題の探求	<p>子どもの健康状態に関する情報とその活用、近年の疾病構造に対応した予防と管理について、具体的事例を取りあげながら保健管理の役割について探求する。さらに、これまでの医学研究の成果、エビデンスが、学校において、どのような影響を持ち、どのように機能しているのか、または機能していないのか、その実態の事例を取りあげながら検討する。また、感染症対策にも見られるように、家庭・地域との関係からみる保健管理上の課題等についても取りあげ、医療と学校の連携、地域と学校との関係を再考しながら、クリエイティブな保健管理システムの改革ビジョンについて検討する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（7 関 由紀子／10回） （75 西尾 尚美／10回）</p> <p>第1回：保健管理の実践的課題（関、西尾） 第2回：保健管理の実態と評価－健康状態のチェッカー（関、西尾） 第3回：疾病構造の変遷と学校管理上の対策（西尾、関） 第4回：保健管理と養護教諭（関） 第5回：保健管理と保健室の機能（関） 第6回：慢性疾患と保健管理（西尾） 第7回：感染症と保健管理（西尾） 第8回：医学研究のエビデンスと学校の実態①（関） 第9回：医学研究のエビデンスと学校の実態②（西尾） 第10回：医学研究のエビデンスと学校の実態③（西尾） 第11回：保健管理の事例分析①（関） 第12回：保健管理の事例分析②（関） 第13回：保健管理の事例分析③（西尾） 第14回：保健管理を支える人々・機能・法・制度をデザインする（関、西尾） 第15回：保健管理への参画（西尾、関）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
養護教諭の専門家としての成長	<p>変革期の学校における養護教諭の職務内容と仕事の特質、不登校や保健室登校等に象徴される社会的課題と養護教諭の関わり、養護教諭の養成、研修、実践における成長、キャリア形成に至る専門家としての資質・能力について事例を取りあげ、養護教諭の専門家としての成長条件について検討する。さらに、これまでの実践報告に見られるケース・スタディの中から、養護教諭の実践構造の変化等に注目し、健康の専門家としての成長過程を探求する。</p> <p>授業は、講義形式のみではなく、演習形式を交えて行う。講義内容の理解度は、ディスカッションやミニレポートなどの作成において評価する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（10 七木田 文彦／10回） （17 齋藤 千景／10回）</p> <p>第1回：養護教諭の専門性とは何か（齋藤、七木田） 第2回：養護教諭研究の現在（齋藤、七木田） 第3回：養護教諭とケア（七木田、齋藤） 第4回：養護教諭の力量形成①（齋藤） 第5回：養護教諭の力量形成②（七木田）</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義10時間 演習20時間

		<p>第6回：教育改革と養護教諭（七木田） 第7回：養護教諭の実践事例分析①（齋藤） 第8回：養護教諭の実践事例分析②（齋藤） 第9回：養護教諭の実践事例分析③（七木田） 第10回：養護教諭の実践事例分析④（七木田） 第11回：養護教諭の研修・養成（齋藤） 第12回：スクールナースと養護教諭（七木田） 第13回：養護教諭の職務変化（齋藤） 第14回：養護教諭像はどのように形作られるか（七木田、齋藤） 第15回：「養護」とは何か（齋藤、七木田）</p>	
	教育生理の臨床と子供の成長課題	<p>子供の発育発達上の特徴について、遺伝子と環境要因による発現と作用、疾病のメカニズムと日常生活におけるリスク等について、事例を基に現在の課題と解決策を探究する。子供を取り巻く社会的環境として、栄養・学校給食・食育、感染症対策、アレルギー疾患、心臓疾患、腎臓疾患等の医療的ケア、発達障害等の教育生理上のメカニズムと学校における営みから受講者が課題を取りあげ、担当教員との協働することで課題解決の方法を追究する。今後、改善すべき内容については、学校における子供の成長発達と関わって、マジョリティとマイノリティへの異相の対応策の違いと個人情報管理の視点から、健康と成長についての課題を検討する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（7 関 由紀子／10回） （75 西尾 尚美／10回）</p> <p>第1回：子供の発育発達と遺伝要因（西尾、関） 第2回：子供の発育発達と環境（西尾、関） 第3回：子供の発育発達とリスク（関、西尾） 第4回：子供の疾病と日常生活（西尾） 第5回：先天性疾患と学校生活（西尾） 第6回：子供の医療的ケア（関） 第7回：発達障害と学校保健（関） 第8回：発育発達と学校における個人情報管理（関） 第9回：学校で見られる疾患の対応事例①（西尾） 第10回：学校で見られる疾患の対応事例②（西尾） 第11回：学校で見られる疾患の対応事例③（西尾） 第12回：学校と医療機関の連携・協働（関） 第13回：医療機関における治療の継続と通学（関） 第14回：発育発達と栄養（西尾、関） 第15回：疾患を抱えた子供と学校の役割（関、西尾）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
子ども共育サブプログラム科目	子ども支援の実践と制度	<p>子どもの支援において、子どもを単なる大人に保護される客体としてみるのではなく、一人の人間として、そして固有の権利を有する主体としてとらえることが極めて重要である。「権利主体」としての子どもを支援する制度や政策の在り方、教育の目的や方法について、国内・海外の現代的課題や事例を踏まえ、理論と実践の両面から探求する。</p> <p>（共同方式/全15回）</p> <p>（57 北田 佳子・83 高橋 哲）</p> <p>第1回：なぜ、子ども支援に「実践と制度」が重要か？（北田、高橋） 第2回：子ども支援の制度論的課題①「実践を支える教育制度1」（高橋、北田） 第3回：子ども支援の制度論的課題①「実践を支える教育制度2」（高橋、北田） 第4回：子ども支援の制度論的課題②「実践を阻害する教育制度1」（高橋、北田） 第5回：子ども支援の制度論的課題②「実践を阻害する教育制度2」（高橋、北田） 第6回：子ども支援の制度論的課題③「海外の教育制度1」（高橋、北田） 第7回：子ども支援の制度論的課題③「海外の教育制度2」（高橋、北田）</p>	共同

	<p>第8回：子ども支援の実践的課題①「公正と平等」（日本の事例から）（北田、高橋）</p> <p>第9回：子ども支援の実践的課題①「公正と平等」（海外の事例から）（北田、高橋）</p> <p>第10回：子ども支援の実践的課題②「所得格差と学力格差」（日本の事例から）（北田、高橋）</p> <p>第11回：子ども支援の実践的課題②「所得格差と学力格差」（海外の事例から）（北田、高橋）</p> <p>第12回：子ども支援の実践的課題③「説明責任と応答責任」（日本の事例から）（北田、高橋）</p> <p>第13回：子ども支援の実践的課題③「説明責任と応答責任」（海外の事例から）（北田、高橋）</p> <p>第14回：「権利主体」の子どもを支援する実践の在り方（北田、高橋）</p> <p>第15回：授業の振り返りと総括レポート（高橋、北田）</p>	
<p>保育内容と指導の課題探求</p>	<p>総合的・主体的な活動としての幼児の遊びの指導を具体的な実践事例を通して学び、保育内容の展開と幼児期の発達する姿、及び小学校への接続までを見通せる保育の構想力を身に付ける。乳幼児の育ちを、他者との対話的・相互応答的關係性から見ることによって、保育者としての往還的・相互的かかわりのスタイルを実践的に探求するとともに、そのための保育のデザインのスタイルを探求する。</p> <p>（共同方式／全15回）</p> <p>（21 庄司康生・77 小田倉泉）</p> <p>第1回：オリエンテーション ―保育内容と指導の課題とは―（庄司、小田倉）</p> <p>第2回：保育内容指導法の理論 ―実践編―（庄司、小田倉）</p> <p>第3回：保育内容指導法の理論 ―実践の省察―（庄司、小田倉）</p> <p>第4回：保育環境構成の理論 ―屋内環境―（小田倉、庄司）</p> <p>第5回：保育環境構成の理論 ―屋外環境―（小田倉、庄司）</p> <p>第6回：対話的保育理論（庄司、小田倉）</p> <p>第7回：相互応答的保育理論（庄司、小田倉）</p> <p>第8回：モデルとしての保育者―人的環境の理論―（小田倉、庄司）</p> <p>第9回：モデルとしての保育者―人的環境の理論の実践―（小田倉、庄司）</p> <p>第10回：幼児の感性と表現に関わる保育内容の指導（庄司、小田倉）</p> <p>第11回：幼児の感性と表現に関わる保育内容指導の課題（庄司、小田倉）</p> <p>第12回：幼児の環境とのかかわりに関する保育内容の指導（小田倉、庄司）</p> <p>第13回：幼児の環境とのかかわりに関する保育内容指導の課題（小田倉、庄司）</p> <p>第14回：発表（小田倉、庄司）</p> <p>第15回：評価とまとめ（庄司、小田倉）</p>	<p>共同</p>
<p>子どもの発達と教育相談の課題探求</p>	<p>幼児期と児童期の定型的発達と個々の幼児の発達特性を理解し、関係性と生活状況の中で子ども理解を適切に実施する知識と技術を学ぶ。その上で、すべての子どもの発達を保障できる環境、指導計画と援助について実践事例をもとに学ぶ。また多様な発達のニーズをもつ保護者の理解と支援について理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（25 首藤 敏元／7回） （68 寺菌 さおり／11回）</p> <p>第1回：オリエンテーション・講義のねらいと進め方について（寺菌、首藤）</p> <p>第2回：子どもの社会情動的発達の特質（首藤、寺菌）</p> <p>第3回：子どもの社会情動的発達の指導（首藤）</p> <p>第4回：子どもの規範意識と道徳性の発達（首藤）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

	<p>第5回：子どもの規範意識と道徳性の歪みの予防教育（首藤） 第6回：子ども理解の意義と方法（首藤） 第7回：乳幼児期の親子関係とその支援（寺菌） 第8回：児童期の親子関係とその支援（寺菌） 第9回：思春期・青年期の親子関係とその支援（寺菌） 第10回：多様な発達のニーズを持つ子どもの理解（寺菌） 第11回：多様な発達のニーズを持つ子どもの指導計画と理論的基盤の方法（寺菌） 第12回：多様な発達のニーズを持つ子どもの指導計画とその評価（寺菌） 第13回：多様な発達のニーズを持つ子どもの保護者の理解と支援（寺菌） 第14回：他機関との連携（寺菌） 第15回：まとめ（寺菌、首藤）</p>	
<教育-社会-環境> 基礎論	<p>気候変動、人権問題、貧困の拡大等、一国の取り組みだけでは解決困難な問題が地球規模で起こっている。こうした問題をESDやSDGsなどにも絡めながら、社会（政治・経済・文化）、環境、教育を個別分断化せず包括的にとらえる視点から原理的かつ実践的に考察することで、そうした問題解決につながる力量を有する教師の形成を目指す。この授業を通して、①教育問題と社会問題・環境問題とのかかわりについて理解を深めること、②教育問題の解決と社会問題・環境問題との解決との協働のために必要な実践の内容やネットワークのあり方について理解を深めること、が到達目標である。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（2 安藤 聡彦／9回） （82 福島 賢二／9回）</p> <p>第1回：講義：なぜ、教育と社会と環境とを包括的に捉える視点が必要か？（安藤、福島） 第2回：教育問題①：次回の外部講師の実践にかかわる資料の紹介と学習（福島） 第3回：教育問題②：外部講師による講義及び質疑応答（安藤） 第4回：教育問題③：外部講師の講義にもとづくグループワーク、プレゼン準備（福島） 第5回：教育問題④：グループによる発表と全体討議（安藤） 第6回：社会問題①：次回の外部講師の実践にかかわる資料の紹介と学習（福島） 第7回：社会問題②：外部講師による講義及び質疑応答（福島） 第8回：社会問題③：外部講師の講義にもとづくグループワーク、プレゼン準備（福島） 第9回：社会問題④：グループによる発表と全体討議（福島） 第10回：環境問題①：次回の外部講師の実践にかかわる資料の紹介と学習（安藤） 第11回：環境問題②：外部講師による講義及び質疑応答（安藤） 第12回：環境問題③：外部講師の講義にもとづくグループワーク、プレゼン準備（安藤） 第13回：環境問題④：グループによる発表と全体討議（安藤） 第14回：教育問題、社会問題、環境問題の3つの学習経験をふまえ、「教育-社会-環境」の関係性をふまえた教育の課題について、グループごとにプレゼンの準備を行う（安藤、福島） 第15回：グループによる発表と全体討論（安藤、福島）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
子ども認識の思想と構造	<p>子どもはいかに発見され、教育の対象とされ、その個性が尊重されねばならない存在となったのか。子ども共育の基底として、子どもとそれをとりまく家族・地域・メディア等のまなざしの変化を思想史として捉える。とりわけ、①子どもの「人権」思想、②子どもの「個性」「多様性」認識とその成り立ち、③親子に対する社会のまなざし・親の子に対するまなざしとその変容、を検討し、理解の深化を図る。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）方式/全15回）</p> <p>（37 田代 美江子／8回）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

	<p>(60 山田 恵吾／8回)</p> <p>第1回：子ども認識とは何か（田代、山田） 第2～4回：子どもの「人権」思想（田代） 第5～8回：子どもの「個性」「多様性」認識とその成り立ち（田代） 第9～12回：親子に対する社会のまなざしとその変容（山田） 第13～15回：親の子に対するまなざしとその変容（山田）</p>	
子育て支援開発探求	<p>現代の子育て環境を踏まえ、幼児期の総合的主体的な学びを支える心身の健康と、それを支える保育のあり方、及び自ら安全で健康的な生活を目指そうとする子どもを育てる教育のあり方について、具体的課題とその課題解決について事例をもとに理解を深める。保育内容の領域「健康」を軸とし、「環境」「人間関係」とも関連させて、主体性を育てる保育を展開する上で必要な保育の構想力と展開力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(68 寺菌 さおり／9回) (77 小田倉 泉／9回)</p> <p>第1回：オリエンテーション・講義のねらいと進め方について（寺菌、小田倉） 第2回：子どもの最善の利益の意味（小田倉） 第3回：子どもの最善の利益を実現するための保育（小田倉） 第4回：子どもの最善の利益を実現するための保育の実際と評価（小田倉） 第5回：幼児教育における「子育て支援」の意義と方法（寺菌） 第6回：幼児教育における「子育て支援」の理論的基盤と方法（寺菌） 第7回：幼児教育における「子育て支援」の計画立案（寺菌） 第8回：幼児教育における「子育て支援」の計画立案（小田倉） 第9回：幼児教育における「子育て支援」の計画立案（寺菌） 第10回：幼児教育における「子育て支援」の実際と評価（小田倉） 第11回：幼児教育における「子育て支援」の実際と評価（寺菌） 第12回：幼児教育における「子育て支援」の実際と評価（小田倉） 第13回：教師と保護者の協働—幼児のセルフケアの立場から—（寺菌） 第14回：教師と保護者の協働—保護者の養育力—（寺菌、小田倉） 第15回：まとめ（小田倉、寺菌）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
幼児の音楽表現の開発探求	<p>本授業では、幼児の音楽的な発達の過程及びそれに関わる保育者の役割や環境の構成について探求することを目標とする。 具体的にはa) 幼児の音楽表現に関する最新の研究知見を踏まえて幼児の音遊びや音楽表現の実践事例等を質的研究方法に基づいて分析し、b) 実践事例から保育者の役割や環境の構成について検討し、c) 幼児の音遊びや音楽表現に関する指導計画の立案について学習する。 授業は講義形式のみでなく、演習形式を交えて行う。演習での議論や指導計画の内容によって評価する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(21 庄司 康生・88 三橋 さゆり)</p> <p>第1回：オリエンテーション、授業の概要説明(三橋、庄司) 第2回：『幼稚園教育要領』と幼児の音楽表現(三橋、庄司) 第3回：幼児の音楽的発達に関する研究動向の理解(三橋、庄司) 第4回：幼児の音楽表現への援助に関する研究動向の理解(三橋、庄司) 第5回：幼児の音楽表現に関する事例検討のための質的研究手法に基づく観察法の理解(三橋、庄司) 第6回：幼児の音楽表現に関する事例検討のための質的研究手法に基づく分析法の理解①(三橋、庄司)</p>	共同 講義10時間 演習20時間

			<p>第7回：幼児の音楽表現に関する事例検討のための質的研究手法に基づく分析法の理解②(三橋、庄司)</p> <p>第8回：幼児の音遊びや音楽表現に関する実践の観察①(三橋、庄司)</p> <p>第9回：幼児の音遊びや音楽表現に関する実践の観察②(三橋、庄司)</p> <p>第10回：幼児の音遊びや音楽表現に関する実践の分析①(三橋、庄司)</p> <p>第11回：幼児の音遊びや音楽表現に関する実践の分析②(三橋、庄司)</p> <p>第12回：幼児の音遊びや音楽表現に関する指導計画の立案と実践(3歳児)(三橋、庄司)</p> <p>第13回：幼児の音遊びや音楽表現に関する指導計画の立案と実践(4歳児)(三橋、庄司)</p> <p>第14回：幼児の音遊びや音楽表現に関する指導計画の立案と実践(5歳児)(三橋、庄司)</p> <p>第15回：授業の振り返りとまとめ(三橋、庄司)</p>	
教科教育高度化プログラム科目	言語文化系教育サブプログラム科目	言語文化系教育の理論と実践A(国語)	<p>国語教育の教授学習評価を実践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。主にa)授業づくり、b)教材作成・開発、c)授業分析・評価について学修する。</p> <p>到達目標は、実践のための基礎的諸理論について知見を深め、理論に裏付けられた授業づくりに取り組む実践力を身につけることである。</p> <p>授業は講義形式のみではなく、演習形式を交えて行い、基礎的理論への理解の程度をディスカッションや授業計画立案の内容、レポートなどによって評価する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(19 薄井 俊二 / 4回・全教員共同を含む。)</p> <p>(30 戸田 功 / 6回・全教員共同を含む。)</p> <p>(39 飯泉 健司 / 4回・全教員共同を含む。)</p> <p>(56 山本 良 / 4回・全教員共同を含む。)</p> <p>(72 本橋 幸康 / 3回・全教員共同を含む。)</p> <p>(90 池上 尚 / 4回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：ガイダンス(全教員)</p> <p>第2回：授業づくり(1)理論編(戸田)</p> <p>第3回：授業づくり(2)理論編(戸田)</p> <p>第4回：授業分析・評価(1)理論編(戸田)</p> <p>第5回：授業分析・評価(2)理論編(戸田)</p> <p>第6回：教材作成・開発—日本語学(池上)</p> <p>第7回：教材作成・開発—日本語学(池上)</p> <p>第8回：教材作成・開発—漢文学(薄井)</p> <p>第9回：教材作成・開発—漢文学(薄井)</p> <p>第10回：教材作成・開発—古典文学(飯泉)</p> <p>第11回：教材作成・開発—古典文学(飯泉)</p> <p>第12回：教材作成・開発—近代文学(山本(良))</p> <p>第13回：教材作成・開発—近代文学(山本(良))</p> <p>第14回：授業づくり・授業分析・評価—実践編(本橋)</p> <p>第15回：まとめ(全教員)</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義16時間 演習14時間
		言語文化系教育の理論と実践B(英語)	<p>英語教育の教授学習評価を実践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。</p> <p>a) オリエンテーション</p> <p>b) 小学校における英語の指導と評価</p> <p>c) 中学校における英語の指導と評価</p> <p>d) 総まとめ</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

	<p>(30 戸田 功／8回) (47 及川 賢／9回)</p> <p>第1回：オリエンテーション（及川、戸田） 第2回：小学校における英語の指導（学習指導要領を中心に）（及川） 第3回：小学校における英語の指導（ビデオによる授業の視聴）（及川） 第4回：小学校における英語の指導（言語活動の分析）（及川） 第5回：小学校における英語の指導（言語活動の作成）（及川） 第6回：小学校における英語の評価（理論を中心に）（及川） 第7回：小学校における英語の指導（事例を中心に）（及川） 第8回：中学校における英語の指導（学習指導要領を中心に）（及川） 第9回：中学校における英語の指導（ビデオによる授業の視聴）（戸田） 第10回：中学校における英語の指導（言語活動の分析）（戸田） 第11回：中学校における英語の指導（言語活動の作成1）（戸田） 第12回：中学校における英語の指導（言語活動の作成2）（戸田） 第13回：中学校における英語の評価（理論を中心に）（戸田） 第14回：中学校における英語の評価（事例を中心に）（戸田） 第15回：総まとめ（及川、戸田）</p>	
<p>言語文化系教育の 授業内容探求A （国語）</p>	<p>国語の言語文化（古典（古文・漢文））に関して小学校から高校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が単元を構想し、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。主にa)単元学習に向けての教材化、b)日本古典の教材化、c)中国古典についての教材化について学修する。</p> <p>到達目標は、国語教育に関する総合的な実践的知見を得て、授業実践に取り組む力を身につけることである。</p> <p>授業は講義形式のみではなく、演習形式を交えて行い、基礎的理論への理解の程度をプレゼンテーションや議論、授業計画立案の内容、レポートなどによって評価する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>(19 薄井 俊二／6回) (30 戸田 功／7回) (39 飯泉 健司／6回)</p> <p>第1回：ガイダンス（戸田、飯泉、薄井） 第2回：日本古典の教材化—小学校編（飯泉） 第3回：日本古典の教材化—中学校編（飯泉） 第4回：日本古典の教材化—高校編（飯泉） 第5回：日本古典の教材化—まとめ（飯泉） 第6回：中国古典の教材化—小学校編（薄井） 第7回：中国古典の教材化—中学校編（薄井） 第8回：中国古典の教材化—高校編（薄井） 第9回：中国古典の教材化—まとめ（薄井） 第10回：単元学習に向けての教材化—小学校編（戸田） 第11回：単元学習に向けての教材化—中学校編（戸田） 第12回：単元学習に向けての教材化—高校編（戸田） 第13回：単元学習の構想と教材分析（戸田） 第14回：単元学習の構想と教材分析（戸田） 第15回：まとめ（戸田、飯泉、薄井）</p>	<p>オムニバス 方式・共同 （一部）</p> <p>講義16時間 演習14時間</p>

<p>言語文化系教育の 授業内容探求B (国語)</p>	<p>国語の文学・言語事項に関して小学校から高校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が単元を構想し、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。主にa)単元学習に向けての教材化、b)日本文学についての教材化、c)言語事項の教材化について学修する。</p> <p>到達目標は、国語教育に関する総合的な実践的知見を得て、授業実践に取り組む力を身につけることである。</p> <p>授業は講義形式のみではなく、演習形式を交えて行い、基礎的理論への理解の程度をプレゼンテーションや議論、授業計画立案の内容、レポートなどによって評価する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(56 山本 良 / 6回) (72 本橋 幸康 / 7回) (90 池上 尚 / 6回)</p> <p>第1回：ガイダンス (本橋、山本(良)、池上) 第2回：日本文学の教材化—小学校編 (山本(良)) 第3回：日本文学の教材化—中学校編 (山本(良)) 第4回：日本文学の教材化—高校編 (山本(良)) 第5回：日本文学の教材化—まとめ (山本(良)) 第6回：言語事項の教材化—小学校編 (池上) 第7回：言語事項の教材化—中学校編 (池上) 第8回：言語事項の教材化—高校編 (池上) 第9回：言語事項の教材化—まとめ (池上) 第10回：単元学習に向けての教材化—小学校編 (本橋) 第11回：単元学習に向けての教材化—中学校編 (本橋) 第12回：単元学習に向けての教材化—高校編 (本橋) 第13回：単元学習の構想と教材分析 (本橋) 第14回：単元学習の構想と教材分析 (本橋) 第15回：まとめ (本橋・山本(良)・池上)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p> <p>講義16時間 演習14時間</p>
<p>言語文化系教育の 授業内容探求C (英語)</p>	<p>英語の言語文化 (文学・歴史) に関して小学校から高校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が単元を構想し、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。英語文化教育の理論と実践のそれぞれを専門とする教員のオムニバス形式により、学生が各分野についての体系的な理解と専門的な知見を十分に得られるようにする。</p> <p>a)第1回はオリエンテーションを行い、英語文化教育の全体像を把握する。b)第2～8回は英語文化教育の理論的側面、c)第9～15回は英語文化教育の実践的方法について探求する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(38 武田 ちあき / 8回) (47 及川 賢 / 8回)</p> <p>第1回：英語文化教育の全体像の把握 (武田、及川) 第2回：英語文化教育の理論1 (武田) 第3回：英語文化教育の理論2 (武田) 第4回：英語文化教育の理論3 (武田) 第5回：英語文化教育の理論4 (武田) 第6回：英語文化教育の理論5 (武田) 第7回：英語文化教育の理論6 (武田) 第8回：英語文化教育の理論7 (武田) 第9回：英語文化教育の実践1 (及川) 第10回：英語文化教育の実践2 (及川) 第11回：英語文化教育の実践3 (及川) 第12回：英語文化教育の実践4 (及川) 第13回：英語文化教育の実践5 (及川) 第14回：英語文化教育の実践6 (及川) 第15回：英語文化教育の実践7 (及川)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p>

<p>言語文化系教育の 授業内容探求D (英語)</p>	<p>英語の語学的事項(文法・語彙・発音)に関して小学校から高校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が単元を構想し、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。</p> <p>a) 英語教育の主に語学的側面についての現状を知る。 b) 小学校段階での音声・語彙の知識について c) 中学校・高校における文法事項について d) 語学的諸側面の指導方法と技術についての実践的演習。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(65 田子内 健介 / 9回) (72 本橋 幸康 / 8回)</p> <p>第1回: ガイダンス(田子内、本橋) 第2回: 英語教育の現状について(1) 小学校(本橋) 第3回: 英語教育の現状について(2) 中学校(本橋) 第4回: 英語教育の現状について(3) 高校(本橋) 第5回: 小学校での音声・語彙指導(1) 文字(田子内) 第6回: 小学校での音声・語彙指導(2) 発音(田子内) 第7回: 小学校での音声・語彙指導(3) 語彙(田子内) 第8回: 音声・語彙指導の方法と技術の実践(1) 音声指導の方法(本橋) 第9回: 音声・語彙指導の方法と技術の実践(2) 語彙指導の方法(本橋) 第10回: 中学校での文法事項(1)(田子内) 第11回: 中学校での文法事項(2)(田子内) 第12回: 高校での文法事項(1)(田子内) 第13回: 高校での文法事項(2)(田子内) 第14回: 文法指導の方法と技術の実践(1) 中学校(本橋) 第15回: 文法指導の方法と技術の実践(2) 高校(田子内、本橋)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p>
<p>言語文化系教育の 教材研究と実践A (国語)</p>	<p>古典文学・近代文学に関わる教材について、小学校から高校までの各単元における効果的な教授法を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や効果を見極める能力、および授業実践能力の獲得を目指す。また、実際の授業への新しい教授法の導入とその評価法も試行的に行う。主に a) 小・中・高等学校における日本古典文学、b) 小・中・高等学校における近代文学について学修する。</p> <p>到達目標は、国語科の教科書の分析を通して、古典文学・近代文学に関し、児童・生徒の発達段階を踏まえた系統的な授業実践に取り組む力を身につけることである。</p> <p>授業は講義形式のみではなく、演習形式を交えて行い、基礎的理論への理解の程度を、プレゼンテーションや議論、授業計画立案の内容、レポートなどによって評価する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(39 飯泉 健司 / 8回) (56 山本 良 / 9回)</p> <p>第1回: ガイダンス(飯泉、山本(良)) 第2回: 国語教科書における日本古典文学の教材とその教授法—小学校編(飯泉) 第3回: 国語教科書における日本古典文学の教材とその教授法—中学校編(飯泉) 第4回: 国語教科書における日本古典文学の教材とその教授法—高校編(飯泉) 第5回: 国語教科書における日本古典文学の教材とその教授法—まとめ(飯泉) 第6回: 日本古典文学の授業構想・教材分析—実践編(飯泉) 第7回: 日本古典文学の教授法・評価法—実践編(飯泉) 第8回: 国語教科書における近代文学の教材とその教授法—小学校編(山本(良))</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p> <p>講義16時間 演習14時間</p>

	<p>第9回：国語教科書における近代文学の教材とその教授法—中学校編（山本(良)）</p> <p>第10回：国語教科書における近代文学の教材とその教授法—高校編（山本(良)）</p> <p>第11回：国語教科書における近代文学の教材とその教授法—まとめ（山本(良)）</p> <p>第12回：近代文学の授業構想・教材分析—実践編（山本(良)）</p> <p>第13回：近代文学の教授法・評価法—実践編（山本(良)）</p> <p>第14回：文学教育の展望と課題（山本(良)）</p> <p>第15回：まとめ（飯泉、山本(良)）</p>	
<p>言語文化系教育の教材研究と実践B（国語）</p>	<p>古典文学（漢文）・日本語学（言語事項）の内容に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や効果を見極める能力、および授業実践能力の獲得を目指す。また、実際の授業への新しい教授法の導入とその評価法も試行的に行う。主にa) 小・中・高等学校における中国文学（漢文）、b) 小・中・高等学校における日本語学（言語事項）について学修する。</p> <p>到達目標は、国語科の教科書の分析を通して、古典文学（漢文）・日本語学（言語事項）に関して発達段階を踏まえた系統的な授業実践に取り組む力を身につけることである。</p> <p>授業は講義形式のみではなく、演習形式を交えて行い、基礎的理論への理解の程度をプレゼンテーションや議論、授業計画立案の内容、レポートなどによって評価する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（19 薄井 俊二／8回） （90 池上 尚／9回）</p> <p>第1回：ガイダンス（薄井、池上）</p> <p>第2回：国語教科書における漢文の教材とその教授法—小学校編（薄井）</p> <p>第3回：国語教科書における漢文の教材とその教授法—中学校編（薄井）</p> <p>第4回：国語教科書における漢文の教材とその教授法—高校編（薄井）</p> <p>第5回：国語教科書における漢文の教材とその教授法—まとめ（薄井）</p> <p>第6回：漢文の授業構想・教材分析—実践編（薄井）</p> <p>第7回：漢文の教授法・評価法—実践編（薄井）</p> <p>第8回：国語教科書における日本語学の教材とその教授法—小学校編（池上）</p> <p>第9回：国語教科書における日本語学の教材とその教授法—中学校編（池上）</p> <p>第10回：国語教科書における日本語学の教材とその教授法—高校編（池上）</p> <p>第11回：国語教科書における日本語学の教材とその教授法—まとめ（池上）</p> <p>第12回：日本語学の授業構想・教材分析—実践編（池上）</p> <p>第13回：日本語学の教授法・評価法—実践編（池上）</p> <p>第14回：文学教育・言語事項教育の展望と課題（池上）</p> <p>第15回：まとめ（薄井、池上）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p> <p>講義16時間 演習14時間</p>

<p>言語文化系教育の 教材研究と実践C (英語)</p>	<p>英文学に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を 探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を 身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必 要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得す る。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>第1回はオリエンテーションを行い、英語文学教材の活用につい ての全体像を把握する。第2～5回は小学校における英語文学教材 の活用について探求し、第6回は受講生が小学校の模擬授業を行 い、その内容を検討する。第7～10回は中学校における英語文学教 材の活用について探求し、第11回は受講生が中学校の模擬授業を 行い、その内容を検討する。第12～14回は高校における英語文学 教材の活用について探求し、第15回は受講生が高校の模擬授業を 行い、その内容を検討する。</p> <p>(単独方式／全15回)</p> <p>(38 武田 ちあき)</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：小学校における英語文学教材の活用 1 第3回：小学校における英語文学教材の活用 2 第4回：小学校における英語文学教材の活用 3 第5回：小学校における英語文学教材の活用 4 第6回：受講生による小学校の模擬授業とその検討 第7回：中学校における英語文学教材の活用 1 第8回：中学校における英語文学教材の活用 2 第9回：中学校における英語文学教材の活用 3 第10回：中学校における英語文学教材の活用 4 第11回：受講生による中学校の模擬授業とその検討 第12回：高校における英語文学教材の活用 1 第13回：高校における英語文学教材の活用 2 第14回：高校における英語文学教材の活用 3 第15回：受講生による高校の模擬授業とその検討</p>	
<p>言語文化系教育の 教材研究と実践D (英語)</p>	<p>英文法に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を 探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を 身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必 要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得す る。</p> <p>小学校・中学校・高校の各段階について、重要と思われる文 法・語学的事項や単元を取り上げ、文献に基づいて現状を把握す るとともに、問題点とその解決策を検討していく。そして解決策 に基づき、効果的な教材を実際に構成したり指導方法を考案した りしていく。</p> <p>(単独方式／全15回)</p> <p>(65 田子内 健介)</p> <p>全15回を単独で担当する。3校種につき各5回とし、既存教材の 把握と検討から新しい教材の考案へという流れで進める。</p> <p>第1回：小学校での文法指導 (1) 総合的に 第2回：小学校での文法指導 (2) 音声と文字 第3回：小学校での文法指導 (3) 語彙 第4回：小学校での文法指導 (4) 教材の検討 第5回：小学校での文法指導 (5) 改善方法の探求 第6回：中学校での文法指導 (1) 音声と語彙 第7回：中学校での文法指導 (2) 文法 第8回：中学校での文法指導 (3) 教科書・参考書の検討 第9回：中学校での文法指導 (4) 問題点の検討と改善策の探求 第10回：中学校での文法指導 (5) 指導方法の実践 第11回：高校での文法指導 (1) 諸単元の把握 第12回：高校での文法指導 (2) 教科書・参考書の検討 第13回：高校での文法指導 (3) 問題点の検討 第14回：高校での文法指導 (4) 効果的な教材の検討 第15回：高校での文法指導 (5) 指導方法の実践</p>	

<p>社会系教育サブプログラム 科目</p>	<p>社会科教育の理論と実践A</p>	<p>社会科教育（地理、歴史、公民）の教授学習評価を实践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（51 桐谷 正信／11回） （52 谷 謙二／9回）</p> <p>第1回：オリエンテーション（桐谷、谷） 第2回：小学校社会科の授業理論と実践（桐谷） 第3回：教育改革における小学校社会科（桐谷） 第4回：社会科のカリキュラムの構造（桐谷） 第5回：小学校社会科の学習理論の類型（桐谷） 第6回：第3学年地域学習の授業づくりワークショップ（谷） 第7回：第4学年地域学習の授業づくりワークショップ（谷） 第8回：第4学年防災学習の授業づくりワークショップ（桐谷、谷） 第9回：第4学年伝統文化学習の授業づくりワークショップ（谷） 第10回：第5学年地理学習の授業づくりワークショップ（桐谷、谷） 第11回：第5学年産業学習の授業づくりワークショップ（桐谷） 第12回：第6学年政治学習の授業づくりワークショップ（桐谷） 第13回：第6学年歴史学習の授業づくりワークショップ（谷） 第14回：第6学年国際理解学習の授業づくりワークショップ（桐谷、谷） 第15回：小学校授業づくりの総括（桐谷、谷）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
	<p>社会科教育の理論と実践B</p>	<p>社会科教育（地理、歴史、公民）の教授学習評価を实践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（34 小林 聡／10回） （51 桐谷 正信／9回）</p> <p>第1回：オリエンテーション（桐谷、小林） 第2回：中学校社会科の授業理論と実践（桐谷） 第3回：教育改革における中学校社会科（桐谷） 第4回：世界と日本の地域構成の授業づくりワークショップ（桐谷、小林） 第5回：世界の諸地域の授業づくりワークショップ（桐谷） 第6回：日本の諸地域の授業づくりワークショップ（小林） 第7回：古代日本の授業づくりワークショップ（小林） 第8回：中世日本の授業づくりワークショップ（小林） 第9回：近世日本の授業づくりワークショップ（小林） 第10回：近現代日本の授業づくりワークショップ（桐谷、小林） 第11回：現代社会と文化の授業づくりワークショップ（桐谷） 第12回：経済学習の授業づくりワークショップ（桐谷） 第13回：政治学習の授業づくりワークショップ（小林） 第14回：国際社会の諸課題の授業づくりワークショップ（小林） 第15回：よりよい社会形成の授業づくりワークショップ（桐谷、小林）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
	<p>社会科教育の授業内容探求</p>	<p>社会科（地理、歴史、公民）の内容に関して小学校から高校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が模擬授業も行い、児童生徒の理解を深められる、授業づくりの実践的指導を行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

	<p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(34 小林 聡 / 4回) (52 谷 謙二 / 7回) (73 清水 亮 / 4回) (80 高橋 雅也 / 4回) (85 中川 律 / 3回) (86 宮崎 文典 / 3回)</p> <p>第1回：オリエンテーション (谷、小林、清水(亮)、高橋(雅)、宮崎、中川) 第2回：小学校第3～第4学年社会科の内容と指導方法 (谷) 第3回：小学校第5学年社会科の内容と指導方法 (谷) 第4回：小学校第6学年社会科の内容と指導方法 (谷) 第5回：小学校社会科の模擬授業 (清水(亮)) 第6回：中学校地理分野の内容と指導方法 (谷) 第7回：中学校歴史分野の内容と指導方法 (小林) 第8回：中学校公民分野の内容と指導方法 (高橋(雅)) 第9回：中学校社会科の模擬授業 (清水(亮)) 第10回：高校地理歴史科 (地理総合、地理探求) の内容と指導方法 (谷) 第11回：高校地理歴史科 (歴史総合、世界史探求、日本史探求) の内容と指導方法 (小林) 第12回：高校公民科 (公共、倫理) の内容と指導方法 (宮崎) 第13回：高校公民科 (政治・経済) の内容と指導方法 (高橋(雅)) 第14回：高校地理歴史科・公民科の模擬授業 (中川) 第15回：まとめと振り返り (谷、小林、清水(亮)、高橋(雅)、宮崎、中川)</p>	
社会科教育の教材研究と実践A	<p>社会科 (地理、歴史) の内容に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(34 小林 聡 / 7回) (52 谷 謙二 / 6回) (73 清水 亮 / 6回)</p> <p>第1回：オリエンテーション (小林、清水(亮)、谷) 第2回：社会科教育と教材研究の問題点 (小林) 第3回：日本古代・中世史に関する教材研究と実践 (清水(亮)) 第4回：日本近世史に関する教材研究と実践 (清水(亮)) 第5回：日本近現代史に関する教材研究と実践 (清水(亮)) 第6回：日本史と世界史の接点をめぐる教材研究と実践 (清水(亮)) 第7回：世界史教育と歴史叙述の在り方をめぐる教材研究と実践 (小林) 第8回：東アジア史を題材とする教材研究と実践 (小林) 第9回：中央ユーラシア史・西アジア史を題材とする教材研究と実践 (小林) 第10回：ヨーロッパ史・アメリカ史を題材とする教材研究と実践 (小林) 第11回：身近な地域と市町村スケールの教材研究と実践 (谷) 第12回：日本地誌の教材研究と実践 (谷) 第13回：世界地誌の教材研究と実践 (谷) 第14回：系統地理の教材研究と実践 (谷) 第15回：全体の総括 (小林、清水(亮)、谷)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
社会科教育の教材研究と実践B	<p>社会科 (公民) の内容に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

		<p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(80 高橋 雅也 / 7回・全教員共同を含む。) (85 中川 律 / 6回・全教員共同を含む。) (86 宮崎 文典 / 6回・全教員共同を含む。)</p> <p>第1回：オリエンテーション (全教員) 第2回：公民授業教材の多様性を知る (高橋(雅)) 第3回：公民授業教材の問題点を探る (高橋(雅)) 第4回：優れた公民授業教材の活用方法 (高橋(雅)) 第5回：公民授業教材の評価方法 (高橋(雅)) 第6回：公民学習の授業案、教材選びに関する報告(1) (宮崎) 第7回：公民学習の授業案、教材選びに関する報告(2) (宮崎) 第8回：公民学習の授業案、教材選びに関する報告(3) (宮崎) 第9回：公民学習の授業案、教材選びに関する報告(4) (宮崎) 第10回：公民学習の授業案、教材の改善方針 (高橋(雅)) 第11回：公民学習の模擬授業の実践と評価(1) (中川) 第12回：公民学習の模擬授業の実践と評価(2) (中川) 第13回：公民学習の模擬授業の実践と評価(3) (中川) 第14回：公民学習の模擬授業の実践と評価(4) (中川) 第15回：まとめと振り返り (全教員)</p>	
自然科学系教育サブプログラム科目	自然科学系教育の理論と実践A (算数・数学)	<p>算数・数学教育の教授学習評価を実践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析と模擬授業を通じて力量を培う。小中高校全体を視野に入れ、内容として、a)算数・数学教育の目標分析、b)算数・数学で育成する資質・能力分析 (内容面・方法面)、c)算数・数学の教授学習論、d)算数・数学の学習評価論、e)算数・数学の授業研究論、f)算数・数学教員の資質・能力論、g)算数・数学教育実践研究論を扱う。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(36 二宮 裕之 / 10回) (76 松寄 昭雄 / 10回)</p> <p>第1回：算数・数学教育の理論研究① 目標論 (二宮、松寄) 第2回：算数・数学教育の理論研究② 内容論 (二宮、松寄) 第3回：算数・数学教育の理論研究③ 方法論 (二宮、松寄) 第4回：算数・数学教育の理論研究④ 評価論 (二宮、松寄) 第5回：算数・数学教育における理論と実践の融合① 理論研究からの視点 (松寄) 第6回：算数・数学教育における理論と実践の融合② 実践研究からの視点 (二宮) 第7回：数学教育学研究における理論研究の成果① 表現論・記述表現論 (二宮) 第8回：数学教育学研究における理論研究の成果② 数学的モデリング (松寄) 第9回：数学教育学研究における理論研究の成果③ 授業論 (松寄) 第10回：数学教育学研究における理論研究の成果④ 評価論 (二宮) 第11回：授業実践の事例分析① 小学校算数 (数・図形分野) (二宮) 第12回：授業実践の事例分析② 小学校算数 (数量関係・統計分野) (二宮) 第13回：授業実践の事例分析③ 中学校・高校数学 (代数・図形分野) (松寄) 第14回：授業実践の事例分析④ 中学校・高校数学 (解析・確率統計分野) (松寄) 第15回：算数・数学教育実践研究論検討 (二宮、松寄)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>自然科学系教育の理論と実践B（理科）</p>	<p>理科教育の教授学習評価を实践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析と模擬授業を通じて力量を培う。小中高校全体を視野に入れ、内容として、a)理科教育の目標分析、b)理科で育成する資質・能力分析、c)理科の教授学習論、d)理科の学習評価論、e)理科の授業研究論、f)理科教員の資質・能力論、g)理科教育実践研究論を扱う。専門的な内容を当該領域を専門とする教員がオムニバス形式で指導することにより学習効果を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(15 中島 雅子／8回) (41 小倉 康／8回)</p> <p>第1回：初等理科教育の目標分析（小倉） 第2回：初等理科で育成する資質・能力分析（小倉） 第3回：初等理科の教授学習の理論と実践（小倉） 第4回：初等理科の学習評価の理論と実践（小倉） 第5回：初等理科の授業研究の理論と実践（小倉） 第6回：初等理科に関する教員の資質・能力（小倉） 第7回：中等理科教育の目標分析（中島） 第8回：中等理科で育成する資質・能力分析（中島） 第9回：中等理科の教授学習の理論と実践（中島） 第10回：中等理科の学習評価の理論と実践（中島） 第11回：中等理科の授業研究の理論と実践（中島） 第12回：中等理科に関する教員の資質・能力（中島） 第13回：初等理科教育実践研究に基づく模擬授業Ⅰ（小倉） 第14回：中等理科教育実践研究に基づく模擬授業Ⅱ（中島） 第15回：ふりかえり（小倉、中島）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>自然科学系教育の授業内容探求A（算数・数学）</p>	<p>小学校算数の授業について、小学校から高校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が模擬授業も行い、児童の理解を深められるような実践的指導を行う。</p> <p>(単独方式／全15回)</p> <p>(36 二宮 裕之)</p> <p>第1回：算数の内容の系統性について（概説） 第2回：数と計算領域の内容系統（小学校算数） 第3回：数と計算領域の内容系統（中学校・高校数学との関連性） 第4回：図形領域の内容系統（小学校算数） 第5回：図形領域の内容系統（中学校・高校数学との関連性） 第6回：測定領域・変化と関係領域の内容系統（小学校算数） 第7回：測定領域・変化と関係領域の内容系統（中学校・高校数学との関連性） 第8回：データの活用領域の内容系統（小学校算数） 第9回：データの活用領域の内容系統（中学校・高校数学との関連性） 第10回：内容の系統性を踏まえた授業実践（模擬授業）① 数と計算領域 第11回：内容の系統性を踏まえた授業実践（模擬授業）② 図形領域 第12回：内容の系統性を踏まえた授業実践（模擬授業）③ 測定領域・変化と関係領域 第13回：内容の系統性を踏まえた授業実践（模擬授業）④ データの活用領域 第14回：ふりかえり① 小学校算数の内容の系統性について 第15回：ふりかえり② 中学校・高校数学の内容との系統性について</p>	

<p>自然科学系教育の 授業内容探求B (算数・数学)</p>	<p>中学校・高等学校数学の授業について、小学校から高校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が模擬授業も行い、生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。</p> <p>(単独方式／全15回)</p> <p>(76 松寄 昭雄)</p> <p>第1回：数学の内容の系統性について(概説) 第2回：数と式領域の内容系統(中学校数学) 第3回：数と式領域の内容系統(小学校算数・高校数学との関連性) 第4回：図形領域の内容系統(中学校数学) 第5回：図形領域の内容系統(小学校算数・高校数学との関連性) 第6回：関数領域の内容系統(中学校数学) 第7回：関数領域の内容系統(小学校算数・高校数学との関連性) 第8回：データの活用領域の内容系統(中学校数学) 第9回：データの活用領域の内容系統(小学校算数・高校数学との関連性) 第10回：内容の系統性を踏まえた授業実践(模擬授業)① 数と式領域 第11回：内容の系統性を踏まえた授業実践(模擬授業)② 図形領域 第12回：内容の系統性を踏まえた授業実践(模擬授業)③ 関数領域 第13回：内容の系統性を踏まえた授業実践(模擬授業)④ データの活用領域 第14回：ふりかえり① 中学校数学の内容の系統性について 第15回：ふりかえり② 小学校算数・高校数学の内容との系統性について</p>	
<p>自然科学系教育の 授業内容探求C (理科)</p>	<p>本授業では物質の性質、運動とエネルギー、自然現象の規則性や法則性の内容に関して小学校から高校までの学習内容を俯瞰的に捉え、各単元で有機的なつながりを持たせつつ授業を行う能力を修得することを目的とする。</p> <p>具体的には、a) 身近な物理現象とその理論理解、b) 電気回路の理論とその指導法の習得、c) 物理測定における物理量の理解、d) 物理教育へのエレクトロニクス技術の導入、e) 最新の物理教育研究の動向と分析、f) 有機化合物と人間生活、g) 天然高分子化合物と人間生活、h) 人間生活環境と化学、i) 無機化合物と人間生活、j) 環境問題と物質のかかわり、k) これからの化学教育などについて学修する。</p> <p>授業は講義形式に加えて、演習形式も取り入れて行う。理論の理解の程度やそれを活用する能力を、授業で課す演習発表やレポートなどの内容によって評価する。専門的な内容を当該領域を専門とする教員がオムニバス形式で指導することにより学習効果を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(26 近藤 一史／8回) (35 富岡 寛顕／8回) (49 大向 隆三／8回) (63 松岡 圭介／8回)</p> <p>第1回：物理量の統計的理解と物理測定への応用(近藤、大向) 第2回：身近な自然現象の中にみられる物理学とその指導法の探求(近藤、大向) 第3回：電磁気学分野で児童生徒が持つ誤概念の把握と改善に向けた工夫(近藤、大向) 第4回：物理実験での効果的な電子機器の導入と授業実践①(物体の運動、音、光)(近藤、大向) 第5回：物理実験での効果的な電子機器の導入と授業実践②(電気回路、プログラミング)(近藤、大向) 第6回：物理実験教材研究(現状と課題)(近藤、大向) 第7回：物理実験教材研究(課題克服のための改善と実践)(近藤、大向)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p> <p>講義10時間 演習20時間</p>

		<p>第8回：化学的な見方考え方と粒子的な概念形成についての教育実践（富岡、松岡）</p> <p>第9回：身近にある有機化合物を意識させる実践的な教授法の探求（富岡、松岡）</p> <p>第10回：日常生活での天然高分子化合物の利点欠点を把握できる化学の目を養うための工夫（富岡、松岡）</p> <p>第11回：化学的な理解と持続可能な社会を担う人間教育を目指した教育実践（富岡、松岡）</p> <p>第12回：無機化合物と人間生活に関する探求と授業実践（富岡、松岡）</p> <p>第13回：環境問題と物質の関係の探求と授業実践（富岡、松岡）</p> <p>第14回：これからの化学教育の探求と授業実践（富岡、松岡）</p> <p>第15回：まとめ（物理学及び化学分野の教育に残された課題と将来展望）（近藤、富岡、大向、松岡）</p>	
	<p>自然科学系教育の授業内容探求D（理科）</p>	<p>小学校から高校まで理科第二分野（生物・地学）の学習指導において、「生命」「地球」に関して多様性と共通性、時間的・空間的視点で捉える力の育成を目的として、野外観察・実験をいかに取り入れるべきか、その観察・実験をもとにどのように児童・生徒の理科への興味関心を高めるかを探求する。a) 動物・植物の野外観察・実験、b) 地質・宇宙の野外観測・実験の2つに分け、それぞれの分野の学習内容について理解を深めるとともに、既存の教材の問題点や改善点を的確に把握し、観察・観測・実験を活かした教材についての教材研究などを通して、実践的な教員としての資質・能力を高める。専門的な内容を当該領域を専門とする教員がオムニバス形式で指導することにより学習効果を高める。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（22 金子 康子／5回） （40 岡本 和明／5回） （71 日比野 拓／5回） （74 大朝 由美子／5回）</p> <p>第1回：理科第二分野における学習指導の基盤（金子、日比野、岡本、大朝）</p> <p>第2回：初等理科で学習する動物・植物の野外観察・実験の理解（金子）</p> <p>第3回：初等理科で学習する動物・植物の野外観察・実験における実践的スキルの育成（金子）</p> <p>第4回：中等理科で学習する動物・植物の野外観察・実験の理解（日比野）</p> <p>第5回：中等理科で学習する動物・植物の野外観察・実験における実践的スキルの育成（日比野）</p> <p>第6回：動物・植物の野外観察・実験に関する学習教材の研究・開発（日比野）</p> <p>第7回：動物・植物の野外観察・実験に関する学習教材の研究・開発（金子）</p> <p>第8回：研究・開発した教材の発表と協議（金子、日比野）</p> <p>第9回：初等理科で学習する地質・気象・宇宙の野外観測・実験の理解（岡本）</p> <p>第10回：初等理科で学習する地質・気象・宇宙の野外観測・実験における実践的スキルの育成（岡本）</p> <p>第11回：中等理科で学習する地質・気象・宇宙の野外観測・実験の理解（大朝）</p> <p>第12回：中等理科で学習する地質・気象・宇宙の野外観測・実験における実践的スキルの育成（大朝）</p> <p>第13回：地質・宇宙の野外観測・実験に関する学習教材の研究・開発（大朝）</p> <p>第14回：地質・宇宙の野外観測・実験に関する学習教材の研究・開発（岡本）</p> <p>第15回：研究・開発した教材の発表と協議（岡本、大朝）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>自然科学系教育の教材研究と実践A (算数・数学)</p>	<p>算数・数学の代数学・幾何学分野の内容に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(43 飛田 明彦 / 9回) (87 西澤 由輔 / 9回)</p> <p>第1回：学問としての数学(代数学・幾何学)と教科としての算数・数学の相違点と関連性について(飛田、西澤) 第2回：代数学の学問的背景(数学史ならびに現代的課題)(飛田) 第3回：幾何学の学問的背景(数学史ならびに現代的課題)(西澤) 第4回：代数学(数領域)の内容的検討①(小学校算数)(飛田) 第5回：代数学(数領域)の内容的検討②(中学校・高校数学)(飛田) 第6回：幾何学(図形領域)の内容的検討①(小学校算数)(西澤) 第7回：幾何学(図形領域)の内容的検討②(中学校・高校数学)(西澤) 第8回：教材研究① 代数学の知見に基づく数領域の教材検討(小学校算数・中学校・高校数学)(飛田) 第9回：教材研究② 代数学の知見に基づく数領域の教材改善(小学校算数)(飛田) 第10回：教材研究③ 代数学の知見に基づく数領域の教材改善(中学校・高校数学)(飛田) 第11回：教材研究④ 幾何学の知見に基づく数領域の教材検討(小学校算数・中学校・高校数学)(西澤) 第12回：教材研究⑤ 幾何学の知見に基づく数領域の教材改善(小学校算数)(西澤) 第13回：教材研究⑥ 幾何学の知見に基づく数領域の教材改善(中学校・高校数学)(西澤) 第14回：授業事例の検討と評価① 数領域(教材研究①②③を踏まえて)(飛田、西澤) 第15回：授業事例の検討と評価② 図形領域(教材研究④⑤⑥を踏まえて)(飛田、西澤)</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>自然科学系教育の教材研究と実践B (算数・数学)</p>	<p>算数・数学の解析学・確率統計学分野の内容に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(43 飛田 明彦 / 9回) (87 西澤 由輔 / 9回)</p> <p>第1回：学問としての数学(解析学・確率統計学)と教科としての算数・数学の相違点と関連性について(飛田、西澤) 第2回：解析学の学問的背景(数学史ならびに現代的課題)(西澤) 第3回：確率統計学の学問的背景(数学史ならびに現代的課題)(飛田) 第4回：解析学(関数領域)の内容的検討①(小学校算数)(西澤) 第5回：解析学(関数領域)の内容的検討②(中学校・高校数学)(西澤) 第6回：確率統計学(データの活用)の内容的検討①(小学校算数)(飛田)</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

	<p>第7回：確率統計学（データの活用／分析領域）の内容的検討②（中学校・高校数学）（飛田）</p> <p>第8回：教材研究① 解析学の知見に基づく数領域の教材検討（小学校・中学校・高校）（西澤）</p> <p>第9回：教材研究② 解析学の知見に基づく数領域の教材改善（小学校算数）（西澤）</p> <p>第10回：教材研究③ 解析学の知見に基づく数領域の教材改善（中学校・高校数学）（西澤）</p> <p>第11回：教材研究④ 確率統計学の知見に基づく数領域の教材検討（小学校・中学校・高校）（飛田）</p> <p>第12回：教材研究⑤ 確率統計学の知見に基づく数領域の教材改善（小学校算数）（飛田）</p> <p>第13回：教材研究⑥ 確率統計学の知見に基づく数領域の教材改善（中学校・高校数学）（飛田）</p> <p>第14回：授業事例の検討と評価① 関数領域（教材研究①②③を踏まえて）（飛田、西澤）</p> <p>第15回：授業事例の検討と評価② データの活用領域（教材研究④⑤⑥を踏まえて）（飛田、西澤）</p>	
<p>中核的理科教員（CST）養成講座</p>	<p>地域と学校の理科教育推進を中核的に支える教員に期待されるa)最先端の自然科学の状況、b)魅力的な観察実験技能、c)実践的理科指導法・マネジメント、d)理科の才能育成と科学研究指導法、e)科学コミュニケーションの基礎と応用について学修する。学外の中核的理科教員の取り組み視察とそのリフレクションを含む。専門的な内容を当該領域を専門とする教員がオムニバス形式で指導することにより学習効果を高める。夏季休業期間を中心として通年集中開講（7月～2月）で実施する。すべての講座についてレポートにより評価を行う。</p> <p>本講座の全レポートの他、中核的理科教員の指導による実地研究もしくは学校インターンシップ、および、自然科学系教育の基礎科目の評価結果を総合的に判定し、「CST」（コア・サイエンス・ティーチャー）もしくは「学生CST」（学卒院生の場合）として認定する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全30回）</p> <p>(15 中島 雅子／6回) (22 金子 康子／6回) (26 近藤 一史／6回) (35 富岡 寛顕／6回) (40 岡本 和明／6回) (41 小倉 康／6回) (49 大向 隆三／6回) (63 松岡 圭介／6回) (71 日比野 拓／6回) (74 大朝 由美子／6回)</p> <p>第1～2回：科学の最先端に関わる物理実験（領域a）（大向） 第3～4回：科学の面白さを実感させる物理実験（領域b）（近藤） 第5～6回：科学の最先端に関わる化学実験（領域a）（富岡） 第7～8回：科学の面白さを実感させる化学実験（領域b）（松岡） 第9～10回：科学の最先端に関わる生物実験（領域a）（金子） 第11～12回：科学の面白さを実感させる生物実験（領域b）（日比野） 第13～14回：科学の最先端に関わる地学実験（領域a）（岡本） 第15～16回：科学の面白さを実感させる天文コミュニケーション（領域e）（大朝） 第17～18回：ICT活用の理科実験（領域b）（小倉） 第19～20回：理科の学習とその評価（領域c）（中島） 第21～22回：附属小学校理科研究授業の観察と協議（領域c）（小倉） 第23～24回：附属中学校理科研究授業の観察と協議（領域c）（中島） 第25～26回：児童生徒理科自由研究分析（領域d）（近藤、富岡、金子、岡本） 第27～28回：科学才能の育成（科学の甲子園ジュニア等）（領域d）（大向、松岡、日比野、大朝）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

		第29～30回：科学コミュニケーション実践（実験教室等）（領域b, e）（中島、小倉、近藤、大向、富岡、松岡、金子、日比野、岡本、大朝）	
芸術系教育サブプログラム科目	芸術系教育の理論と実践A（音楽）	<p>音楽科教育の教授学習評価を实践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。</p> <p>本授業は、音楽科教育における理論と実践に焦点をあて、各受講者における教育実践上の課題について、音楽科教育学と音楽演奏研究の両面から考察することを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（20 蛭多 令子／5回） （45 竹澤 栄祐／4回） （69 小野 和彦／4回） （89 森 薫／5回）</p> <p>第1回：教授学習評価に関する実践事例について①国内（森） 第2回：教授学習評価に関する実践事例について②海外（森） 第3回：音楽教育史における評価について①明治から終戦まで（森） 第4回：音楽教育史における評価について②戦後から現代まで（森） 第5回：鍵盤楽器の指導と評価における諸問題①小学校を中心に（蛭多） 第6回：歌唱教材のピアノ伴奏における諸問題②中学校を中心に（蛭多） 第7回：歌曲および合唱曲のピアノ伴奏における諸問題③高等学校を中心に（蛭多） 第8回：楽典・ソルフェージュの指導と評価における諸問題～小中高を俯瞰して～（蛭多） 第9回：器楽演奏における呼吸法、姿勢に関する諸問題～小中高を俯瞰して～（竹澤） 第10回：管楽器の指導と評価における諸問題～小中高を俯瞰して～（竹澤） 第11回：器楽合奏の指導と評価における諸問題～小中高を俯瞰して～（竹澤） 第12回：音楽史、音楽教育史の中での歌唱教育の諸相（小野） 第13回：歌唱教育における諸問題（受講生の希望校種を中心に）（小野） 第14回：合唱におけるパート指導の諸問題（受講生の希望校種を中心に）（小野） 第15回：総括（森、蛭多、竹澤、小野）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）	<p>図画工作科教育及び美術科教育の教授学習評価を实践する基盤となる諸理論と小中高校段階の実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。</p> <p>主に研究者教員が分担して授業を行い、各教員の研究分野において探求を行った最新の研究動向を含めた研究内容を学修し、広い視野から図画工作科教育及び美術科教育を捉えた高度な授業実践力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（23 池内 慈朗／4回） （27 小澤 基弘／5回） （46 高須賀 昌志／5回） （61 石上 城行／5回） （62 内田 裕子／4回）</p> <p>第1回：オリエンテーション（小澤、高須賀、石上、池内、内田） 第2回：教授学習評価に関する海外の実践事例(1)（池内） 第3回：教授学習評価に関する海外の実践事例(2)（池内）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

	<p>第4回：評価法の理論及び実践(1) (小澤) 第5回：評価法の理論及び実践(2) (小澤) 第6回：評価法の理論及び実践(3) (小澤) 第7回：教科書における評価の観点(1) (高須賀) 第8回：教科書における評価の観点(2) (高須賀) 第9回：教科書における評価の観点(3) (高須賀) 第10回：現場の実践事例(1) (石上) 第11回：現場の実践事例(2) (石上) 第12回：現場の実践事例(3) (石上) 第13回：美術教育史における評価(1) (内田) 第14回：美術教育史における評価(2) (内田) 第15回：全体のふりかえり (小澤、高須賀、石上、池内、内田)</p>	
芸術系教育の授業 内容探求A (音楽)	<p>音楽科の「表現」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が模擬授業も行い、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。</p> <p>教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「表現」に関して小学校から高等学校までを俯瞰的に捉えた各単元の教育的意義と指導方法について多面的に探求する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(20 蛭多 令子 / 4回) (45 竹澤 栄祐 / 6回) (69 小野 和彦 / 4回) (89 森 薫 / 4回)</p> <p>第1回：「表現」に関する授業内容の探求～小学校を中心に 音楽科教育の観点から～ (森) 第2回：「表現」に関する授業内容の探求～中学校を中心に 音楽科教育の観点から～ (森) 第3回：「表現」に関する授業内容の探求～高等学校を中心に 音楽科教育の観点から～ (森) 第4回：「表現」に関する授業内容の探求～小学校を中心に ピアノ伴奏・ソルフェージュの観点から～ (蛭多) 第5回：「表現」に関する授業内容の探求～中学校を中心に ピアノ伴奏・ソルフェージュの観点から～ (蛭多) 第6回：「表現」に関する授業内容の探求～高等学校を中心に ピアノ伴奏・ソルフェージュの観点から～ (蛭多) 第7回：「表現」に関する授業内容教材の探求～小学校を中心に 管楽器演奏の観点から～ (竹澤) 第8回：「表現」に関する授業内容教材の探求～中学校を中心に 管楽器演奏の観点から～ (竹澤) 第9回：「表現」に関する授業内容教材の探求～高等学校を中心に 管楽器演奏の観点から～ (竹澤) 第10回：「表現」に関する授業内容教材の探求～小学校を中心に 歌唱・合唱・舞台表現の観点から～ (小野) 第11回：「表現」に関する授業内容教材の探求～中学校を中心に 歌唱・合唱・舞台表現の観点から～ (小野) 第12回：「表現」に関する授業内容教材の探求～高等学校を中心に 歌唱・合唱・舞台表現の観点から～ (小野) 第13回：「表現」に関する授業内容教材の探求～小中学校を中心に 合奏・指揮の観点から～ (竹澤) 第14回：「表現」に関する授業内容教材の探求～高等学校を中心に 合奏・指揮の観点から～ (竹澤) 第15回：総括 (森、蛭多、竹澤、小野)</p>	オムニバス 方式・共同 (一部)
芸術系教育の授業 内容探求B (音楽)	<p>音楽科の「鑑賞」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が模擬授業も行い、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。</p> <p>教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「鑑賞」に関して小学校から高等学校までを俯瞰的に捉えた各単元の教育的意義と指導方法について多面的に探求する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p>	オムニバス 方式・共同 (一部)

	<p>(20 蛭多 令子／4回) (45 竹澤 栄祐／6回) (69 小野 和彦／4回) (89 森 薫／4回)</p> <p>第1回：「鑑賞」に関する授業内容の探求～小学校を中心に 音楽科教育の観点から～（森） 第2回：「鑑賞」に関する授業内容の探求～中学校を中心に 音楽科教育の観点から～（森） 第3回：「鑑賞」に関する授業内容の探求～高等学校を中心に 音楽科教育の観点から～（森） 第4回：「鑑賞」に関する授業内容の探求～小学校を中心に ピアノ音楽の観点から～（蛭多） 第5回：「鑑賞」に関する授業内容の探求～中学校を中心に ピアノ音楽の観点から～（蛭多） 第6回：「鑑賞」に関する授業内容の探求～高等学校を中心に ピアノ音楽の観点から～（蛭多） 第7回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～小学校を中心に 管楽器作品の観点から～（竹澤） 第8回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～中学校を中心に 管楽器作品の観点から～（竹澤） 第9回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～高等学校を中心に 管楽器作品の観点から～（竹澤） 第10回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～小学校を中心に 声楽作品・合唱曲・舞台表現の観点から～（小野） 第11回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～中学校を中心に 声楽作品・合唱曲・舞台表現の観点から～（小野） 第12回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～高等学校を中心に 声楽作品・合唱曲・舞台表現の観点から～（小野） 第13回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～小中学校を中心に 管弦楽曲・室内楽曲の観点から～（竹澤） 第14回：「鑑賞」に関する授業内容教材の探求～高等学校を中心に 管弦楽曲・室内楽曲の観点から～（竹澤） 第15回：総括（森、蛭多、竹澤、小野）</p>	
<p>芸術系教育の授業内容探求C（図工・美術）</p>	<p>図画工作科及び美術科の「表現」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が模擬授業も行い、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。</p> <p>教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「表現」に関する小中高校段階及び小学校～高等学校迄を俯瞰的に捉えた各単元の教育的意義と指導方法について多面的に探求する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>(23 池内 慈朗／9回) (27 小澤 基弘／7回) (46 高須賀 昌志／7回) (61 石上 城行／7回) (62 内田 裕子／9回)</p> <p>第1回：小学校の「平面」領域に関する表現(1)（小澤、池内） 第2回：小学校の「平面」領域に関する表現(2)（小澤、池内） 第3回：中学校の「平面」領域に関する表現(1)（高須賀、池内） 第4回：中学校の「平面」領域に関する表現(2)（高須賀、池内） 第5回：高等学校の「平面」領域に関する表現(1)（石上、池内） 第6回：高等学校の「平面」領域に関する表現(2)（石上、池内） 第7回：小学校の「立体」領域に関する表現(1)（小澤、内田） 第8回：小学校の「立体」領域に関する表現(2)（小澤、内田） 第9回：中学校の「立体」領域に関する表現(1)（高須賀、内田） 第10回：中学校の「立体」領域に関する表現(2)（高須賀、内田） 第11回：高等学校の「立体」領域に関する表現(1)（石上、内田） 第12回：高等学校の「立体」領域に関する表現(2)（石上、内田） 第13回：小学校～高等学校における「表現」全般(1)（小澤、高須賀、石上、池内、内田） 第14回：小学校～高等学校における「表現」全般(2)（小澤、高須賀、石上、池内、内田）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

		<p>第15回：小学校～高等学校における「表現」全般(3) (小澤、高須賀、石上、池内、内田)</p>	
芸術系教育の授業内容探求D (図工・美術)		<p>図画工作科及び美術科の「鑑賞」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を修得し、各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察する。院生が模擬授業も行い、児童生徒の理解を深められるような実践的指導を行う。</p> <p>教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「鑑賞」に関する小中高校段階及び小学校～高等学校迄を俯瞰的に捉えた各単元の教育的意義と指導方法について多面的に探求する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(23 池内 慈朗 / 9回) (27 小澤 基弘 / 7回) (46 高須賀 昌志 / 7回) (61 石上 城行 / 7回) (62 内田 裕子 / 9回)</p> <p>第1回：小学校の「平面」領域に関する鑑賞(1) (小澤、池内) 第2回：小学校の「平面」領域に関する鑑賞(2) (小澤、池内) 第3回：中学校の「平面」領域に関する鑑賞(1) (高須賀、池内) 第4回：中学校の「平面」領域に関する鑑賞(2) (高須賀、池内) 第5回：高等学校の「平面」領域に関する鑑賞(1) (石上、池内) 第6回：高等学校の「平面」領域に関する鑑賞(2) (石上、池内) 第7回：小学校の「立体」領域に関する鑑賞(1) (小澤、内田) 第8回：小学校の「立体」領域に関する鑑賞(2) (小澤、内田) 第9回：中学校の「立体」領域に関する鑑賞(1) (高須賀、内田) 第10回：中学校の「立体」領域に関する鑑賞(2) (高須賀、内田) 第11回：高等学校の「立体」領域に関する鑑賞(1) (石上、内田) 第12回：高等学校の「立体」領域に関する鑑賞(2) (石上、内田) 第13回：小学校～高等学校における「鑑賞」全般(1) (小澤、高須賀、石上、池内、内田) 第14回：小学校～高等学校における「鑑賞」全般(2) (小澤、高須賀、石上、池内、内田) 第15回：小学校～高等学校における「鑑賞」全般(3) (小澤、高須賀、石上、池内、内田)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
芸術系教育の教材研究と実践A (音楽)		<p>音楽科の「表現」の内容に関して小学校から高等学校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「表現」に関する教材の探求において、教科内容の理解を深めると共に教育実践に対する理解及び実践力を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(20 蛭多 令子 / 4回) (45 竹澤 栄祐 / 6回) (69 小野 和彦 / 4回) (89 森 薫 / 4回)</p> <p>第1回：「表現」に関する教材の探求～小学校を中心に 音楽科教育の観点から～ (森) 第2回：「表現」に関する教材の探求～中学校を中心に 音楽科教育の観点から～ (森) 第3回：「表現」に関する教材の探求～高等学校を中心に 音楽科教育の観点から～ (森) 第4回：「表現」に関する教材の探求～小学校を中心に ピアノ伴奏・ソルフェージュの観点から～ (蛭多) 第5回：「表現」に関する教材の探求～中学校を中心に ピアノ伴奏・ソルフェージュの観点から～ (蛭多) 第6回：「表現」に関する教材の探求～高等学校を中心に ピアノ伴奏・ソルフェージュの観点から～ (蛭多)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

	<p>第7回：「表現」に関する教材の探求～小学校を中心に 管楽器演奏の観点から～（竹澤）</p> <p>第8回：「表現」に関する教材の探求～中学校を中心に 管楽器演奏の観点から～（竹澤）</p> <p>第9回：「表現」に関する教材の探求～高等学校を中心に 管楽器演奏の観点から～（竹澤）</p> <p>第10回：「表現」に関する教材の探求～小学校を中心に 歌唱・合唱・舞台表現の観点から～（小野）</p> <p>第11回：「表現」に関する教材の探求～中学校を中心に 歌唱・合唱・舞台表現の観点から～（小野）</p> <p>第12回：「表現」に関する教材の探求～高等学校を中心に 歌唱・合唱・舞台表現の観点から～（小野）</p> <p>第13回：「表現」に関する教材の探求～小中学校を中心に 合奏・指揮の観点から～（竹澤）</p> <p>第14回：「表現」に関する教材の探求～高等学校を中心に 合奏・指揮の観点から～（竹澤）</p> <p>第15回：総括（森、蛭多、竹澤、小野）</p>	
<p>芸術系教育の教材研究と実践B（音楽）</p>	<p>音楽科の「鑑賞」の内容に関して小学校から高等学校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「鑑賞」に関する教材の探求において、教科内容の理解を深めると共に教育実践に対する理解及び実践力を高める。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（20 蛭多 令子／4回） （45 竹澤 栄祐／6回） （69 小野 和彦／4回） （89 森 薫／4回）</p> <p>第1回：「鑑賞」に関する教材の探求～小学校を中心に 音楽科教育の観点から～（森）</p> <p>第2回：「鑑賞」に関する教材の探求～中学校を中心に 音楽科教育の観点から～（森）</p> <p>第3回：「鑑賞」に関する教材の探求～高等学校を中心に 音楽科教育の観点から～（森）</p> <p>第4回：「鑑賞」に関する教材の探求～小学校を中心に ピアノ音楽の観点から～（蛭多）</p> <p>第5回：「鑑賞」に関する教材の探求～中学校を中心に ピアノ音楽の観点から～（蛭多）</p> <p>第6回：「鑑賞」に関する教材の探求～高等学校を中心に ピアノ音楽の観点から～（蛭多）</p> <p>第7回：「鑑賞」に関する教材の探求～小学校を中心に 管楽器作品の観点から～（竹澤）</p> <p>第8回：「鑑賞」に関する教材の探求～中学校を中心に 管楽器作品の観点から～（竹澤）</p> <p>第9回：「鑑賞」に関する教材の探求～高等学校を中心に 管楽器作品の観点から～（竹澤）</p> <p>第10回：「鑑賞」に関する教材の探求～小学校を中心に 声楽作品・合唱曲・舞台表現の観点から～（小野）</p> <p>第11回：「鑑賞」に関する教材の探求～中学校を中心に 声楽作品・合唱曲・舞台表現の観点から～（小野）</p> <p>第12回：「鑑賞」に関する教材の探求～高等学校を中心に 声楽作品・合唱曲・舞台表現の観点から～（小野）</p> <p>第13回：「鑑賞」に関する教材の探求～小中学校を中心に 管弦楽曲・室内楽曲の観点から～（竹澤）</p> <p>第14回：「鑑賞」に関する教材の探求～高等学校を中心に 管弦楽曲・室内楽曲の観点から～（竹澤）</p> <p>第15回：総括（森、蛭多、竹澤、小野）</p>	<p>オムニバス方式、共同（一部）</p>

<p>芸術系教育の教材研究と実践C (図工・美術)</p>	<p>図画工作科及び美術科の「表現」の内容に関して小学校から高等学校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「表現」に関する教材の探求において、教科内容の理解を深めると共に教育実践に対する理解及び実践力を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(23 池内 慈朗 / 9回) (27 小澤 基弘 / 7回) (46 高須賀 昌志 / 7回) (61 石上 城行 / 5回) (62 内田 裕子 / 8回)</p> <p>第1回：「知識」の観点に基づく表現教材(1) (小澤、池内) 第2回：「知識」の観点に基づく表現教材(2) (小澤、池内) 第3回：「技能」の観点に基づく表現教材(1) (高須賀、池内) 第4回：「技能」の観点に基づく表現教材(2) (高須賀、池内) 第5回：「思考力」の観点に基づく表現教材(1) (小澤、池内) 第6回：「思考力」の観点に基づく表現教材(2) (高須賀、池内) 第7回：「思考力」の観点に基づく表現教材(3) (石上、池内) 第8回：「判断力」の観点に基づく表現教材(1) (小澤、内田) 第9回：「判断力」の観点に基づく表現教材(2) (高須賀、内田) 第10回：「判断力」の観点に基づく表現教材(3) (石上、内田) 第11回：「表現力」の観点に基づく表現教材(1) (小澤、内田) 第12回：「表現力」の観点に基づく表現教材(2) (高須賀、内田) 第13回：「表現力」の観点に基づく表現教材(3) (石上、内田) 第14回：教科の目標との関連に基づく表現教材(1) (小澤、高須賀、石上、池内、内田) 第15回：教科の目標との関連に基づく表現教材(2) (小澤、高須賀、石上、池内、内田)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>芸術系教育の教材研究と実践D (図工・美術)</p>	<p>図画工作科及び美術科の「鑑賞」の内容に関して小学校から高等学校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>教科専門と教科教育の研究者教員が共同して授業を担当し、「鑑賞」に関する教材の探求において、教科内容の理解を深めると共に教育実践に対する理解及び実践力を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(23 池内 慈朗 / 9回) (27 小澤 基弘 / 7回) (46 高須賀 昌志 / 7回) (61 石上 城行 / 5回) (62 内田 裕子 / 8回)</p> <p>第1回：「知識」の観点に基づく鑑賞教材(1) (小澤、池内) 第2回：「知識」の観点に基づく鑑賞教材(2) (小澤、池内) 第3回：「技能」の観点に基づく鑑賞教材(1) (高須賀、池内) 第4回：「技能」の観点に基づく鑑賞教材(2) (高須賀、池内) 第5回：「思考力」の観点に基づく鑑賞教材(1) (小澤、池内) 第6回：「思考力」の観点に基づく鑑賞教材(2) (高須賀、池内) 第7回：「思考力」の観点に基づく鑑賞教材(3) (石上、池内) 第8回：「判断力」の観点に基づく鑑賞教材(1) (小澤、内田) 第9回：「判断力」の観点に基づく鑑賞教材(2) (高須賀、内田) 第10回：「判断力」の観点に基づく鑑賞教材(3) (石上、内田) 第11回：「表現力」の観点に基づく鑑賞教材(1) (小澤、内田) 第12回：「表現力」の観点に基づく鑑賞教材(2) (高須賀、内田) 第13回：「表現力」の観点に基づく鑑賞教材(3) (石上、内田)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

		<p>第14回：教科の目標との関連に基づく鑑賞教材(1) (小澤、高須賀、石上、池内、内田)</p> <p>第15回：教科の目標との関連に基づく鑑賞教材(2) (小澤、高須賀、石上、池内、内田)</p>	
身体文化系教育サブプログラム科目	<p>体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求</p>	<p>体育・保健体育科教育の内容について、その我が国における歴史の変遷や小・中・高等学校における系統性、及び海外の状況等を検討しつつ、今後の体育・保健体育科教育のあり方を探求する。また、指導法については、ICT機器を用いた指導や授業観察・分析などの情報化社会に対応した指導のあり方を検討する。さらに最新の運動制御・学習・発達に関する理論をもとに、場面指導や多様な事例の分析を通じて、既存の教材や指導法の問題点の発見や改善案の提案を行う。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(16 石川 泰成) (84 古田 久)</p> <p>第1回：オリエンテーション(古田、石川) 第2回：学習指導要領の目標・内容の変遷(体育・保健体育科)(古田、石川) 第3回：学習指導要領における小・中・高等学校の内容の系統性(古田、石川) 第4回：体育・保健体育科における資質・能力の育成(古田、石川) 第5回：体づくり運動系の指導内容と単元設計(古田、石川) 第6回：ICT機器を活用した授業づくり(古田、石川) 第7回：授業観察の視点及び授業分析の内容と方法(古田、石川) 第8回：諸外国の体育・保健体育科教育①(古田、石川) 第9回：諸外国の体育・保健体育科教育②(古田、石川) 第10回：運動制御理論と運動指導法(古田、石川) 第11回：運動学習理論と運動指導法(古田、石川) 第12回：運動発達理論と運動指導法(古田、石川) 第13回：動機づけ理論と運動指導法(古田、石川) 第14回：運動に意欲的ではない児童・生徒に対する学習支援(古田、石川) 第15回：運動が苦手な児童・生徒に対する学習支援(古田、石川)</p>	共同
	<p>体育・保健体育科教育の理論と実践A</p>	<p>体育原理、身体・スポーツ文化論、身体表現論の立場から、身体や身体運動、スポーツの諸相について検討し、今後の体育・保健体育のあり方を探求する。また、教育現場で体育・保健体育科教師として中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(32 細川 江利子／9回) (58 松本 真／9回)</p> <p>第1回：オリエンテーション(松本、細川) 第2回：体育原理からみた体育・保健体育教育①(松本) 第3回：体育原理からみた体育・保健体育教育②(松本) 第4回：スポーツ文化論からみた体育・保健体育教育(松本) 第5回：体育原理・スポーツ文化論的視点による多様な事例の分析①(松本) 第6回：体育原理・スポーツ文化論的視点による多様な事例の分析②(松本) 第7回：体育原理・スポーツ文化論的視点による多様な事例の分析③(松本) 第8回：中間まとめ(松本、細川) 第9回：身体表現論からみた体育・保健体育教育①(細川) 第10回：身体表現論からみた体育・保健体育教育②(細川) 第11回：身体文化論からみた体育・保健体育教育(細川) 第12回：身体文化論・表現論的視点による多様な事例の分析①(細川) 第13回：身体文化論・表現論的視点による多様な事例の分析②(細川)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

	<p>第14回：身体文化論・表現論的視点による多様な事例の分析③ (細川)</p> <p>第15回：まとめ(松本、細川)</p>	
<p>体育・保健体育科 教育の理論と実践 B</p>	<p>運動学的視点から体育・保健体育科教育のあり方を探求する。 また、体育・保健体育科の領域の内容の特性を踏まえた指導につ いて検討し、内容と指導法の有機的な連携、理論と実践の往還を 図り、場面指導や多様な事例の分析を通じて実践的指導力を高め る。 授業は講義形式と演習形式を交えて行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(29 有川 秀之 / 9回) (66 菊原 伸郎 / 9回)</p> <p>第1回：オリエンテーション(有川、菊原) 第2回：運動学からみた体育・保健体育科教育(有川) 第3回：スポーツトレーニングからみた体育・保健体育科教育 (有川) 第4回：発育発達からみた体育・保健体育科教育(有川) 第5回：運動学的視点による多様な事例の分析①(有川) 第6回：運動学的視点による多様な事例の分析②(有川) 第7回：運動学的視点による多様な事例の分析③(有川) 第8回：中間まとめ(有川、菊原) 第9回：ネット型ゲームの実践研究(菊原) 第10回：ゴール型ゲームの実践研究(菊原) 第11回：障害者スポーツ(ブラインドフットボールなど)の実践 研究(菊原) 第12回：運動学的視点による多様な事例の分析④(菊原) 第13回：運動学的視点による多様な事例の分析⑤(菊原) 第14回：運動学的視点による多様な事例の分析⑥(菊原) 第15回：まとめ(有川、菊原)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p> <p>講義16時間 演習14時間</p>
<p>体育・保健体育科 教育の教材研究と 実践A</p>	<p>最新のスポーツ科学研究をもとに、教材開発を中心として小学 校から高校までの体育・保健体育科の実践的指導力の向上を目指 す。特に器械運動系、陸上運動系、及び表現運動・ダンス系の領 域について、既存の体育・保健体育科の教材や指導法、評価法を 検討し、問題点の発見や改善案の提案などから、具体的な実践方 法を開発していく。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(16 石川 泰成 / 7回) (29 有川 秀之 / 6回) (32 細川 江利子 / 6回)</p> <p>第1回：オリエンテーション(細川、有川、石川) 第2回：体育・保健体育教育における内容・教材、教具の考え方 (石川) 第3回：器械運動系の教材研究1 校種間の技の系統性に着目し た教材開発(石川) 第4回：器械運動系の教材研究2 ICT機器を活用した教材開発 (石川) 第5回：器械運動系の教材研究3 運動を苦手とする児童生徒と 場づくり(石川) 第6回：器械運動系の教材研究4 指導と評価の一体化を目指し た授業づくり(石川) 第7回：陸上運動系の教材研究1(走運動①)(有川) 第8回：陸上運動系の教材研究2(走運動②)(有川) 第9回：陸上運動系の教材研究3(跳運動)(有川) 第10回：陸上運動系の教材研究4(投運動)(有川) 第11回：表現運動系の教材研究1(表現系ダンス)(細川) 第12回：表現運動系の教材研究2(リズム系ダンス)(細川) 第13回：表現運動系の教材研究3(フォークダンス)(細川) 第14回：表現運動系の教材研究4(運動を苦手とする児童生徒に 対応した授業の工夫)(細川) 第15回：学修成果のプレゼンテーション、まとめ(細川、有川、 石川)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p>

<p>体育・保健体育科教育の教材研究と実践B</p>		<p>最新のスポーツ科学研究をもとに、教材開発を中心として小学校から高校までの体育・保健体育科の実践的指導力の向上を目指す。本授業では特に球技系の領域について、既存の体育・保健体育科の教材や指導法、評価法を検討し、問題点の発見や改善案の提案などから、具体的な実践方法を開発していく。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(58 松本 真 / 7回) (66 菊原 伸郎 / 7回) (84 古田 久 / 7回)</p> <p>第1回：ガイダンス (菊原、松本、古田) 第2回：体育・保健体育教育における内容・教材、教具の考え方 (松本) 第3回：ゴール型球技 (バスケットボール) の教材研究1 校種間の戦術と技の系統性に着目した教材開発 (松本) 第4回：ゴール型球技 (バスケットボール) の教材研究2 ICT機器を活用した教材開発 (松本) 第5回：ゴール型球技 (バスケットボール) の教材研究3 運動を苦手とする児童生徒と場づくり (松本) 第6回：ゴール型球技 (サッカー) の教材研究1 校種間の技の系統性に着目した教材開発 (菊原) 第7回：ゴール型球技 (サッカー) の教材研究2 ICT機器を活用した教材開発 (菊原) 第8回：ゴール型球技 (サッカー) の教材研究3 運動を苦手とする児童生徒と場づくり (菊原) 第9回：ネット型球技の教材研究1 校種間の技の系統性に着目した教材開発 (古田) 第10回：ネット型球技の教材研究2 ICT機器を活用した教材開発 (古田) 第11回：ネット型球技の教材研究3 運動を苦手とする児童生徒と場づくり (古田) 第12回：球技系スポーツの多様性を求めた教材研究 (菊原) 第13回：指導と評価の一体化を目指した授業づくり (古田) 第14回：模擬授業 (菊原、松本、古田) 第15回：球技系教材のリフレクション、各自の成果発表 (菊原、松本、古田)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>生活創造系教育サブプログラム科目</p>	<p>技術科教育の理論と実践</p>	<p>中学校技術科教育の教授・学習・評価を実践する基盤となる諸理論と実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深めるとともに、教育現場で中核的に活躍するための高度な資質・能力に関して、多様な事例の分析を通じて力量を高める。実践的な教科指導力の育成のために、a)授業づくり、b)教材作成、c)授業評価、について学修する。</p> <p>到達目標は、適切な授業設計と実践力の育成を目指す。課題により講義で扱った理論と実践に関する理解の程度を、演習におけるプレゼンテーションや議論の内容、レポート課題により評価する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(31 山本 利一 / 4回) (48 浅田 茂裕 / 7回) (59 内海 能亜 / 11回) (70 荻窪 光慈 / 10回) (81 荒木 祐二 / 4回)</p> <p>第1回：ガイダンス (山本、浅田、内海、荻窪、荒木) 第2回：情報の技術の授業づくり、情報に関する実践的な演習や実習を含む (山本、荻窪) 第3回：情報の技術に関する教材開発・授業評価 (山本、荻窪) 第4回：材料と加工の技術の授業づくり (浅田、内海) 第5回：木材に関する実践的な演習・実習 (浅田、内海) 第6回：木材に関する教材開発・授業評価 (浅田、内海)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

		<p>第7回：エネルギー変換(機械)の授業づくり(内海、荻窪) 第8回：エネルギー変換(機械)に関する実践的な演習・実習(内海、荻窪) 第9回：エネルギー変換(機械)に関する教材開発・授業評価(内海、荻窪) 第10回：エネルギー変換(電気)の授業づくり(荻窪、内海) 第11回：エネルギー変換(電気)に関する実践的な演習や実習(荻窪、内海) 第12回：エネルギー変換(電気)に関する教材開発・授業評価(荻窪、内海) 第13回：生物育成に関する授業づくり，実践的な演習や実習を含む(荒木、浅田) 第14回：生物育成に関する教材開発・授業評価(荒木、浅田) 第15回：学習内容の最終確認 総括的なまとめ(荒木、浅田、山本、内海、荻窪)</p> <p>全15回のうち2回以上は全教員の共同とし、他の回も主担当と連携して複数の研究者教員が効果的に共同参画する。</p>	
	<p>技術科教育の授業内容探求A</p>	<p>中学校・高等学校における材料加工、生物育成の単元、内容、授業実施上の課題、他教科との関連性を俯瞰的に理解するとともに、各領域における学習内容および教材の構成について単元としてまとめるとともに、院生による模擬授業を通し、生徒理解を深めるa)実践的授業設計、b)教材構成について探求する。材料加工、生物育成の内容を系統的、横断的に理解し、各領域で関連する単元をどのようにつながりを持たせ授業することが可能かについて考察することで、技術科教育の授業設計力、教材構成力を高める。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(48 浅田 茂裕 / 15回) (59 内海 能亜 / 11回) (81 荒木 祐二 / 11回)</p> <p>第1回：オリエンテーション(浅田、内海、荒木) 第2回：技術分野材料加工領域の内容構成の確認(浅田、内海) 第3回：技術分野生物育成領域の内容構成の確認(浅田、荒木) 第4回：材料加工領域の教材分析1-木材加工(浅田、内海) 第5回：材料加工領域の教材分析2-金属加工(浅田、内海) 第6回：材料加工領域の教材分析3-その他の材料(浅田、内海) 第7回：生物育成領域の教材分析1-作物の栽培(浅田、荒木) 第8回：生物育成領域の教材分析2-動物・水産生物(浅田、荒木) 第9回：生物育成領域の教材分析3-その他の生物(浅田、荒木) 第10回：材料加工領域の授業設計(浅田、内海、荒木) 第11回：材料加工領域の教材構成(浅田、内海、荒木) 第12回：生物育成領域の授業設計(浅田、内海、荒木) 第13回：生物育成領域の教材構成(浅田、内海、荒木) 第14回：授業設計の発表、討議(浅田、内海、荒木) 第15回：ふり返りとまとめ(浅田、内海、荒木)</p> <p>全15回のうち2回以上は全教員の共同とし、他の回も主担当と連携して他研究者教員が効果的に共同参画する。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
	<p>技術科教育の授業内容探求B</p>	<p>エネルギー変換(機械・電気)、情報の内容を系統的、横断的に理解し、各領域で関連する単元をどのようにつながりを持たせ授業することが可能かについて考察する。院生による模擬授業を通し、生徒理解を深められるような実践的指導方法を探求する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(31 山本 利一 / 12回) (59 内海 能亜 / 10回) (70 荻窪 光慈 / 15回)</p> <p>第1回：オリエンテーション(山本、内海、荻窪) 第2回：エネルギー変換領域の内容構成の確認(内海、荻窪)</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

	<p>第3回：情報領域の内容構成の確認（山本、荻窪） 第4回：エネルギー変換領域教材の教材分析1-機械（内海、荻窪） 第5回：エネルギー変換領域の教材分析2-電気（内海、荻窪） 第6回：エネルギー変換領域の教材分析3-その他（山本、荻窪） 第7回：情報領域における教材分析1-ネットワークとプログラミング（山本、荻窪） 第8回：情報領域における教材分析2-プログラミングと計測・制御（山本、荻窪） 第9回：情報領域における教材分析3-その他の情報（山本、荻窪） 第10回：エネルギー変換領域の授業設計（山本、内海、荻窪） 第11回：エネルギー変換領域の教材構成（山本、内海、荻窪） 第12回：情報領域の授業設計（山本、内海、荻窪） 第13回：情報領域の教材構成（山本、内海、荻窪） 第14回：授業設計の発表、討議（山本、内海、荻窪） 第15回：ふり返りとまとめ（山本、内海、荻窪）</p> <p>全15回のうち2回以上は全教員の共同とし、他の回も主担当と連携して他研究者教員が効果的に共同参画する。</p>	
<p>家庭科教育の理論と実践</p>	<p>家庭科教育の教授や学習評価のために基盤となる諸理論と小中高校段階の教授についての実践的スキルに関して、最新の研究動向を含め、理解を深める。特に、教育現場で中核的な教員として活躍するための高度な資質・能力を育成するために、多様な事例の分析や授業分析を試みながら家庭科教育の専門的な力量や教師としての力量を高める。</p> <p>本授業では、先行研究等をレビューするなど、研究的視点をもって学習や教授方法について考察することを目指す一方で実践事例を対象とした授業分析からも学ぶ。院生自身の研究課題に関わる理論研究および実践研究の方法をレビューしながら、自身の研究課題に沿った実践的研究に取り組み、理論と実践の往還を図る。この点に関してはa)先行研究から学ぶ視点を明確にし、b)それらの視点と自身の研究課題とを関連させ、最終的にc)自身の実践研究に取り組み知見を整理するという段階を踏んで行く。あわせて良質な教育実践の報告書の書き方やプレゼンテーションの方法も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(33 河村 美穂／11回) (53 亀崎 美苗／10回)</p> <p>第1回：オリエンテーション(河村、亀崎) 第2回：研究論文の読み方と演習(理論研究と実践研究の読み方の相違)(河村) 第3回：研究論文紹介(レジュメを用いたプレゼンテーション方式で)：知見の整理の方法について(河村、亀崎) 第4回：先行研究の探し方：家庭科の理論研究の歴史の変遷の概要について(河村) 第5回：理論研究から学ぶ家庭科の学習や教授に関する理論：家庭科教育の見方・考え方について(河村) 第6回：家庭科の教育実践研究から学ぶデータを活用する視点(河村) 第7回：先行研究から得た家庭科教育の研究知見についての報告(PPTプレゼンテーション方式で)(河村、亀崎) 第8回：実践研究のテーマと計画の方法について：主体的で対話的な深い学びの実現のために(河村) 第9回：実践研究の構想についての発表・意見交換(河村、亀崎) 第10回：理論を活用した教育実践の方法と研究データの収集について(亀崎) 第11回：理論研究の知見を活用した実践研究の計画発表(亀崎) 第12回：教育実践報告例の比較検討演習(亀崎) 第13回：研究テーマと関連した実践報告事例の紹介(批判的視点から：レジュメを用いたプレゼンテーション方式で)(亀崎、河村) 第14回：良質な実践報告を書くための条件について(亀崎) 第15回：自身の実践研究における理論の活用について経過報告(PPTを用いたプレゼンテーション方式で)(河村、亀崎)</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>家庭科教育の授業 内容探求 A</p>	<p>家庭経営学、児童学、住居学の領域を中心として、小学校から高校の学習内容を系統的、横断的に理解し、学習指導要領の内容を深化させることにより、単元間の繋がりを相補的に捉えて授業することを探求する。各領域の高度な知識獲得を目的とし、講義および演習でのディスカッションにより教科内容の理解を深め、往還的な視野の育成と向上を図る。また教科の学習指導の深化と指導技術の育成および向上を目的として領域横断的な授業設計を通して、児童・生徒が理解を深められる実践的指導方法を探求する。本授業を通してバックボーンとしての教科指導の専門性を強化し、授業内容の改善に資する高度な問題解決力と設計力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(42 吉川 はる奈 / 10回) (44 重川 純子 / 9回) (53 亀崎 美苗 / 8回)</p> <p>第1回：オリエンテーション (吉川、重川、亀崎) 第2回：家族・家庭生活領域における学習指導要領の理解深化と課題の抽出 (重川、吉川) 第3回：家族・家庭生活領域の授業の課題解決・授業設計 (重川、吉川) 第4回：住生活領域における学習指導要領の理解深化と課題の抽出 (亀崎) 第5回：住生活領域の授業の課題解決・授業設計 (亀崎) 第6回：保育領域における学習指導要領の理解深化と課題の抽出 (吉川) 第7回：保育領域の授業の課題解決・授業設計 (吉川) 第8回：消費生活領域における学習指導要領の理解深化と課題の抽出 (重川) 第9回：消費生活領域の授業の課題解決・授業設計 (重川) 第10回：家族・家庭生活領域と他領域を横断する授業設計と相互評価・討議 (重川、亀崎) 第11回：住生活領域と他領域を横断する授業設計と相互評価・討議 (亀崎、吉川) 第12回：保育領域と他領域を横断する授業設計と相互評価・討議 (吉川、亀崎) 第13回：消費生活領域と他領域を横断する授業設計と相互評価・討議 (重川、吉川) 第14回：授業設計および討議を踏まえた実践的指導方法の提案発表 (吉川、重川、亀崎) 第15回：授業設計および討議を踏まえた実践的指導方法の提案発表 (吉川、重川、亀崎)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p>
<p>家庭科教育の授業 内容探求 B</p>	<p>被服学と食物学の領域を中心として、小学校から高校までの学習内容を系統的、横断的に理解し、学習指導要領の内容をさらに深化させることにより、単元間における繋がりを相補的に捉えながら授業することが可能かについて考察する。本授業では、各領域の高度な知識獲得を目的とし、講義および演習でのディスカッションにより教科内容の理解を深める。講義および演習におけるディスカッションは受講者同士および指導教員が行い、往還的な視野の育成および向上を図る。また教科の学習指導の深化と指導技術の育成および向上を目的として、領域横断的な授業設計を通して、児童・生徒が理解を深められるような実践的指導方法を探求する。本授業を通してバックボーンとしての教科指導の専門性を強化することにより、授業内容の改善に資する高度な問題解決力および設計力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(24 川端 博子 / 7回) (55 島田 玲子 / 7回) (78 上野 茂昭 / 7回)</p> <p>第1回：オリエンテーション (川端、島田、上野) 第2回：衣生活領域における小学校から高校までの学習指導要領の理解深化と課題の抽出 (川端)</p>	<p>オムニバス 方式・共同 (一部)</p>

	<p>第3回：衣生活領域における小学校から高校までの授業の課題解決・授業設計（川端）</p> <p>第4回：衣生活領域における小学校から高校までの授業設計および相互評価・討議（川端）</p> <p>第5回：食物学（調理）領域における小学校から高校までの学習指導要領の理解深化と課題の抽出（島田）</p> <p>第6回：食物学（調理）領域における小学校から高校までの授業の課題解決・授業設計（島田）</p> <p>第7回：食物学（調理）領域における小学校から高校までの授業設計および相互評価・討議（島田）</p> <p>第8回：食物学（栄養学）領域における小学校から高校までの学習指導要領の理解深化と課題の抽出（上野）</p> <p>第9回：食物学（栄養学）領域における小学校から高校までの授業の課題解決・授業設計（上野）</p> <p>第10回：食物学（栄養学）領域における小学校から高校までの授業設計および相互評価・討議（上野）</p> <p>第11回：衣生活領域と他領域を横断する授業設計（川端）</p> <p>第12回：衣生活領域と他領域を横断する授業設計の相互評価・討議（川端）</p> <p>第13回：食物学領域と他領域を横断する授業設計（島田、上野）</p> <p>第14回：食物学領域と他領域を横断する授業設計の相互評価・討議（島田、上野）</p> <p>第15回：授業設計および討議を踏まえた実践的指導方法の提案（川端、島田、上野）</p>	
<p>技術科教育の教材研究と実践A</p>	<p>中学校技術科a)材料加工領域およびb)生物育成領域の内容に関して、中学校技術科での実践を前提とした効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>（共同方式／全15回）</p> <p>（48 浅田 茂裕・81 荒木 祐二）</p> <p>第1回：オリエンテーション（浅田、荒木）</p> <p>第2回：材料加工と生物育成の教科内容（浅田、荒木）</p> <p>第3回：材料加工における教材の意義（浅田、荒木）</p> <p>第4回：材料加工に関する教材研究の方法（浅田、荒木）</p> <p>第5回：院生による教材開発（材料加工）（浅田、荒木）</p> <p>第6回：材料加工の授業の実態（浅田、荒木）</p> <p>第7回：材料加工の授業実践（浅田、荒木）</p> <p>第8回：院生による授業実践の提案（材料加工）（浅田、荒木）</p> <p>第9回：生物育成における教材の意義（荒木、浅田）</p> <p>第10回：生物育成に関する教材研究の方法（荒木、浅田）</p> <p>第11回：院生による教材開発（生物育成）（荒木、浅田）</p> <p>第12回：生物育成の授業の実態（荒木、浅田）</p> <p>第13回：生物育成の授業実践（荒木、浅田）</p> <p>第14回：院生による授業実践の提案（生物育成）（荒木、浅田）</p> <p>第15回：ふり返りとまとめ（浅田、荒木）</p>	<p>共同</p>
<p>技術科教育の教材研究と実践B</p>	<p>中学校技術科エネルギー変換領域（機械・電気）の内容に関して、中学校技術科での実践を前提とした効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。実際の授業での導入とその評価も試行的に行う。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（31 山本 利一／11回）</p> <p>（59 内海 能亜／9回）</p> <p>（70 荻窪 光慈／12回）</p> <p>第1回：ガイダンス（山本、内海、荻窪）</p> <p>第2回：電気・運動・熱特性の原理と法則（内海、荻窪）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

	<p>第3回：エネルギー変換（荻窪、内海） 第4回：伝達に関する基礎的な仕組み（内海、山本） 第5回：機械・電気電子機器の保守点検（内海、荻窪） 第6回：教材としての機械電子機器の構想と設計（荻窪、山本） 第7回：製作・評価改善（内海、荻窪、山本） 第8回：機械電子機器の安全への取り組み（荻窪、内海） 第9回：情報の原理と法則（荻窪、山本） 第10回：デジタル処理・自動・システム化（荻窪、山本） 第11回：セキュリティと情報モラル（山本、荻窪） 第12回：ネットワークとプログラミング（山本、荻窪） 第13回：機械とロボットおよびセンサの仕組み（内海、山本） 第14回：教材としてのロボット製作（山本、内海） 第15回：ロボットおよびプログラムの評価改善（山本、荻窪）</p> <p>全15回のうち2回以上は全教員の共同とし、他の回も主担当と連携して複数の研究者教員が効果的に共同参画する。</p>	
<p>家庭科教育の教材研究と実践A</p>	<p>本授業を通し、家庭経営学、児童学、住居学の領域を中心に家庭科の他領域、また他教科との連携も視野に入れ、小学校から高校までの各単元で効果的な教材を作成できる力の獲得を目指す。現在の家庭生活運営にかかわる課題、将来の家庭生活の予測等も踏まえつつ、各領域での学習により児童・生徒が身につけるべき能力を確認し、それを具現化するための教材の作成を行う。</p> <p>既存の教材の問題点や改善点を把握する能力を身につけることに加え、児童・生徒が学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や機能を検討し、実践する能力を獲得する。なお、教材の作成では、受講者それぞれに、少なくとも1領域以上でICTを活用したものも取り上げる。受講者が作成した教材を発表し、相互に討議を行うとともに、模擬授業を行い、よりよい教材にむけた改善を図る。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（42 吉川 はる奈／8回） （44 重川 純子／8回） （53 亀崎 美苗／8回）</p> <p>第1回：オリエンテーション（吉川、重川、亀崎） 第2回：家族・家庭生活領域の授業実施上の課題、実習、実践で使用した教材の振り返り・課題の確認（重川、吉川） 第3回：保育領域の授業実施上の課題、実習、実践で使用した教材の振り返り・課題の確認（吉川） 第4回：住生活領域の授業実施上の課題、実習、実践で使用した教材の振り返り・課題の確認（亀崎） 第5回：消費生活領域の授業実施上の課題、実習、実践で使用した教材の振り返り・課題の確認（重川） 第6回：家族・家庭生活、保育、住生活、消費生活各領域におけるICTを活用した授業の検討（吉川、重川、亀崎） 第7回：家族・家庭生活領域の教材作成（吉川、亀崎） 第8回：保育領域の教材作成（吉川） 第9回：住生活領域の教材作成（亀崎） 第10回：消費生活領域の教材作成（重川） 第11回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 家族・家庭生活（亀崎、重川） 第12回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 保育（吉川） 第13回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 住居（亀崎） 第14回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 消費生活（重川） 第15回：模擬授業、討議を踏まえた改善案の発表（吉川、重川、亀崎）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

	家庭科教育の教材研究と実践B	<p>本授業を通し、被服学と食物学の領域を中心に家庭科の他領域との連携も視野に入れ、小学校から高校までの各単元で効果的な教材を作成できる力の獲得を目指す。現在の衣生活と食生活にかかわる課題、将来の生活の予測等も踏まえつつ、各領域での学習により児童・生徒が身につけるべき能力を検討したうえで、それを具現化するための教材の作成を行う。</p> <p>既存の教材を収集・講読によりそれらの問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、児童・生徒が学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。なお、教材の作成ではICTを活用したものも取り上げる。受講者が作成した教材を発表し、相互に討議を行うとともに、模擬授業を行い、よりよい教材にむけた改善を図る。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(24 川端 博子 / 9回) (55 島田 玲子 / 9回) (78 上野 茂昭 / 9回)</p> <p>第1回：オリエンテーション(川端、島田、上野) 第2回：衣生活と食生活領域の授業実施上の課題、実習等で使用した教材の振り返り・課題の確認(川端、島田、上野) 第3回：食生活(食品栄養)領域の授業実施上の課題、実習等で使用した教材の振り返り・課題の確認(上野) 第4回：食生活(調理)領域の授業実施上の課題、実習、実践で使用した教材の振り返り・課題の確認(島田) 第5回：衣生活領域の授業実施上の課題、実習、実践で使用した教材の振り返り・課題の確認(川端) 第6回：衣生活、食生活各領域におけるICTを活用した授業の検討(川端、島田、上野) 第7回：衣生活・食生活領域の教材作成(川端、島田、上野) 第8回：食生活(食品栄養)領域の教材作成(上野) 第9回：食生活(調理)領域の教材作成(島田) 第10回：衣生活領域の教材作成(川端) 第11回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 衣生活と食生活(川端、島田、上野) 第12回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 食生活(食品栄養)(上野) 第13回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 食生活(調理)(島田) 第14回：作成した教材を用いた模擬授業・授業についての討議 衣生活(川端) 第15回：模擬授業、討議を踏まえた改善案の発表(川端、島田、上野)</p>	オムニバス方式・共同(一部)
全体にかかわる科目	現代的・地域的教育課題の共同探求	<p>前期の「学校と教職の課題探求」のなかでの多様な領域や機関のゲストスピーカーをお招きした討議や発表を踏まえ、後期の選択科目であるこのプロジェクトのなかで、さらに関心を深めようとする参加者と共にそれぞれの課題に分かれて共同探求を行う(貧困と教育(岩川)、外国につながる子どもの支援(磯田)、特別な支援を要する子どもと教育(長江)、働き方改革(安原)、幼保・小・中連携(宇佐見))。共同探求の成果は研究紀要や学会での文書による報告書や論文等に限定せず、教職大学院のフォーラムのラウンドテーブルや免許更新講習でのワークショップなどの多様な場をとおして実践現場に還元してゆく。</p> <p>(共同方式 / 全15回)</p> <p>(4 岩川 直樹・6 宇佐見 香代・9 磯田 三津子・11 長江 清和・13 安原 輝彦)</p> <p>第1回：オリエンテーション—ジョイント・リサーチの意義と方法(岩川、宇佐見、磯田、長江、安原) 第2回：現代的諸課題の提示と解説(岩川、宇佐見、磯田、長江、安原) 第3回：課題別のグループ分けと関心の共有(岩川、宇佐見、磯田、長江、安原)</p>	共同

	<p>第4回：課題別共同探求1—問題の共有（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第5回：課題別共同探求2—文献の購読1（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第6回：課題別共同探求3—文献の購読2（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第7回：課題別共同探求4—探求の構想1（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第8回：課題別共同探求5—探求の構想2（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第9回：中間発表—全体での探求構想の発表と共有（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第10回：課題別共同探求6—調査実施1（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第11回：課題別共同探求7—データ分析1（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第12回：課題別共同探求8—調査実施2（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第13回：課題別共同探求9—データ分析2（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第14回：最終発表1（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p> <p>第15回：最終発表2（岩川、宇佐見、磯田、長江、安原）</p>	
探求活動演習Ⅰ	<p>教育学、心理学、教育実践学、人文科学、社会科学、自然科学、芸術学、体育学などの分野で院生が強い興味関心を持つ特定の分野について、それを専門とする教員の指導を直接受けながら個人での探求活動を行う。</p> <p>授業は演習形式で行い、a) 具体的な探求テーマの決定、b) 当該探求領域における先行研究の分析、c) 探求の方法及び計画の検討、d) 計画に基づく探求活動の実施、を行う。</p> <p>適宜院生が探求活動の進捗についてレポートやプレゼンテーションで報告を行い、教員がその内容に基づいて成績評価を行う。</p> <p>(単独方式／全15回)</p> <p>(研究者教員または実務家教員の全員／主担当15回)</p> <p>1名の教員が a) ～d) の全ての内容を担当する。</p>	
探求活動演習Ⅱ	<p>探求活動演習Ⅰに引き続き、自らが設定した探求テーマに関して教員から指導を受けながら探求活動を進める。</p> <p>授業は演習形式で行い、a) 探求活動の実施と結果の評価、b) 研究計画の再検討、c) 研究成果のまとめを行う。</p> <p>適宜院生が探求活動の進捗についてレポートやプレゼンテーションで報告を行うとともに、研究成果を公表（論文執筆、口頭発表など）し、その内容に基づいて成績を評価する。</p> <p>(単独方式／全15回)</p> <p>(研究者教員または実務家教員の全員／主担当15回)</p> <p>1名の教員が a) ～d) の全ての内容を担当する。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

国立大学法人埼玉大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
埼玉大学				埼玉大学				
教養学部	3年次			教養学部	3年次			
教養学科	160	30	700	教養学科	160	30	700	
経済学部	3年次			経済学部	3年次			
経済学科(昼間コース)	280	10	1,140	経済学科(昼間コース)	280	10	1,140	
経済学科(夜間主コース)	15	-	60	経済学科(夜間主コース)	15	-	60	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	360	-	1,440	学校教育教員養成課程	360	-	1,440	
養護教諭養成課程	20	-	80	養護教諭養成課程	20	-	80	
理学部				理学部				
数学科	40	-	160	数学科	40	-	160	
物理学科	40	-	160	物理学科	40	-	160	
基礎化学科	50	-	200	基礎化学科	50	-	200	
分子生物学科	40	-	160	分子生物学科	40	-	160	
生体制御学科	40	-	160	生体制御学科	40	-	160	
工学部				工学部				
機械工学・システムデザイン学科	110	-	440	機械工学・システムデザイン学科	110	-	440	
電気電子物理工学科	110	-	440	電気電子物理工学科	110	-	440	
情報工学科	80	-	320	情報工学科	80	-	320	
応用化学科	90	-	360	応用化学科	90	-	360	
環境社会デザイン学科	100	-	400	環境社会デザイン学科	100	-	400	
計	3年次			計	3年次			
	1,535	40	6,220		1,535	40	6,220	
埼玉大学大学院				埼玉大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				
文化環境専攻(M)	20	-	40	文化環境専攻(M)	20	-	40	
国際日本アジア専攻(M)	38	-	76	国際日本アジア専攻(M)	38	-	76	
経済経営専攻(M)	22	-	44	経済経営専攻(M)	22	-	44	
日本アジア文化専攻(D)	4	-	12	日本アジア文化専攻(D)	4	-	12	
経済経営専攻(D)	12	-	36	経済経営専攻(D)	12	-	36	
教育学研究科				教育学研究科				
学校教育専攻(M)	15	-	30	学校教育専攻(M)	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
教科教育専攻(M)	27	-	54	教科教育専攻(M)	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
教職実践専攻(P)	20	-	40	教職実践専攻(P)	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
				教職実践専攻(P)	52	-	104	研究科の専攻の設置(事前伺い)
理工学研究科				理工学研究科				
生命科学系専攻(M)	55	-	110	生命科学系専攻(M)	55	-	110	
物理機能系専攻(M)	59	-	118	物理機能系専攻(M)	59	-	118	
化学系専攻(M)	65	-	130	化学系専攻(M)	65	-	130	
数理電子情報系専攻(M)	108	-	216	数理電子情報系専攻(M)	108	-	216	
機械科学系専攻(M)	59	-	118	機械科学系専攻(M)	59	-	118	
環境システム工学系専攻(M)	62	-	124	環境システム工学系専攻(M)	62	-	124	
理工学専攻(D)	56	-	168	理工学専攻(D)	56	-	168	
計	622	-	1,316	計	612	-	1,296	